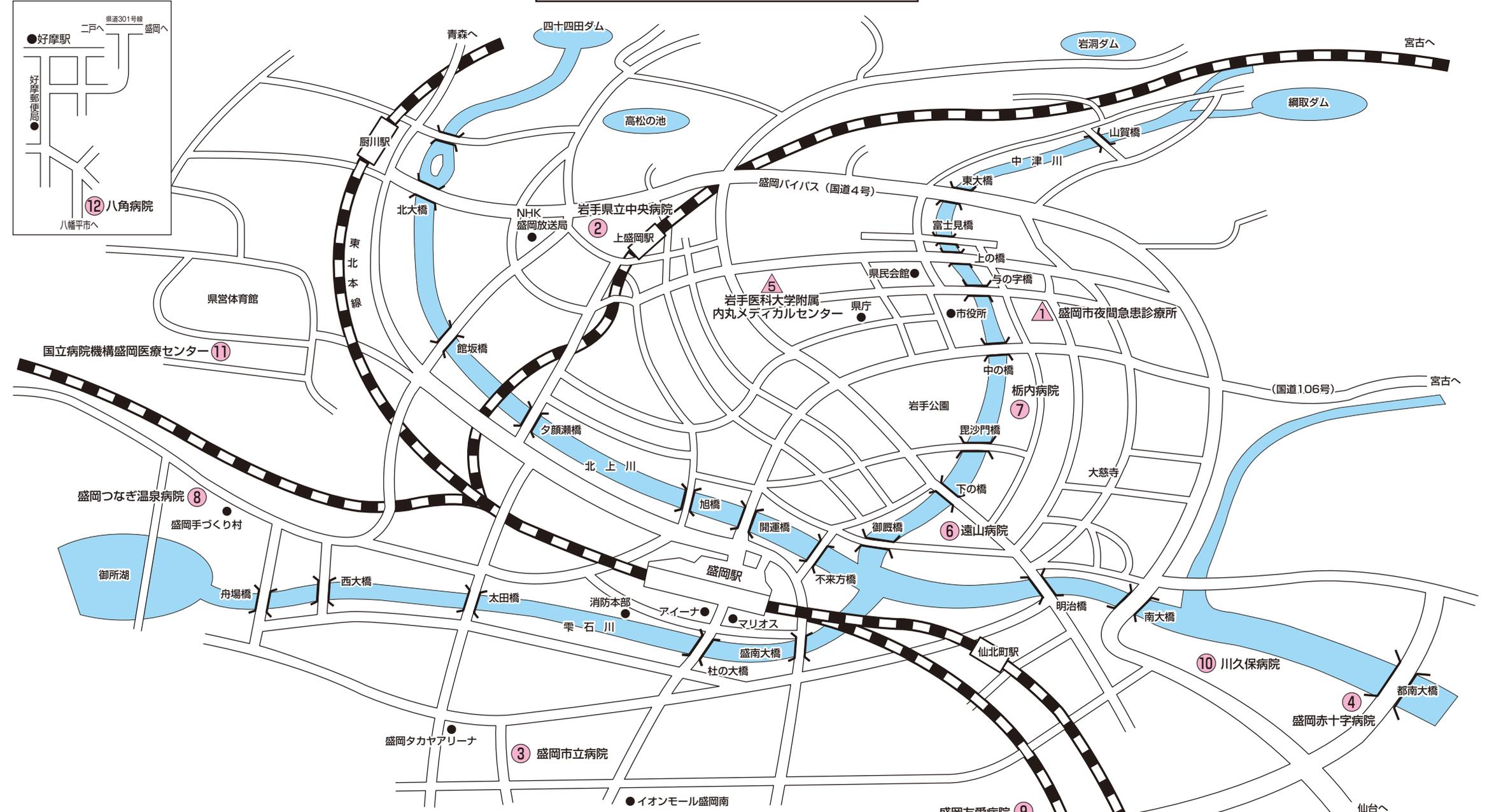


盛岡地区
救急医療体制
のあゆみ

2023

盛 岡 市
盛 岡 市 医 師 会
盛岡地区二次救急医療対策委員会

盛岡地区救急医療施設配置図



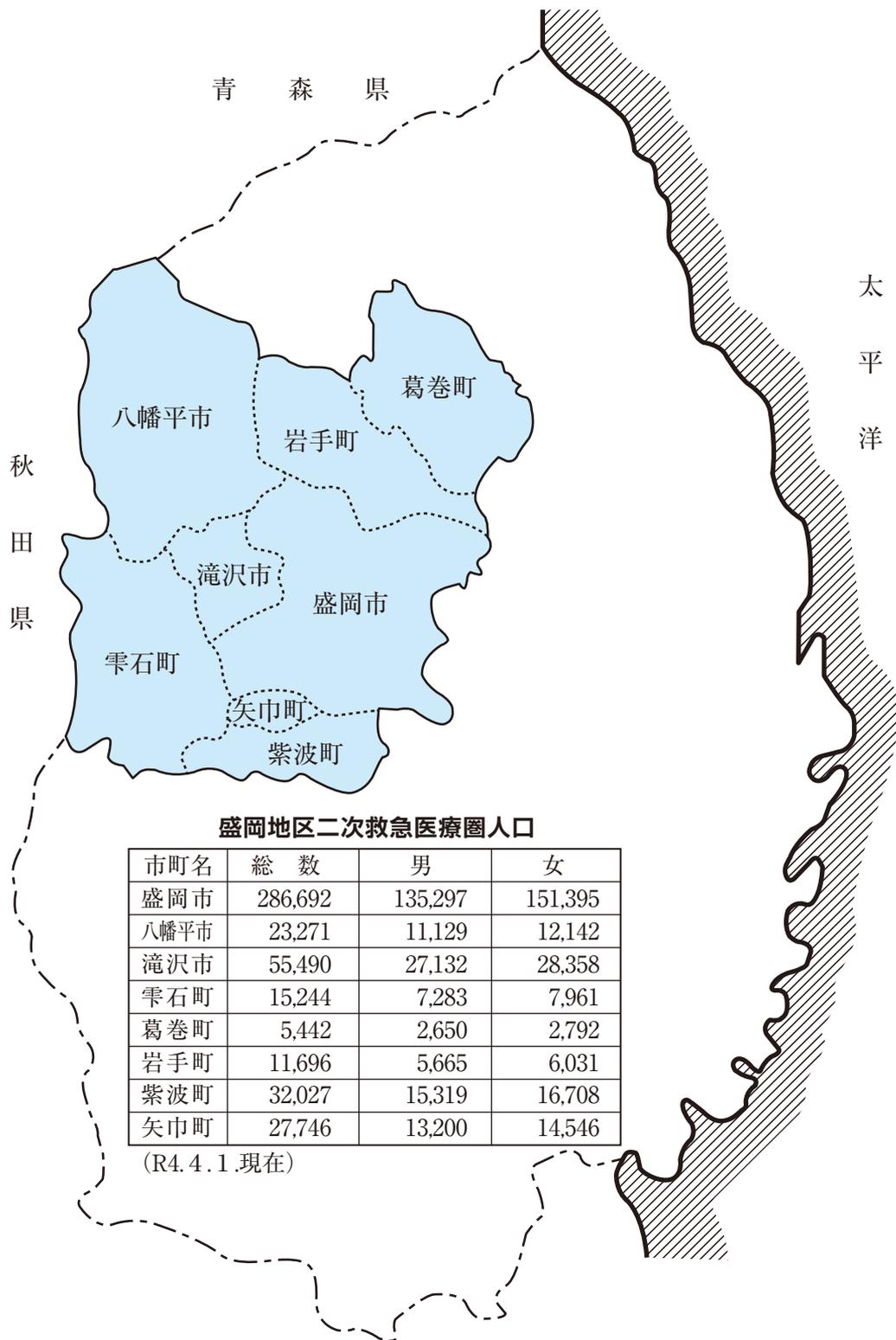
△1—盛岡市夜間急患診療所 神明町3-29 TEL 654-1080	⑧—盛岡つなぎ温泉病院 繫字尾入野64-9 TEL 689-2101
②—岩手県立中央病院 上田一丁目4-1 TEL 653-1151	⑨—盛岡友愛病院 永井12-10 TEL 638-2222
③—盛岡市立病院 本宮五丁目15-1 TEL 635-0101	⑩—川久保病院 津志田26-30-1 TEL 635-1305
④—盛岡赤十字病院 三本柳6-1-1 TEL 637-3111	⑪—国立病院機構盛岡医療センター 青山一丁目25-1 TEL 647-2195
△5—岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 内丸19-1 TEL 613-6111	⑫—八角病院 好摩字夏間木70-190 TEL 682-0201
⑥—遠山病院 下ノ橋町6-14 TEL 651-2111	⑬—岩手医科大学附属病院 岩手県高度救命救急センター 矢巾町医大通二丁目1-1 TEL 613-7111
⑦—栃内病院 肴町2-28 TEL 623-1316	

(令和4年12月現在)



盛岡地区二次救急医療圏

(3市5町)



盛岡地区二次救急医療圏人口

市町名	総数	男	女
盛岡市	286,692	135,297	151,395
八幡平市	23,271	11,129	12,142
滝沢市	55,490	27,132	28,358
雫石町	15,244	7,283	7,961
葛巻町	5,442	2,650	2,792
岩手町	11,696	5,665	6,031
紫波町	32,027	15,319	16,708
矢巾町	27,746	13,200	14,546

(R4.4.1.現在)

宮城県

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」2023年版

目次			
序	盛岡市医師会会長		
	盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長	吉田 耕太郎	6
挨拶	岩手県県央保健所 所長	仲本 光一	7
	盛岡地区広域消防組合 消防長	米澤 正幸	8
I	盛岡市夜間急患診療所 46年目のあゆみ		9
1.	実態報告		9
2.	経過報告・決算・予算		13
3.	診療所日誌から		14
4.	診療所の現状		19
①	出勤医名簿		19
②	役職員名簿		23
5.	運営協議会		24
	令和4年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会		24
	令和4年度第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会		26
II	岩手県高度救命救急センター報告		27
1.	疾病別患者数（令和4年）		28
2.	来院時間帯別入院患者数		29
3.	地域別入院患者数		29
4.	搬入先・搬入方法別入院患者数		30
5.	主な手術件数および内視鏡的治療件数		30
III	お盆及び年末年始の救急医療		31
1.	令和4年度お盆休み期間中の外来患者実態調査報告		31
2.	令和4年度年末年始外来患者実態調査報告		39
IV	盛岡地区二次救急医療体制 43年目のあゆみ		47
1.	実態報告		47
2.	経過報告		100
3.	盛岡地区二次救急医療対策委員会		102
4.	盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会		108
5.	盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会		109
6.	第39回救急医療学術講演会（初期・二次・高次救急医療研修会）		114

7. 岩手県小児救急電話相談事業（令和4年1月から令和4年12月までのまとめ）	119
V 救急医療年譜	125
VI 規程・協定書及び設置要項等資料	128
1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則	128
2. 災害時の医療救護活動に関する協定書	129
① 岩手県と岩手県医師会との協定書	130
② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書	132
③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書	134
3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項	136
VII 編集後記	138



序 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」

盛岡市医師会会長
盛岡地区二次救急医療対策委員会 委員長

吉 田 耕太郎

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2023」の発行にあたりご挨拶申し上げます。

盛岡地区救急医療体制は昭和 51 年に「夜間急患診療所」が開設され、54 年には「盛岡地区二次救急医療体制」の運用が開始されました。さらに昭和 55 年には「高次救急センター」の開設、平成 24 年からはドクターヘリの運行も開始され、救急医療体制が整備され運用されて来ました。その後 4 年前に岩手医科大学附属病院が矢巾に移転した事で救急医療体制の維持が不安視されましたが、皆様方のご尽力で堅持されています。また、昨年から県立中央病院が救命救急センターに指定されて三次救急の更なる充実に貢献されています。初期から体制整備にご尽力を頂いた多くの方々と現在も運用にご協力されている全ての関係各位に心から感謝致します。

4 年前に発症した新型コロナウイルス感染症の蔓延でここ数年コロナ関連の救急搬送困難例が全国的に問題になりましたが、盛岡圏域でも同様の問題が生じていました。新型コロナウイルス感染症が 5 月 8 日から 5 類に移行しましたがウイルスが終息した訳ではありません。さらに新興感染症や災害の発生を想定して、今後も診療所、病院、救急隊、行政等の密なる連携はさらに必要になると思いますので関係各位のご協力の程よろしくお願い致します。。

この感染症とは別に高齢化に伴う救急搬送についても対応が必要になっています。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の浸透、DNAR（DoNotAttemptResuscitation）に関連した問題は患者さんのみならず家族の方々の十分な理解が必要です。今後、住民への正確な情報提供に取り組んでいきたいと思ひます。

今後も盛岡地区救急医療体制維持に皆様のご協力のほど宜しくお願い致します。



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ — 2023 —」に寄せて

岩手県県央保健所

所 長 仲 本 光 一

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ—2023—」の発刊に当たり、一言御挨拶申し上げます。盛岡保健医療圏域の救急医療対策の推進につきましては、盛岡市、岩手西北、紫波郡の各医師会、管内の医療機関、そして消防機関及び行政機関ならびに多くの関係団体の御協力とご支援のもと、当圏域における救急医療体制は円滑に推進されており、関係各位の御尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

当圏域の救急医療体制は、昭和51年の「夜間急患診療所」設置から始まり、同54年には「盛岡地区二次救急体制」が運用を開始し、同55年には「高次救急センター」が岩手医科大学附属病院に併設されて現在体制が出来上がり、さらに、平成24年からの「ドクターヘリ」の本格運用や平成31年の岩手医科大学附属病院（岩手県高度救命救急センター）の矢巾町へ新築移転や令和4年の県立中央病院の救急救命センター指定などによりますます充実してきました。これに伴い、当圏域では、一次・二次救急患者に加えて県下の三次救急患者を受入れており、県全域での高度救命医療の提供に大きく貢献しており、圏域の関係各位の熱意と努力に心から感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症まん延等においては、救急外来や入院病床における複合的な要因によって、救急患者の受入れが困難になる事例が全国的に増加しました。当圏域におきましては、休日救急当番医や初期救急医療機関、救急指定病院、二次輪番体制に参加されている二次救急入院受入病院の献身的な取組と役割分担により救急医療体制が構築されているところでありますが、救急車の不要不急の利用は、消防機関の負担になるばかりか救急医療機関にも過大な負担となることから、本県では、「県民みんなで支える岩手の地域医療推進運動」を展開し、救急車の適切な利用や適性受診の普及啓発に取り組んでおります。また、本年5月から新型コロナウイルス感染症の感染法上の5類移行に伴い、救急医療体制を守り、広く医療機関で対応ができるよう、管内の全ての病院間で連絡会議を開催し、地域の医療機関が一体となった医療機関間の連携による入院医療提供体制の確立に取り組んでまいります。先輩諸先生方が築き、たゆまぬ努力で運営されてきた救急医療がこれからも適切に確保されますよう、保健所は地域の皆様に御理解をいただくよう努めてまいりますので、救急医療に携わる皆様には、引き続き御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、盛岡地区において救急医療体制の運営に携わる盛岡市医師会の諸先生をはじめ、関係各位の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ - 2023 -」に寄せて

盛岡地区広域消防組合

消防長 米澤 正幸

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ-2023-」の発刊に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から当消防組合の救急業務の円滑な推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

盛岡地区の救急医療体制につきましては、盛岡市医師会、岩手西北医師会、紫波郡医師会及び関係医療機関のご尽力により、盛岡地域メディカルコントロール協議会、初期救急医療、二次救急医療及び三次救急医療の体制が確立されるとともに、二次救急病院及び小児救急病院の輪番体制が定着し、救急医療が円滑に行われておりますことに深く感謝を申し上げます。

さて、当消防組合における令和4年の救急出動件数は、前年に比べて1,676件増の19,182件となり、広域消防組合発足以来の最大の件数となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染疑い及び陽性患者の救急事案にあつては、令和2年2月26日から令和5年5月7日までに917人を搬送するとともに、保健所との協定に基づく陽性患者を278人移送したほか、感染症法上の位置付けが5類感染症に変更となった令和5年5月8日以降は、5月31日までに33人の陽性患者を救急搬送しております。

当消防組合としましては、令和5年1月のニューヨーク・タイムズ紙の「2023年に行くべき52か所」において、盛岡市が「歩いて回れる宝石的スポット」としてイギリスのロンドンに次ぎ2番目に紹介されるなど、世界からも注目される観光地となり、今後は観光客の増加も見込まれることから、引き続き高まる救急需要に対し、適切に対処するとともに、新型コロナウイルス感染症に限らず、多種多様な救急業務を適切に遂行するためには、救急隊員の感染防止対策が重要でありますことから、「救急隊の感染防止対策マニュアル」を策定し、全ての救急事案でN95マスクの着用と感染防止衣を上下着装するとともに、引き続き細心の注意を払い活動しているところであります。

今後におきましても、増加が見込まれる救急需要への対応はもとより、あらゆる感染症への臨機応変な対応、救急隊員の教育訓練の充実、救急救命士及び指導救命士の養成と円滑な運用、岩手県ドクターヘリとの連携による救急体制の強化など、関係機関のご理解とご協力をいただきながら救急業務の高度化を積極的に推進し、地域住民の信頼と負託に応えるよう一層努力して参る所存であります。

結びに、プレホスピタルケアの充実と社会的要請に応えるため、引き続き救急隊員に対し、より一層のご指導とご鞭撻を賜りますとともに、盛岡市医師会のますますのご発展と皆様方の更なるご活躍を祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

I 盛岡市夜間急患診療所 46年目のあゆみ

1. 実態報告

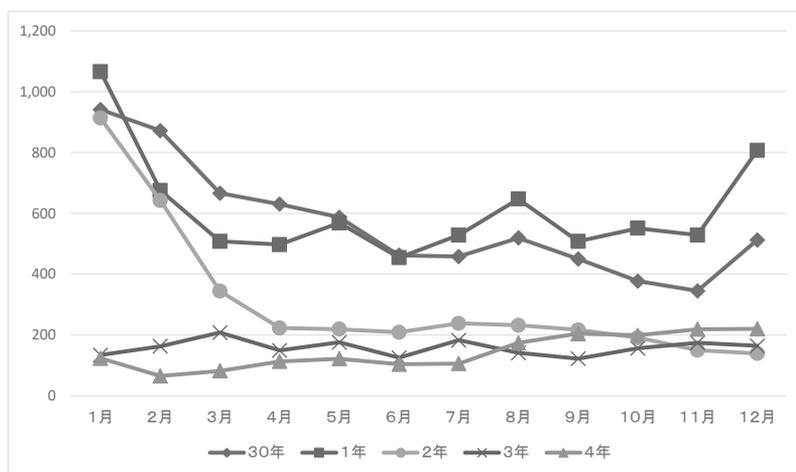
盛岡市医師会、盛岡市夜間急患診療所運営協議会委員

吉田 耕太郎 ・ 金子 博 純 ・ 工 藤 卓 次
金 濱 誠 己 ・ 久保田 公 宜 ・ 小 林 有 一
西 島 浅 香 ・ 中 村 富 雄

盛岡市、盛岡市夜間急患診療所運営協議会事務局 ※R 4.12.31 現在

図1 過去5年間の月別患者分布 (人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
30年	941	872	666	630	587	462	458	519	450	377	345	512	6,819	18.7
1年	1,066	675	508	497	568	454	528	647	508	551	528	807	7,337	20.1
2年	913	642	344	223	219	209	238	232	217	191	150	139	3,717	10.2
3年	134	163	208	149	176	125	183	141	122	156	174	164	1,895	5.2
4年	123	65	82	113	122	104	106	174	204	199	219	220	1,731	4.7



表(1) 患者総数及び科別実績 (人)

区分	月												合計	比率 (%)	前年 実績	増減	
	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
患者総数	123	65	82	113	122	104	106	174	204	199	219	220	1,731	100.0	1,895	△164	
一日患者数	(4.0)	(2.3)	(2.6)	(3.8)	(3.9)	(3.5)	(3.4)	(5.6)	(6.8)	(6.4)	(7.3)	(7.1)	(4.7)		(5.2)	(△0.4)	
科別	内科	47	18	31	31	37	33	27	88	96	81	113	116	718	41.5	597	121
		(1.5)	(0.6)	(1.0)	(1.0)	(1.2)	(1.1)	(0.9)	(2.8)	(3.2)	(2.6)	(3.8)	(3.7)	(2.0)		(1.6)	(0.3)
小児科	76	47	51	82	85	71	79	86	108	118	106	104	1,013	58.5	1,298	△285	
	(2.5)	(1.7)	(1.6)	(2.7)	(2.7)	(2.4)	(2.5)	(2.8)	(3.6)	(3.8)	(3.5)	(3.4)	(2.8)		(3.6)	(△0.8)	

- ・患者総数は1,731人で前年より164人の減。
- ・一日の患者数は平均4.7人。年間を通じては12月が最も多かった。
- ・内科と小児科との利用割合は、内科41.5%、小児科58.5%。患者の約6割が小児科で占められている。
- ・8月からドライブスルー形式の発熱外来を実施したことから、患者数が増加したものと推測される。

表(2) 年齢別患者分布

(人)

年齢	月	4年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
年 齢 別	0	12	7	9	12	11	9	12	12	19	42	10	7	162	9.4	166	△ 4
	1～5	46	31	31	47	46	39	35	46	53	44	49	56	523	30.2	726	△ 203
	6～12	16	6	11	21	25	21	29	20	32	34	37	30	282	16.3	342	△ 60
	13～15	3	3	0	3	3	3	3	8	7	7	10	12	62	3.6	66	△ 4
	16～24	2	2	6	6	7	7	5	19	18	13	22	23	130	7.5	113	17
	25～34	9	7	3	8	6	9	5	13	19	16	23	27	145	8.4	121	24
	35～44	8	1	3	5	7	5	5	9	14	13	26	13	109	6.3	114	△ 5
	45～54	10	4	8	3	9	3	5	17	15	11	24	25	134	7.7	74	60
	55～64	4	0	3	2	5	2	3	12	11	9	10	15	76	4.4	71	5
	65～74	7	1	4	2	1	2	2	11	9	5	4	5	53	3.1	51	2
75～	6	3	4	4	2	4	2	7	7	5	4	7	55	3.2	51	4	
計														1,731	100.0	1,895	△ 164

・年齢別では、1～5歳児が最も多く、全体の30.2%を占めている。

表(3) 地域別患者分布

(人)

地域	月	4年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
地 域 別	盛岡市	95	48	65	91	96	79	81	130	159	158	173	180	1,355	78.3	1,457	△ 102
	雫石町	1	1	0	0	1	2	2	2	2	2	1	3	17	1.0	30	△ 13
	葛巻町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	1
	岩手町	0	1	2	1	0	0	4	0	1	0	0	0	9	0.5	11	△ 2
	八幡平市	0	0	1	0	3	2	0	4	2	0	1	0	13	0.8	21	△ 8
	滝沢市	12	13	4	15	13	10	8	14	20	16	27	23	175	10.1	175	0
	紫波町	5	1	1	3	4	8	3	5	8	7	5	5	55	3.2	77	△ 22
	矢巾町	2	0	4	0	3	3	4	9	9	9	6	5	54	3.1	73	△ 19
	その他の県内	4	0	2	1	0	0	3	1	0	3	2	2	18	1.0	26	△ 8
	県外	4	1	3	1	2	0	1	9	3	4	4	2	34	2.0	25	9
計														1,731	100.0	1,895	△ 164

・地域別で1番多いのは盛岡市の1,355人(全体比78.3%)。前年より102人減。

・盛岡市に次いで2番目に多いのは滝沢市の175人(同10.1%)、3番目が紫波町の55人(3.2%)。

表（４） 曜日別患者分布

(人)

曜日		4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
曜 日 別	月	18	8	11	16	16	18	15	32	25	28	23	30	240	13.9	214	26
	火	12	12	10	11	17	11	6	22	22	12	25	20	180	10.4	188	△ 8
	水	18	8	12	11	31	12	17	23	20	23	40	28	243	14.0	256	△ 13
	木	11	11	12	15	12	15	9	12	22	19	28	27	193	11.1	270	△ 77
	金	9	7	11	13	15	9	12	13	26	17	24	33	189	10.9	247	△ 58
	土	28	11	13	27	19	25	34	37	51	49	48	52	394	22.8	423	△ 29
	日	27	8	13	20	12	14	13	35	38	51	31	30	292	16.9	297	△ 5
計														1,731	100.0	1,895	△164

・曜日別では、土・日曜が多くなっており、合わせて 39.7% を占めている。

表（５） 時間帯別患者分布

(人)

時間帯		4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時 間 帯 別	午後 7:00～	39	15	28	40	34	35	40	49	81	69	105	87	622	35.9	658	△ 36
	午後 8:00～	36	23	24	29	41	38	33	53	68	65	74	69	553	31.9	574	△ 21
	午後 9:00～	28	13	20	26	27	17	23	42	38	40	24	45	343	19.8	411	△ 68
	午後 10:00～	20	14	10	18	19	13	10	30	16	24	15	17	206	11.9	248	△ 42
	午後 11:00～	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	2	7	0.4	4	3
計														1,731	100.0	1,895	△ 164

・時間帯別では、午後 7:00～8:00 までが多く、35.9% を占めている。

表（６） 時間帯別有救急度患者分布

(人)

時間帯		4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時 間 帯 別	午後 7:00～	9	2	1	0	4	7	6	4	12	9	20	34	108	37.6	93	15
	午後 8:00～	9	5	3	1	7	5	6	6	15	9	8	14	88	30.7	105	△ 17
	午後 9:00～	7	1	1	3	8	4	2	5	9	3	4	6	53	18.5	89	△ 36
	午後 10:00～	5	1	1	2	3	1	1	7	2	5	1	4	33	11.5	47	△ 14
	午後 11:00～	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	5	1.7	0	5
計														287	100.0	334	△ 47

・有救急度患者は患者全体の 16.6% を占め、時間帯別では、午後 7:00～8:00 までが多く、37.6% を占めている

表（７） その他事項別人数

(人)

事項	月	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
電 話 問 合	医師指導	11	9	9	0	16	4	13	2	3	3	3	4	77	1.5	108	△ 31
	看護師等助言	286	271	271	357	377	324	453	488	490	467	550	596	4,930	97.7	4,235	695
救急車搬入		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
二次救急転送		5	2	3	1	4	4	3	5	4	4	1	3	39	0.8	40	△ 1
計														5,046	100.0	4,383	663

・電話問合に対する看護師等の助言件数は 4,930 件で前年より 695 件増加した。

表（８） 転送先二次・三次救急病院別診療科別患者分布（令和４年１月～令和４年１２月）

救急病院	診療科	内科	小児科	外科	耳鼻科	泌尿器科	眼科	産婦人科	歯科	計
岩手県高度救命救急センター										0
岩手県立中央病院		16	11							27
盛岡市立病院										0
盛岡赤十字病院		1	3							4
岩手医科大学附属病院		2								2
遠山病院										0
栃内病院										0
高松病院										0
盛岡つなぎ温泉病院										0
友愛病院										0
川久保病院										0
盛岡医療センター			7							7
盛岡療育センター										0
計		19	21	0	0	0	0	0	0	40
比率（％）		47.5	52.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

・内科が47.5%、小児科が52.5%を占めている。

・昨年に引き続き、岩手県立中央病院が最も多く、転送件数の半数以上(67.5%)を占めている。

表（９） 転送患者疾患別分類（令和４年１月～令和４年１２月）

疾患名	人	疾患名	人
胃・腸炎（急性・感冒性他）	1	気管支炎（急性・喘息様他）	2
虫垂炎	5	気管支喘息	4
急性腹症	5	上気道炎（急性他）	1
腸重積	1	肺炎	1
腹痛	1	その他呼吸器系	1
便秘		インフルエンザ	
イレウス	2	心臓疾患等循環器系	2
その他消化器系		脳血管障害等循環器系	
脱水症	1	尿管結石等泌尿器系	
嘔吐		その他	13
じんま疹・アナフィラキシー		計	40

・消化器系が約38%、呼吸器系が約23%を占めている。

2. 経過報告・決算・予算

経過報告

令和4年8月25日

令和4年9月8日

令和4年9月27日

第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

盛岡市夜間急患診療所運営協議会（書面）

予算・決算

歳入

(円)

科目	3年度決算	4年度予算	説明
使用料	21,340,878	57,667,000	診療報酬収入
県補助金	0	0	運営費補助金
雑入	220	1,000	事務手数料等
合計	21,341,098	57,668,000	

歳出

(円)

科目	3年度決算	4年度予算	説明
報酬	16,297,598	17,077,000	管理者、看護師報酬
共済費	2,094,910	2,275,000	社会保険料
報償金	0	192,000	運営協議会委員謝金
旅費	264,788	277,000	研修会参加旅費、看護師通勤手当
需用費	1,822,210	5,127,000	消耗品、燃料、食糧、印刷、修繕、医薬材料
役務費	485,315	454,000	医療事故賠償保険、電話料、洗濯代
委託料	52,745,257	53,264,000	医療事務委託料、診療業務委託料等
使用料及び賃借料	1,928,965	2,647,000	医事会計システム借上料等
備品購入費	0	0	機械器具購入費
合計	75,639,043	81,313,000	

3. 診療日誌から

内 科

令和4年1月4日(火) H.T

仕事始め
オミクロン株 岩手で5人。早く5類に。
経済復興と学業、人の交流が必要。

令和4年1月27日(木) M.I

本日受診者ゼロ
電話相談1名
K.K先生(R3.11.29)
苦節30年、大変お疲れ様でした。
私は“苦節”と言える程の働きはしておりませんが、来年で出勤40年になります。とても愛着を感じておりますので、それまでは働きたいと思っております。

令和4年2月4日(金) K.A

0名でした。

令和4年2月5日(土) T.S

0名

令和4年2月6日(日) S.O

0名でした。

令和4年2月23日(水) K.K

コロナ、インフル、etc、熱発患者は診ないとなると患者さんは減りますね・・・
前回は0、今回も1名ということになりそうです。

令和4年3月21日(月) H.T

今日、ユニバースの近くを通ったら、4～5人の人が青と黄色の旗をかかげて「戦争反

対」を叫んでいる。「盛岡も国際的になったな。」と思ったが、そばに〇〇〇〇党の旗が見えてシラけた気分になった。

令和4年4月12日(火) J.K

After a perfect game of the pitcher Rouki Sasaki, a patient was zero today!!

↓

正しい表現ではないと思うがそのまま

令和4年5月12日(木) K.K

5/3のI先生の日、H・Zと思しき患者1晩で3名!

この頃私の医院でもH・Z患者多い傾向。もしかしてコロナワクチンと関係あるのか? と思っている。皆さんどうですか。そういう傾向ありませんか?

令和4年6月19日(日) T.Y

1名のみ 腹痛
0名と書こうとした10:50受診

令和4年7月7日(木) K.K

本日0名でした。
このコロナ禍の2年半の出勤の平均患者数は1を切っている。
良い事なのか悪い事なのか。
「診療マニュアル」で事実上発熱患者を診ない事は、今後も継続すべきなのか否か。再考すべき時期に来ていると思う。

令和4年7月8日(金) M.I

安倍元首相、奈良市内で演説中に銃撃され

17:03 死亡

令和4年7月29日(金) Y.K

最近のコロナ届出数から推測するとかかなりの診療所でコロナの検査が行われていると思います。

ここでも抗原検査をした方がよい(たとえば車で)のではないのでしょうか?

令和4年8月18日(木) K.K

本日も0人でした。

お盆期間中、発熱外来に出動された先生方には感謝申し上げます。ありがとうございました。しかし、現在の二次救急病院の先生方の御苦勞、窮状を見聞きしますと、もっとお手伝いしなければいけないと思っています。

令和4年9月12日(月) K.M

発熱外来5人中3人コロナ陽性

本日より平日発熱外来開始とのこと。16日よりラゲブリオが一般薬扱いとなることですので用意しておいた方がよいと思います。

令和4年9月19日(日) N.C

検査をしようと1Fプレハブに行ったところ先に着がえていた小児科のU先生がついでだからと検査を一緒にしてもらいました。どうもありがとうございました。

令和4年11月2日(水) M.K

・発熱外来4名 全て陽性

令和4年11月5日(土) H.Y

COVID-19は7名中6名⊕

令和4年11月20日(日) H.K

発熱外来7名うち6名COVID-19陽性

令和4年11月24日(木) Y.K

発熱外来でインフルエンザの検査もできた方がよいと思いました。

令和4年12月25日(日) J.O

4.12.26 本日より同時検査キット採用することとなります。

企画総務課

小児科

令和4年1月3日(月) A.N

久しぶりの夜間診療所勤務です。

何と21:40頃突然火災警報がなりはじめました。火元は2階との事!!でも全くその気配はありません。

誤作動のようでしたが、ビックリ。

はじめて消火栓の設置場所を確認しました。患者さん5名

令和4年1月19日(水) T.T

オミクロン益々拡大。5才以上の小児のワクチン開始予定、小児科医の役割重要。

小児科 5名

発熱 2名

喘息強い8ヶ月児 医療センター

S先生に紹介。多謝

内科 1名

令和4年1月27日(木) Y.F

新型コロナ患者、本日139名だそうです。

県は体調の悪い人は外出しないようにとよびかけていました。

それで、1名の来院、2才の発熱でした。

令和4年2月4日(金) T.T

コロナ感染拡大!!寒さ厳しい折ではありますが、本日は立春。早く自由に動ける春が来る事を祈るばかりです。

小児科1名

嘔吐2才、1才

内科0名

令和4年2月17日(木) Y.M

急患1名

20:30頃、突然、警報が鳴りびっくりし

ました。奥の隔離室を喚起すると室外と室内の温度差で作動するらしい。

令和4年3月3日(木) T.T

本日はひな祭、コロナでそれどころではない。医療機関でのコロナ感染の報告が相次いでいます。今度はステルスオミクロン(BA2)の流行!!ウクライナ心配

小児科1名

内科 0名

令和4年4月13日(水) T.T

本日は岩手県のコロナ発生過去最多431名、10才台、10才以下の発症が多い。ワクチン未接種のためか!!今度はXE まだまだ続く!

小児科 2名(咳と発熱)

内科 0名

令和4年5月1日(日) T.Y

今日から5月になってしまいました。

新型コロナウイルス感染、何のかわりもなし、同じ事やってもどうにもならないですよ。

さて、今日抗けいれん剤ブコラム4本、期限切れで廃薬とのことで、つかって(?)みました。「ゆっくり口腔粘膜へ」と投与することとのことでしたが、仲々注入出来ずちょっと力を入れたところビューと全部一挙に出てしまいました。スタッフの皆様もおどろきました。ゆっくり入れることに注意しないとね。

患者さんは1才半の発熱児と3才の嘔吐の児。3才の児は数日排便がないとのこと、浣腸しました。おとなのこぶし位のかたいまる

い便が。排便のいたさでつよく泣いていました。

令和4年5月3日(火) Y.K

小児科5名(喘息発作3名)

ここ2、3日急に寒くなったためか喘息発作の患者が増えたようである。

4月に発作を起こしたばかりなのに、予防薬の内服もなく、吸入液の手持ちもない。最終的に苦しむのは子ども本人だし、親も大変だと思うので、是非予防にもう少し力を入れてほしいものである。

令和4年5月5日(木) A.S

5月4日、休日当番でした。

前日3日に夜間診療所受診の方で一名コロナ陽性者がおりました。

状況によっては電話診で対応させていただこうと思います。

0名

いつもご出勤いただきありがとうございます。

診察につきましては、コロナの特例的な対応について通知されているところではありますが、初期救急である夜間急患診療所の診察の基本として、対面での方法をお願いしているところです。

現在、改めて診察方法について盛岡市医師会及び管理者と相談中でしたので、新しいことが決まりましたら、随時、お知らせさせていただきます。

企画総務課

令和4年5月20日(金) K.T

2名受診

電話相談1件

10ヶ月の児 引き笑いのような呼吸とのこと。

話を聞くと、吸気時の喘鳴の様なこと。呼吸苦や嘔声はないとのことだが、症状悪化時は救急受診を指示、悪化なければ明日、現在の様子を録画してかかりつけ医へ行くことも伝えた。

令和4年6月13日(月) Y.K

0名

本日は月曜日なのである程度受診は少ないと思っていましたが、結果0名でした。相変わらず、コロナ以外の感染症は少ないようです。

令和4年8月5日(金) T.T

今日の出来事、4才女児がけいれんを起こし救急車で来院、発熱もあるとのこと、コロナ調べたところ陽性であった。けいれんは熱性けいれんで、本人も元気だったので、帰宅することになったが、母から帰る足がないとの申し出あり、感染センターに連絡した。かなり時間がたってから、タクシーを手配していただいたが、皆で困った。

(病院での出来事)

平穏な1日

小児科1名

内科 0名

令和4年9月7日(水) T.T

コロナ第7波は依然としてつづいており、小児科領域の感染者も減らず!!
いつまで続くのか?

小児科1名

内科 3名

令和4年11月9日(水) T.T

コロナ第8波到達? 患者の増加著明。昨日は皆既月食心洗われました。

発熱外来に3才、1才の2名受診

2人ともコロナ陽性

令和4年11月19日(土) K.S

発熱外来7名

プレハブは寒い。12月に入ったらもっと寒くなる。エアコンの下から離れられない。足もとが冷える。何とかしてほしい!!石油ストーブの追加を!!19~21時まですごすにはきびしい。雪や雨でなくても長ぐつをはいたほうがあったかいだろうな。

令和4年11月25日(金) Y.F

1階のプレハブには火気厳禁のためストーブが設置できないとFaxが来ました。その覚悟で来ました。暗くて寒いところで待つ患者さんも大変です。何とかうまい工夫はないでしょうか。9PMまでの発熱外来小児は2例ともCOVID-19抗原は陰性でした。内科成人は陽性が多かったようです。

小児科2名のみ。

4.11.28 企画総務課確認

令和4年12月17日(土) K.S

ここではインフルエンザの検査ができないようですが、夜にインフルエンザ検査を希望する人達はどこへ行けばいいのでしょうか。コロナの検査はしなくても薬のあるインフルエンザ検査をしたほうが合理的に思います。コロナ陽性あるいは濃厚接触者の腹痛の訴えを診察する所がなくて困ってます。

急患4人

(コロナ感染1人)

消防法のどういうところが、電気ストーブ、石油ストーブが使えないということになるのでしょうか。

令和4年12月21日(水) A.K

・発熱外来2名 2名ともコロナ⊕

・一般外来

電話問い合わせ2件

・3才発熱 元気

・いすからおちて頭打った2才、吐いたインフルエンザが流行しているので、インフルエンザの抗原キットとタミフルを置けば、夜間急患センターの意義が大きくなると思います。コロナよりも効果があると思います。

4.12.22 企画総務課確認済

12/26(月)からインフルエンザとコロナ同時検査実施予定です。

4. 診療所の現状

① 夜間急患診療所出動医名簿

令和4年1月1日～令和4年12月31日

青山 洋 二	向中野二丁目 54-18	ゆい内科呼吸器科クリニック
朝倉 慎 一	茶畑一丁目 8-2	あさくらクリニック
朝倉 賀 子	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
阿部 弘 一	菜園二丁目 5-29	あべ菜園内科クリニック
阿部 礼 司	長橋町 17-45	あべ内科・消化器科クリニック
池田 亘 政	上太田弘法清水 10-3	池田内科
石井 基 弘	東緑が丘 23-26	石井内科消化器科医院
石井 基 嗣	中ノ橋通一丁目 4-20 水晶堂ビル 4F	いしい内科・糖尿病クリニック
板澤 正 明	中央通一丁目 7-25 1F	ポランの内科クリニック
伊藤 俊 一	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
伊藤 雅 天	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
上原 充 郎	岩手郡雫石町八卦 1-16	上原小児科医院
臼井 由紀子	松園二丁目 2-10	臼井循環器呼吸器内科
鵜浦 真 伍	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 消化器内科
梅木 郁 美	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
永塚 健	緑が丘四丁目 1-7	えいづか内科胃腸科クリニック
小穴 修 平	永井 17 地割 36-1	いわて飯岡駅前内科クリニック
及川 寛 太	上田一丁目 18-38	おいかわ内科クリニック
及川 慶 介	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
大浦 雅 之	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
大澤 宏 之	茶畑二丁目 8-3	大澤クリニック
大庭 英 樹	盛岡駅前通 13-8	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック
大平 篤 志	梨木町 2-2	おおひら内科循環器科クリニック
大屋 敬一郎	西青山一丁目 16-43	大屋内科胃腸科クリニック
荻野 義 信	本宮一丁目 6-12	荻野病院
沖村 聖 人	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
小田 淳 一	みたけ四丁目 36-32	盛岡さくらクリニック
小田 翔 一	八幡平市大更 25-328-1	八幡平市立病院
小野寺 けい子	津志田 26-30-1	川久保病院 小児科
戒能 明	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
角田 亮	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
桂 永 行	本宮字小板小瀬 13-2	かつら内科クリニック

加藤隆幸	天神町 11-8	加賀野消化器内科・内科クリニック
加藤幸	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
金澤格	上堂一丁目 18-24	かなざわ内科クリニック
金矢宣紀	津志田中央三丁目 7-7	循環器内科 金矢クリニック
金山広海	浅岸一丁目 12-22	かなやま内科医院
金子能人	月が丘一丁目 1-63	かねこ内科クリニック
金子博純	乙部 13-135-3	金子胃腸科内科
金濱誠己	向中野三丁目 10-6	杜のこどもクリニック
鎌田広基	本宮二丁目 20-1	鎌田内科クリニック
鎌田潤也	大通二丁目 7-23	おおどおり鎌田内科クリニック
川村光郎	志家町 4-4	川村内科医院
菅野啓一	山岸二丁目 11-36	菅野小児科医院
菊池光洋	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 放射線科
金正門	向中野五丁目 18-30	まさと脳神経内科クリニック
金野寛史	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
久喜寛之	緑が丘三丁目 2-34	久喜内科・脳神経内科医院
工藤真大	中ノ橋通一丁目 7-13	工藤内科ハートクリニック
工藤卓次	前九年三丁目 16-15	くどう医院
工藤宏紀	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
久保田公宜	大館町 26-10	久保田医院
肥田龍彦	菜園一丁目 4-7	菜園循環器内科医院
小坂崇	永井 19-258-1	小坂内科消化器科クリニック
児島陽一	みたけ三丁目 11-36	児島内科医院
小谷康慈	上厨川字横長根 76-3	こたに内科・甲状腺クリニック
小林有一	三本柳 11-12-4	小林小児科クリニック
小林仁	盛岡駅西通二丁目 9-1	マリオス小林内科クリニック
近藤大樹	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
齋藤明宏	月が丘二丁目 2-60	さいとう小児科クリニック
齊藤慎二	みたけ四丁目 11-46	みたけ消化器内科クリニック
斉藤宏之	みたけ二丁目 21-42	みんなのクリニック
佐々木正孝	中野一丁目 27-10	ささき医院
佐々木達哉	永井 12-10	盛岡友愛病院
佐々木透	高松二丁目 27-27	おはようクリニック
佐々木朋子	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
佐藤公也	大通三丁目 1-24	佐藤内科クリニック
佐藤邦彦	中ノ橋通二丁目 3-2	もりおか胃腸科内科クリニック

佐藤由香子	下ノ橋町 4-15	船山内科クリニック
澤田哲伸	上田一丁目 6-11	澤田内科医院
清水潤	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
小豆嶋立頼	仙北三丁目 13-20	小豆嶋胃腸科内科クリニック
鈴木康之	北松園二丁目 15-4	内科クリニックすずき
鈴木知己	八幡町 2-17	鈴木内科医院
鈴木一彦	津志田 13-18-4	盛岡南病院
鈴木啓二郎	下米内二丁目 4-12	中津川病院
鈴木俊洋	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
瀬川昂史	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 放射線科
高野長邦	三本柳 6-1-1	盛岡赤十字病院 小児科
高橋明雄	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
高橋進	下米内二丁目 4-12	中津川病院
滝川佐波子	西松園三丁目 22-1	西松園内科医院
竹井孝文	菜園一丁目 6-13 公園通りプラザビル 2F	公園通りクリニック
武田薫	花巻市東宮野目第 13 地割 112	介護老人保健施設サンホーム
田中健太郎	紫波郡矢巾町大字西徳田 5-2-4	けんたろうこどもクリニック
田中洋	永井 22-29-6	田中循環器内科クリニック
田村悦子	下ノ橋町 6-14	遠山病院 内科
千田明紀	東安庭一丁目 23-60	ちだ内科・外科クリニック
千葉芳久	向中野三丁目 10-3	本宮Cクリニック
千葉直樹	中央通三丁目 1-10	ちばクリニック
千葉拓	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
栃内秀貴	神明町 10-35	栃内内科医院
中島淳	月が丘二丁目 8-30	中島内科クリニック
中塚明彦	中太田新田 25-270	なかつか消化器内科クリニック
中村義明	若園町 2-5	中村内科医院
中村富雄	上厨川字杉原 50-47	中村こどもクリニック
西島浅香	上田一丁目 19-5	西島こどもクリニック
二宮一見	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
二宮由香里	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
原田達男	山岸三丁目 2-1 山岸中央ビル 1 F	原田内科脳神経機能クリニック
樋口清一	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
平井大士	紫波町日詰字下丸森 138-2	平井医院
藤井裕	八幡平市柏台 2-8-2	東八幡平病院
藤島敏智	愛宕町 4-18	藤島内科医院

本間博	上田二丁目 20-13	本間内科医院
米沢俊一	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
前多治雄	盛岡駅前通 9-10 丸善ビル 5F	前多小児科クリニック
蒔苗剛	津志田 26-30-1	川久保病院 小児科
松嶋大	仙北二丁目 1-20	なないろのとびら診療所
三浦義孝	中野一丁目 16-10	みうら小児科
三上仁	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
水沼吉美	中央通二丁目 11-12 明治生命館 1F	水沼内科循環器クリニック
三船俊英	天昌寺町 9-10	三船内科
宮本康弘	上厨川字杉原 101-4	みやもと内科クリニック
武藤秀和	紫波町紫波中央駅前 2-3-94	紫波中央小児科
村田淳	紺屋町 3-4	村田小児科医院
村田望	北飯岡一丁目 2-25	ゆうあいの街クリニック
森ひろみ	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
守義明	本宮五丁目 15-1	盛岡市立病院 呼吸器内科
森田友明	緑が丘四丁目 1-50 アスティ緑が丘 1F	森田小児科医院
森田順	緑が丘四丁目 1-50 アスティ緑が丘 1F	森田小児科医院
森谷耕太郎	高松三丁目 11-29	森谷医院
八木耕平	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
八木千栄	北飯岡三丁目 20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
山口淑子	滝沢市鵜飼御庭田 65-2	鵜飼こどもクリニック
山田宏之	津志田中央 2-18-31	やまだ胃腸内科クリニック
吉田研一	梨木町 2-13	吉田小児科
吉田俊巳	東見前 8-20-16	吉田消化器科内科
吉田信一	西仙北一丁目 30-50	よしだクリニック
吉田太郎	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
渡邊活見	高松三丁目 9-8	わたなべ内科・脳神経内科クリニック
渡邊健	永井 12-10	盛岡友愛病院

② 役員名簿

(令和4年12月31日現在)

開設者	盛岡市長	谷 藤 裕 明
管理者	盛岡市医師会会長	吉 田 耕太郎
運営協議会		
委 員	盛岡市医師会副会長	金 子 博 純
〃	盛岡市医師会副会長	工 藤 卓 次
〃	盛岡市医師会理事	金 濱 誠 己
〃	〃	久保田 公 宜
〃	〃	小 林 有 一
〃	盛岡市医師会小児科医会会長	西 島 浅 香
〃	盛岡市医師会小児科医会理事	中 村 富 雄
〃	盛岡薬剤師会会長	佐々木 俊
〃	盛岡薬剤師会副会長	佐々木 宣 好
〃	岩手県看護協会会長	相 馬 一二三
〃	盛岡市保健福祉部保健衛生監	廣 田 喜 之
〃	盛岡市保健所次長	加 藤 彩 子
事務局	盛岡市医師会事務局長	及 川 敬一郎
〃	盛岡市医師会事務局次長	水 本 達 彦
〃	盛岡市医師会事務局係長	谷 藤 慎 治
〃	盛岡市保健所企画総務課長	相 馬 英 洋
〃	盛岡市保健所企画総務課長補佐	木 村 寛 之
〃	盛岡市保健所企画総務課企画係長	向 田 瑠 夏
〃	盛岡市保健所企画総務課企画係主査	田 沼 由紀枝

5. 運営協議会

令和4年度 第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：令和4年8月25日（木）午後7時15分
場 所：盛岡市医師会館会議室（ハイブリッド方式）



1. 会長及び副会長の選出について

会長に廣田喜之 盛岡市保健福祉部保健衛生監、副会長に金子博純 盛岡市医師会副会長が選出された。

2. 報告事項

お盆期間（8/14～8/16）及び8/20（土）・21（日）に、市夜間急患診療所において、臨時的に発熱外来を行った結果の報告があった。1日当りの受診者数は3～7名、合計で27名であった。開設時間は19時～21時、診療科は内科のみ、市ホームページ等で周知し、電話による予約とした。

3. 協議事項

新型コロナウイルス感染症による発熱患者等の診療・検査を行う医療機関の開設数が土日・祝日に減少し、二次救急医療機関の発熱外来のひっ迫等が見込まれることから、今後の発熱外来の実施について協議した。

今後の発熱外来の開設期間は9月末までの土日・祝日、開設時間は19時～21時、診療科は内科のみ、市ホームページ等で周知し、電話による予約で実施することを決定した。発熱外来の平日実施と、小児科の発熱外来の開設については今後の検討課題となった。

また現在、一部薬剤の確保が困難なことから、処方日数は5日間を上限とした。

会の中で、緊急性を優先したために夜間急患診療所運営協議会での協議を通さずに発熱外来を実施したことについて、吉田耕太郎管理者と廣田喜之運営協議会会長から経緯の説明があった。

4. その他

夜間急患診療所の移転、約束処方について検討するよう意見が出た。

（小林有一）

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名	
管理者	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	会長
委員	金子 博純	盛岡市医師会	副会長
	工藤 卓次		副会長
	金濱 誠己		理事
	久保田 公宜		理事
	小林 有一		理事
	西島 浅香		小児科医会会長
	中村 富雄		小児科医会幹事
	佐々木 俊		盛岡薬剤師会
	佐々木 宣好		副会長
	相馬 一二三	岩手県看護協会	会長
	廣田 喜之	盛岡市	保健福祉部保健衛生監
	加藤 彩子		保健所次長
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本 達彦		次長
	谷藤 慎治		係長
	相馬 英洋	盛岡市保健所	企画総務課長
	木村 寛之		企画総務課長補佐
	向田 瑠夏		企画係長

令和4年度 第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：令和4年9月8日（木） 午後1時

場 所：盛岡市医師会館会議室（ハイブリッド方式）

盛岡市医師会会長 吉田耕太郎管理者の挨拶の後、議事に入った。

ローの実際を見ながら、可能であれば受け入れ人数を増やしていく。

1. 盛岡市夜間急患診療所発熱外来の実施について

8月から土日祝のみ開設している内科患者対象の発熱外来を9月末まで継続し、9月12日(月)から全日開設とする。小児科患者については、新たに9月10日から土日祝のみ開設し、全日開設については実施状況を見ながら検討していく。

開設時間は午後7時から9時とし、発熱外来の受け入れ人数は11人とする。新たに約束処方を導入した上で、受診フ

2. 盛岡市夜間急患診療所発熱外来における約束処方について

新たに約束処方を導入する。その主な目的は、予め処方パターンを決めておくことにより、患者一人当たりの診療にかかる時間短縮を図ることと、薬剤の出荷調整に対応することである。また、処方日数は5日分を上限とすることとした。

(金濱誠己)

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名	
管理者	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	会長
委員	金子 博純	盛岡市医師会	副会長
	工藤 卓次		副会長
	金濱 誠己		理事
	久保田 公宜		理事
	小林 有一		理事
	西島 浅香		小児科医会会長
	中村 富雄	小児科医会幹事	
	佐々木 俊	盛岡薬剤師会	会長
	佐々木 宣好		副会長
	相馬 一二三	岩手県看護協会	会長
	廣田 喜之	盛岡市	保健福祉部保健衛生監
	加藤 彩子		保健所次長
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本 達彦		次長
	谷藤 慎治		係長
	相馬 英洋	盛岡市保健所	企画総務課長
	木村 寛之		企画総務課長補佐
	向田 瑠夏		企画係長

Ⅱ 岩手県高度救命救急センター報告

(令和4年1月～12月)

診療状況

1. 疾病別患者数
2. 来院時間帯別入院患者数
3. 地域別入院患者数
4. 搬入先・搬入方法別入院患者数
5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

診 療 状 況

1. 疾病別患者数

1) 令和4年1月～12月

全身疾患	患者数	患者数	患者数
感染症	92 (37)	栄養疾患	1 (0)
寄生虫病	1 (0)	代謝疾患	60 (11)
新生物	181 (18)	免疫異常	0 (0)
内分泌疾患	2 (1)		
小 計			337 (67)

系統疾患	患者数	患者数	患者数
血液・造血器疾患	18 (0)	泌尿器生殖器疾患	135 (42)
精神障害	154 (5)	周産期	1 (0)
神経・感覚器疾患 (てんかんを含む)	211 (14)	皮膚皮下組織	25 (5)
心不全・不整脈など	388 (10)	筋骨格・結合組織	75 (24)
虚血性心疾患など (心筋梗塞・狭心症・動脈瘤)	295 (9)	先天異常	0 (0)
脳血管障害	376 (46)	妊娠	3 (1)
呼吸器疾患	196 (90)	症状・徴候	293 (30)
消化器疾患	517 (199)	診断不明確	0 (0)
小 計		その他	30 (5)
			2,717 (480)

損傷・中毒	患者数				
	交通事故	その他の事故	事故の後遺症	故意的加害	小 計
骨折	68 (54)	288 (229)	0 (0)	12 (9)	368 (292)
関節脱臼	1 (1)	9 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (3)
捻挫	8 (0)	8 (1)	0 (0)	1 (0)	17 (1)
頭蓋内損傷	21 (18)	109 (65)	0 (0)	3 (2)	133 (85)
内臓損傷	13 (12)	14 (12)	0 (0)	6 (4)	33 (28)
開放創	5 (2)	31 (3)	0 (0)	14 (1)	50 (6)
血管損傷	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (2)
表在損傷	3 (0)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	7 (1)
挫創	16 (1)	57 (10)	0 (0)	2 (1)	75 (12)
圧挫損傷	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
異物	0 (0)	17 (2)	0 (0)	1 (0)	18 (2)
熱傷	0 (0)	28 (15)	0 (0)	2 (2)	30 (17)
神経損傷	4 (4)	26 (20)	0 (0)	0 (0)	30 (24)
中毒・薬物中毒	0 (0)	10 (6)	0 (0)	101 (22)	111 (28)
毒作用	0 (0)	9 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (3)
後遺症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他・外因作用	6 (2)	70 (7)	0 (0)	13 (5)	89 (14)
外科・内科合併症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小 計	147 (94)	685 (378)	0 (0)	156 (46)	988 (518)
合 計					4,042 (1,065)

総患者数 4,042人 () はセンター入院患者数 1,065人

2. 来院時間帯別入院患者数

1) 令和4年1月～12月

月	AM0時～AM6時		AM6時～AM9時		AM9時～PM5時		PM5時～PM8時		PM8時～PM12時		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月	2	3	4	4	34	29	9	11	6	10	55	57	112
2月	7	5	2	1	24	28	10	3	6	1	49	38	87
3月	2	2	5	5	37	20	11	9	9	5	64	41	105
4月	5	5	2	1	34	22	8	10	6	2	55	40	95
5月	2	2	3	1	39	20	3	1	2	7	49	31	80
6月	2	1	1	2	25	23	10	7	5	6	43	39	82
7月	5	2	3	3	33	13	5	7	13	5	59	30	89
8月	3	5	2	1	35	22	6	9	5	4	51	41	92
9月	3	7	3	0	28	8	10	7	5	5	49	27	76
10月	4	2	5	3	37	18	1	4	7	7	54	34	88
11月	2	2	3	3	30	17	2	11	1	5	38	38	76
12月	3	0	5	3	27	21	7	7	6	4	48	35	83
合計	40	36	38	27	383	241	82	86	71	61	614	451	1,065

3. 地域別入院患者数

1) 令和4年1月～12月

地域別	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	比率
盛岡市		37	32	43	31	31	20	30	34	26	20	26	23	353	29.4	33.1%
滝沢市		10	4	6	3	4	5	5	8	2	10	10	5	72	6.0	6.8%
八幡平市・岩手郡		11	4	9	5	3	15	1	12	2	3	5	10	80	6.7	7.5%
紫波郡		27	25	15	24	19	19	21	11	22	25	14	21	243	20.3	22.8%
花巻市		10	6	9	7	9	6	7	9	9	8	12	7	99	8.3	9.3%
北上市・西和賀町		5	2	4	6	2	1	3	4	6	4	2	2	41	3.4	3.8%
奥州市・水沢江刺		2	0	1	2	0	3	0	1	0	3	1	1	14	1.2	1.3%
一関市・西磐井郡		0	2	3	2	4	2	5	0	1	3	2	0	24	2.0	2.3%
大船渡市・気仙郡		0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4	0.3	0.4%
釜石市・遠野市		3	5	2	3	4	1	1	1	2	1	1	5	29	2.4	2.7%
宮古市・下閉伊郡		3	2	1	3	2	2	3	4	1	1	2	1	25	2.1	2.3%
久慈市・九戸郡		0	1	1	2	0	0	3	2	0	1	1	0	11	0.9	1.0%
二戸市・二戸郡		1	0	2	1	0	1	1	1	1	2	0	0	10	0.8	0.9%
青森県		1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	0.3	0.4%
秋田県		1	0	0	3	0	2	2	2	0	2	0	2	14	1.2	1.3%
宮城県		0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	2	8	0.7	0.8%
その他		1	3	8	3	2	5	3	3	2	1	0	3	34	2.8	3.2%
合計		112	87	105	95	80	82	89	92	76	88	76	83	1,065	88.8	100%

4. 搬入先・搬入方法別入院患者数

1) 令和4年1月～12月

搬入先 区分	初期救急医療施設			2次救急医療施設			3次救急医療施設			その他			小計		計
	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	
1月	19	4	23	9	11	20	1	0	1	61	7	68	90	22	112
2月	13	1	14	13	6	19	1	0	1	45	8	53	72	15	87
3月	13	2	15	16	8	24	1	0	1	63	2	65	93	12	105
4月	18	4	22	13	10	23	1	0	1	42	7	49	74	21	95
5月	13	2	15	10	5	15	0	0	0	42	8	50	65	15	80
6月	11	1	12	12	3	15	0	0	0	44	11	55	67	15	82
7月	13	1	14	7	4	11	4	0	4	53	7	60	77	12	89
8月	11	3	14	10	9	19	2	0	2	48	9	57	71	21	92
9月	14	1	15	8	5	13	0	0	0	46	2	48	68	8	76
10月	20	1	21	13	5	18	1	0	1	42	6	48	76	12	88
11月	15	1	16	9	5	14	1	0	1	38	7	45	63	13	76
12月	16	0	16	10	7	17	0	0	0	49	1	50	75	8	83
合計	176	21	197	130	78	208	12	0	12	573	75	648	891	174	1,065

5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

1) 令和4年1月～12月

月	頭部疾患	胸部疾患	腹部疾患	四肢・骨盤疾患	脊椎・脊髄損傷	内視鏡的治療 対象疾患	計
1月	4	1	2	28	9	9	53
2月	4	1	3	28	8	11	55
3月	3	0	3	37	4	9	56
4月	5	0	3	24	3	6	41
5月	5	0	1	23	8	5	42
6月	6	0	5	25	5	10	51
7月	2	0	7	17	3	5	34
8月	1	0	3	29	4	5	42
9月	1	0	9	19	6	14	49
10月	3	0	5	14	8	5	35
11月	5	0	3	12	2	13	35
12月	4	0	5	20	5	9	43
合計	43	2	49	276	65	101	536

Ⅲ お盆及び年末年始の救急医療

1. 令和4年度お盆休み期間中の外来患者数 実態調査報告

令和4年8月13日(土)～16日(火)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は28病院、215診療所、計243医療機関で、アンケートの回収率は100%でした(表1)。

医療機関の診療科別診療所および病院数を表2に、上記期間の休診状況を表3に示す。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	28	28	100%
診療所	215	215	100%
合計	243	243	100%

※予防医学協会・対がん協会・健康管理センターは除く

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	101	215
	外科	41	
	産婦人科	11	
	小児科	13	
	眼科	19	
	皮膚・泌尿器科	18	
	耳鼻咽喉科	11	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	12	28
	その他の病院	16	

表3. お盆中休診状況(242医療機関)

	8月13日 (土)	8月14日 (日)	8月15日 (月)	8月16日 (火)
全日休診	217	235	218	208
半日休診	21	0	1	3
診療	4	3	23	31
当番医	0	4	0	0

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

表 4. 病院及び診療所（令和 4 年 8 月 13 日～ 8 月 16 日）の来院患者数（時間帯別）

月日	曜日	時間 期間	AM0時	AM6時	AM9時	PM5時	PM8時	合計
			～ AM6時	～ AM9時	～ PM5時	～ PM8時	～ PM12時	
8 月 13 日	土	病 院	19	20	585	24	28	676
		診 療 所	1	29	559	37	4	630
		合 計	20	49	1,144	61	32	1,306
8 月 14 日	日	病 院	11	31	432	30	27	531
		診 療 所	1	0	286	37	10	334
		合 計	12	31	718	67	37	865
8 月 15 日	月	病 院	15	192	3,073	19	16	3,315
		診 療 所	0	2	395	56	6	459
		合 計	15	194	3,468	75	22	3,774
8 月 16 日	火	病 院	14	189	3,345	19	17	3,584
		診 療 所	0	37	834	60	11	942
		合 計	14	226	4,179	79	28	4,526
総 計		病 院	59	432	7,435	92	88	8,106
		診 療 所	2	68	2,074	190	31	2,365
		総 計	61	500	9,509	282	119	10,471

8月13日(土)は昨年より2,587人の減少（R3：3,893人）であった。昨年は8月13日が金曜日であった影響と思われる。

8月14日(日)は新型コロナウイルス感染症の大幅な感染拡大も影響し、昨年の日曜日と比較しても350名以上の増加であった。

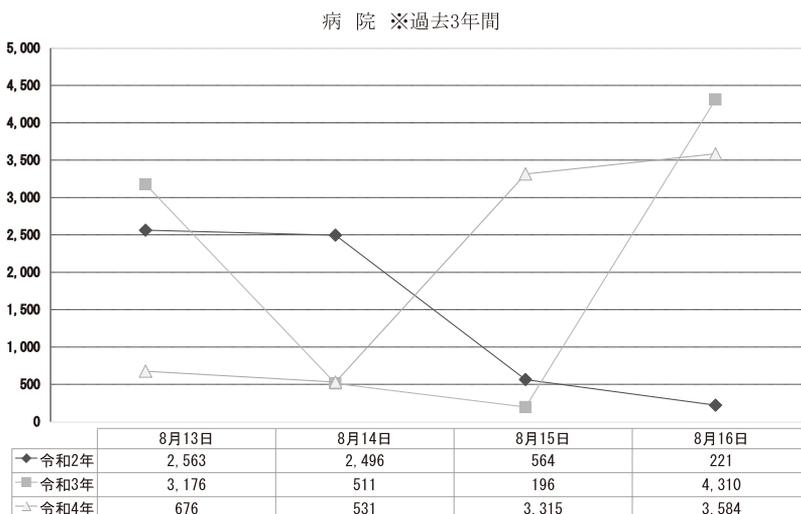
また、8月14日(日)は診療・検査医療機関で開設しているところが少なく、当番医の診療・

検査医療機関にコロナ患者が押し寄せるという事態が生じた。今後の検討課題であると思われる。

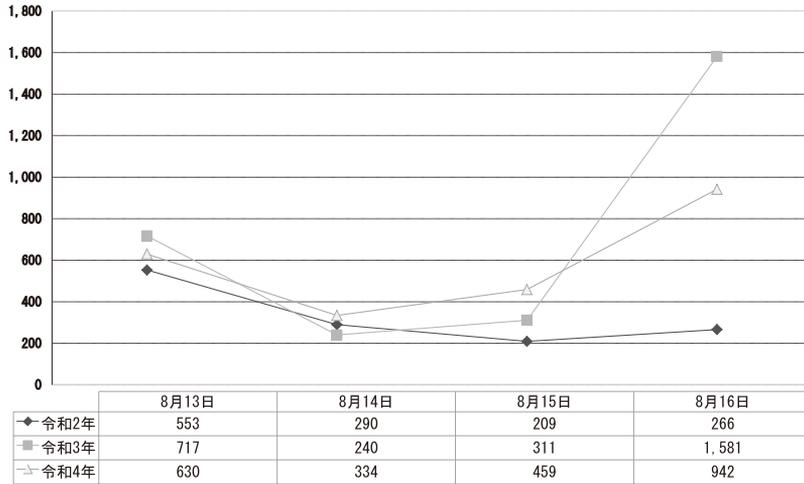
対応された医療機関従事者の皆様には心より感謝申し上げます。

8月15日(月)～16日(火)は診療を行っている医療機関（主に病院関係）が多かった事もあり、15日:3,774人、16日:4,526人と比較的多かった。

図 1. お盆中外来患者実態調査（3年間）



診療所 ※過去3年間

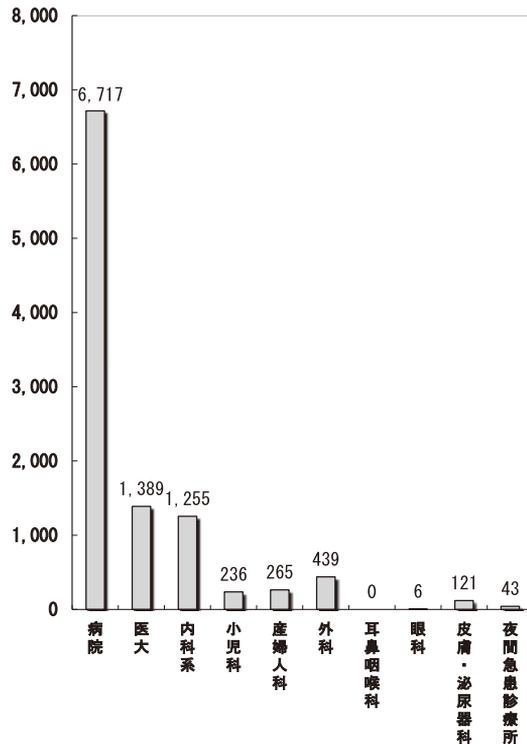


各科別の外来患者の受診状況を図2に示す。病院受診者は6,717（昨年6,755人）で38人増加、岩手医大（矢巾）は1,389人（昨年1,438人）で49人の減少がみられた。診療所受診者の内訳は、内科系1,255人、

外科系439人、産婦人科265人、小児科236人であった。

期間中の夜間急患診療所は43人（昨年31人）で、12人の増加であった。

図2. 各科別の外来患者状況



8月13日(金)～16日(月)の時間帯別の病院および診療所来院患者比率を図3から図8に円グラフに示す。

今年度も多くの来院患者は県立中央病院

(1,584人)・岩手医大(1,438人)・盛岡赤十字病院(826人)、その他の二次救急病院で診療を受けていた。

図3. 病院および診療所来院患者比率

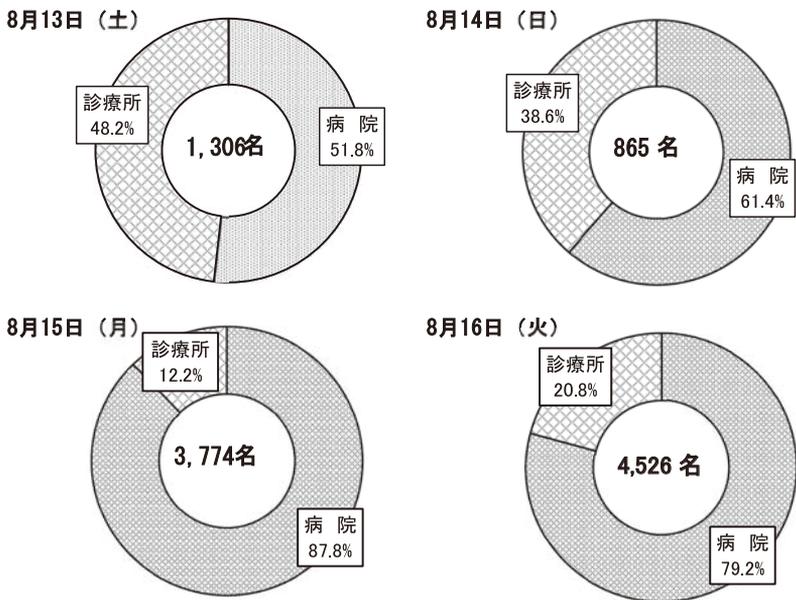


図4. 深夜 (AM0:00～6:00) の来院患者比率

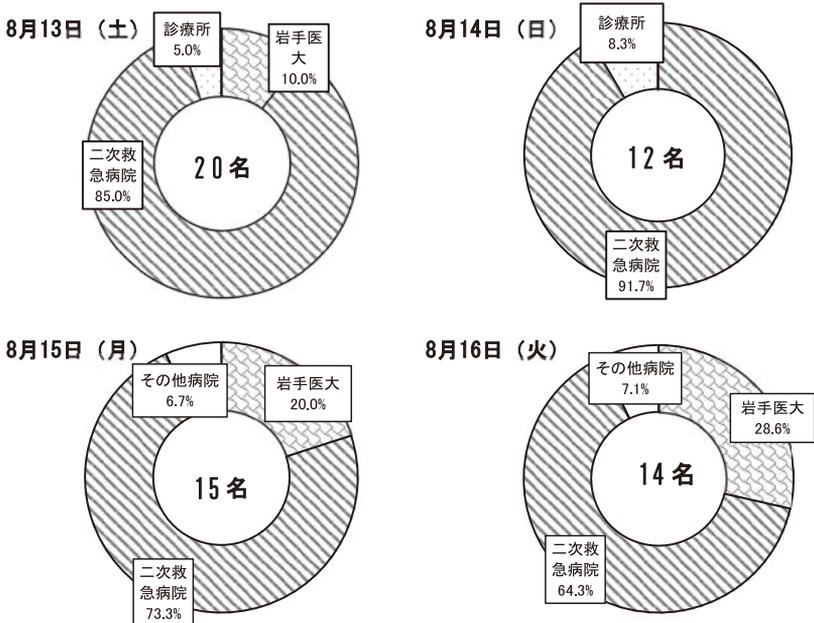


図 5. 時間外 A (AM6:00~AM9:00)の来院患者比率

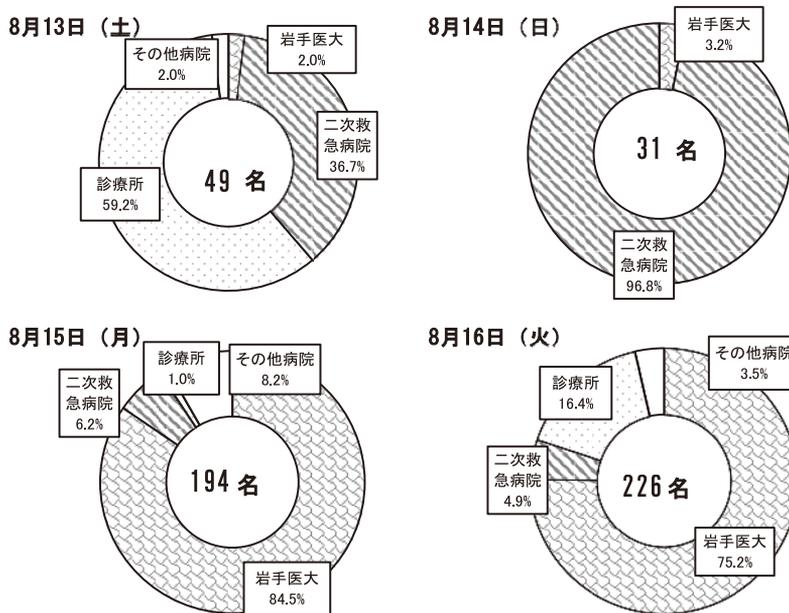


図 6. 日中 (AM9:00~PM5:00) の来院患者比率

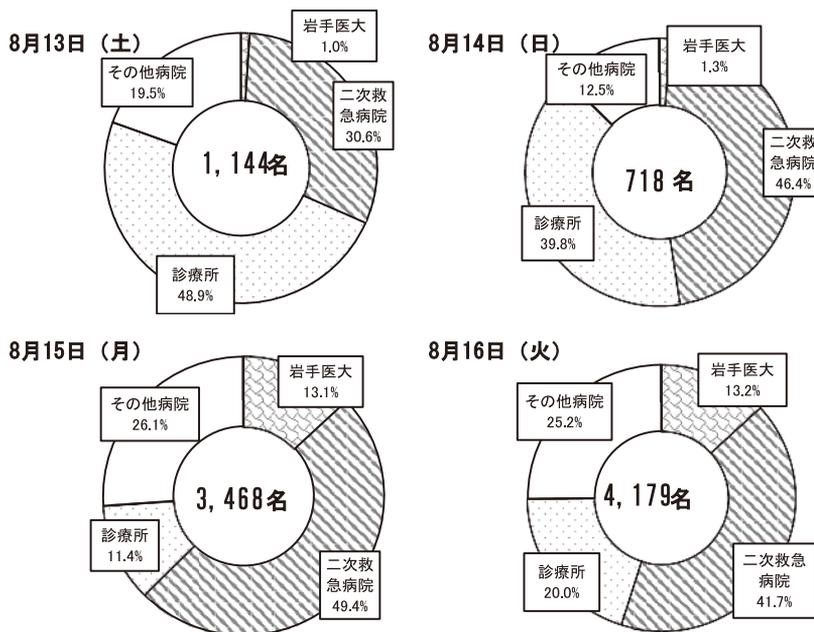


図7. 時間外B (PM5:00~PM8:00) の来院患者比率

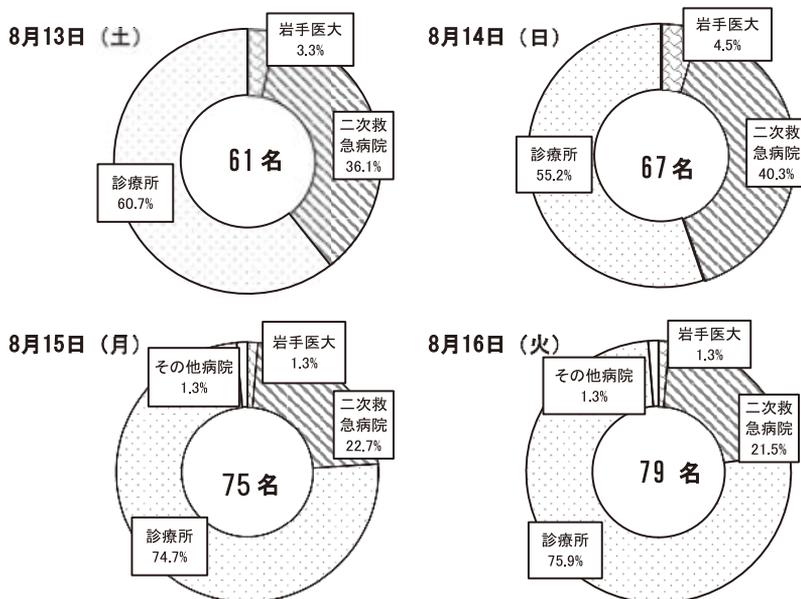
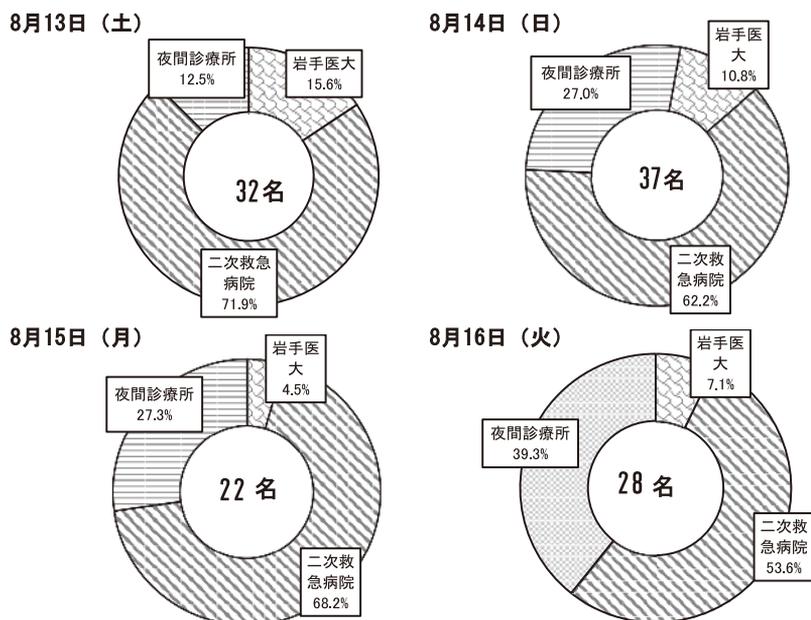


図8. 夜間診療時間 (PM8:00~PM12:00) の来院患者比率



※夜間急患診療所のみ現行時間 (PM7:00 ~ PM11:30) とする。

※その他

お盆期間中の 新型コロナウイルス感染症への対応について

1. 内丸メディカルセンターへの医療従事者派遣及び検査状況について

1) 検査及び派遣状況(盛岡市医師会協力分)

日付	検査数(陽性者)
8/14(日)	23(19)
8/15(月)	24(19)
8/16(火)	24(23)

2) 期間: 令和4年8月14日(日)～16日(火)

3) 勤務時間: 9:00～12:00

4) 場所: 内丸メディカルセンター(旧循環器センター)

5) 概要:

(1) 目的

新型コロナウイルス感染症の急拡大を踏まえ、お盆期間中の診療・検査体制を確保する。

(2) 業務

新型コロナウイルス感染症疑い患者の検査(検体採取等)、診療等

(3) 派遣日・勤務時間・人数・場所

① 令和4年8月14日(日) 9:00～12:00

医師1名、看護師2名、事務1名

② 令和4年8月15日(月) 9:00～12:00

医師1名

③ 令和4年8月16日(火) 9:00～12:00

医師1名

※盛岡市医師会理事から選任

(4) 周知方法

① 両日の営業予定診療所・病院および盛岡市保健所・県央保健所(受診・相談センター向け)に周知。

② 岩手県ではお盆期間中の県全体の医療体制周知の中に本件の内容も入れる意向である。

2. 盛岡市夜間急患診療所 臨時発熱外来の開設及び受診者について

1) 臨時発熱外来: 開設期間及び受診状況

日付	受診者数(陽性者)
8/14(日)	5(4)
8/15(月)	5(5)
8/16(火)	7(5)

2) 期間: 令和4年8月14日(日)～16日(火)

3) 時間: 19:00～21:00

(21:00～23:00は通常診療)

4) 概要

(1) 目的

盛岡広域医療圏における夜間緊急医療体制維持のための患者トリアージ及び診察・検査

(2) 業務

新型コロナウイルス感染症疑い患者の初療、確定診断、療養指導、発生届(最終診察終了後、夜間急患診療所勤務を継続)

(3) 受診対象

成人(自家用車で来所できる方)

(4) 人員

内科医1名、看護師1名、薬剤師1名、事務職員3名(受付2名、事務補助1名)

(5) 周知

盛岡市ホームページにて周知。

3. 休日救急当番医患者数について(8月14日(日))

	受診者数	検査数	終了時刻
内科(南)	139	116	1:35
内科(北)	83	62	17:15
小児科	192	173	18:25
外科	29	-	17:00

最後に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、各医療機関におかれましては、受入体制に苦慮しながら3回目のお盆期間を迎えたことと思います。

8月14日(日)においては診療・検査医療機関(内科2ヶ所、小児科)に患者が殺到し、深夜まで対応した医療機関もあり、今回のお盆期間中で休日における診療体制の弱さが浮き彫りになりました。今後の体制強化を考え

せられる事例だと思えます。

お盆期間に入る数日前に急遽、行政等の各機関から診療・検査体制の確保を依頼され、前日まで奔走された当医師会理事各位、休日救急当番医として従事された先生方およびスタッフの皆様、夜間急患診療所出動医の先生方、診療・検査医療機関の皆様におかれましては、急なお願いにもかかわらずご対応いただき誠に有難うございました。

本アンケート調査に当たりましては、お忙しい中、各医療機関の皆様にご協力いただきました。

誌上をもちまして感謝申し上げます。

(鈴木知己)



2. 令和4年度 年末年始外来患者実態調査報告

— 医療機関アンケート集計結果 —

令和4年12月29日(木)～令和5年1月3日(火)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は28病院、216診療所、計244の医療機関で、アンケートの回収率は100%でした(表1)。

医療機関の診療科別診療所および病院数を表2に、上記期間の休診状況を表3に示します。

今回は12/30(金)から1/3(火)に各2医療機関で臨時発熱外来も開設しております。

※岩手医大附属内丸メディカルセンターも開設しましたが、医療機関数には含まれておりません。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病 院	28	28	100%
診 療 所	216	216	100%
合 計	244	244	100%

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診 療 科	医療機関数	計
診 療 所	内 科	100	216
	外 科	43	
	産 婦 人 科	11	
	小 児 科	14	
	眼 科	19	
	皮膚/泌尿器科	17	
	耳 鼻 咽 喉 科	11	
	夜間急患診療所	1	
病 院	二次救急病院	11	28
	その他の病院	17	

表3. 年末年始休診状況(243医療機関)

	12月29日 (木)	12月30日 (金)	12月31日 (土)	1月1日 (日)	1月2日 (月)	1月3日 (火)
全 日 診 療	26	1	1	1	1	2
午 前 診 療	23	4	1	0	0	0
休 診	189	232	235	236	235	235
当 番 医	5	4	4	4	5	4
臨時発熱外来	-	2	2	2	2	2

※12/31(土)に「岩手医大附属内丸メディカルセンター」が臨時発熱外来として開設

※盛岡市夜間急患診療所は除く

表 4. 病院及び診療所（令和 4 年12月29日～令和 5 年 1 月 3 日）の来院患者数（時間帯別）

月 日	曜日	時刻 機関	0 AM	6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	合 計
			6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	12 PM	
12月29日	木	病 院	15	149	1,962	22	27	2,175
		診 療 所	0	69	1,701	66	1	1,837
		合 計	15	218	3,663	88	28	4,012
12月30日	金	病 院	10	34	234	27	16	321
		診 療 所	0	5	472	50	11	538
		合 計	10	39	706	77	27	859
12月31日	土	病 院	14	35	315	27	24	415
		診 療 所	0	1	170	34	9	214
		合 計	14	36	485	61	33	629
1 月 1 日	日	病 院	15	14	157	21	31	238
		診 療 所	1	0	185	30	7	223
		合 計	16	14	342	51	38	461
1 月 2 日	月	病 院	17	28	159	22	19	245
		診 療 所	0	2	389	39	5	435
		合 計	17	30	548	61	24	680
1 月 3 日	火	病 院	18	29	115	18	41	221
		診 療 所	0	6	450	45	5	506
		合 計	18	35	565	63	46	727
総 計		病 院	89	289	2,942	137	158	3,615
		診 療 所	1	83	3,367	264	38	3,753
		総 計	90	372	6,309	401	196	7,368

(人)

表 5. 過去 5 年間における年末年始来院患者総数の比較

年度 月日	平成30年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
12月28日	未調査	8,744 (土)	未調査	未調査	未調査
12月29日	2,178 (土)	1,159 (日)	4,461 (火)	4,894 (水)	4,012 (木)
12月30日	825 (日)	1,752 (月)	672 (水)	858 (木)	859 (金)
12月31日	980 (月)	1,085 (火)	588 (木)	552 (金)	629 (土)
1 月 1 日	662 (火)	932 (水)	525 (金)	492 (土)	461 (日)
1 月 2 日	842 (水)	893 (木)	450 (土)	422 (日)	680 (月)
1 月 3 日	867 (木)	1,093 (金)	338 (日)	584 (月)	727 (火)
1 月 4 日	未調査	6,879 (土)	未調査	未調査	未調査
計	6,354	22,537	7,034	7,802	7,368

(人)

6 日間の来院患者数は病院3,615人、診療所3,753人の合計7,368人となりました（表 4）。

過去 5 年間における年末年始の来院患者数は表 5 をご覧ください。

表 6. 夜間急患診療所来院患者数

月日 時間帯	12月29日(木)	12月30日(金)	12月31日(土)	1 月 1 日(日)	1 月 2 日(月)	1 月 3 日(火)	計
午後 7 時 ～ 午後 8 時	5	3	1	4	6	5	24
午後 8 時 ～ 午後11時30分	1	11	9	7	5	5	38
計	6	14	10	11	11	10	62

(人)

表7. 夜間診療時間（8：00P.M.～12：00P.M.）の来院患者数 ()内%

	12月29日(木)	12月30日(金)	12月31日(土)	1月1日(日)	1月2日(月)	1月3日(火)	計
二次救急病院 (医大を除く)	18 (64.3)	9 (33.3)	16 (48.5)	20 (52.6)	16 (66.7)	31 (67.4)	110 (56.1)
岩手医大附属病院 (矢巾)	8 (28.6)	7 (25.9)	8 (24.2)	11 (28.9)	3 (12.5)	10 (21.7)	47 (24.0)
その他の病院	1 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
診療所	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
夜間急患診療所 (8:00～11:30)	1 (3.6)	11 (40.7)	9 (27.3)	7 (18.4)	5 (20.8)	5 (10.9)	38 (19.4)
計	28 (100)	27 (100)	33 (100)	38 (100)	24 (100)	46 (100)	196 (100)

(人)

表8. 二次救急病院各病院別来院患者数 ()内%

	12月29日(木)	12月30日(金)	12月31日(土)	1月1日(日)	1月2日(月)	1月3日(火)	合計
岩手医科大学	565 (47.3)	64 (20.3)	63 (19.0)	58 (33.7)	54 (23.0)	56 (26.8)	860 (35.0)
岩手県立中央病院	71 (5.9)	52 (16.5)	49 (14.8)	52 (30.2)	54 (23.0)	64 (30.6)	342 (13.9)
盛岡赤十字病院	41 (3.4)	79 (25.1)	36 (10.8)	29 (16.9)	51 (21.7)	36 (17.2)	272 (11.1)
盛岡市立病院	15 (1.3)	13 (4.1)	20 (6.0)	7 (4.1)	15 (6.4)	20 (9.6)	90 (3.7)
遠山病院	0 (0.0)	67 (21.3)	1 (0.3)	0 (0.0)	2 (0.9)	1 (0.5)	71 (2.9)
栃内病院	5 (0.4)	4 (1.3)	2 (0.6)	3 (1.7)	3 (1.3)	0 (0.0)	17 (0.7)
盛岡つなぎ温泉病院	76 (6.4)	10 (3.2)	4 (1.2)	3 (1.7)	7 (3.0)	4 (1.9)	104 (4.2)
盛岡友愛病院	200 (1.0)	1 (2.0)	2 (1.0)	5 (4.0)	1 (2.0)	1 (1.0)	210 (8.5)
川久保病院	184 (15.4)	4 (1.3)	118 (0.0)	2 (3.0)	2 (0.0)	5 (0.0)	315 (12.8)
国立病院機構盛岡医療センター	11 (0.0)	10 (1.0)	22 (1.0)	4 (0.0)	8 (1.0)	6 (1.0)	61 (2.5)
八角病院	26 (2.2)	11 (3.5)	15 (4.5)	9 (5.2)	38 (16.2)	16 (7.7)	115 (4.7)
合計	1,194	315	332	172	235	209	2,457

(人)

表9. 二次救急病院来院患者数

月日	時間	AM 0 }	AM 6 }	AM 9 }	PM 5 }	PM 8 }	合計
		AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月29日(木)		15	149	982	22	26	1194
12月30日(金)		10	33	230	26	16	315
12月31日(土)		14	34	233	27	24	332
1月1日(日)		15	14	92	20	31	172
1月2日(月)		17	28	150	21	19	235
1月3日(火)		18	29	103	18	41	209
合計		89	287	1,790	134	157	2,457

(人)

夜間診療時間帯の来院患者数は6日間で196人（昨年169人）、岩手医大附属病院（矢巾）が47人（昨年36人）、二次救急病院（医大除く）が110人（昨年100人）でした（表7）。

二次救急病院の全時間帯における来院総数は2,457人（昨年2,654人）で、そのうち岩手医大附属病院は35.0%を占める結果となりました（表8）。

二次救急病院の来院患者数2,457人のうち、最も受診が多かった受診時間帯は午前9時～午後5時の時間帯（1,790人）でした（表9）。

岩手県高度救命救急センター（3次）の来院患者数は67人（昨年47人）で、最も多かった時間帯は午前9時～午後5時の34人でした（表10）。

病院受診者が2,755人と最も多く、続いて内科受診者が1,564人でした（図1）。

日付別では12月29日(木)が病院、診療所とも来院患者数が最も多かったです（図2）。

表10. 岩手県高度救命救急センター来院患者数（3次）

月日	時間	AM 0	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	合 計
		AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月29日(木)		0	1	7	0	2	10
12月30日(金)		2	1	6	3	0	12
12月31日(土)		2	1	6	2	4	15
1月1日(日)		1	2	6	1	1	11
1月2日(月)		2	1	3	1	0	7
1月3日(火)		0	2	6	1	3	12
合 計		7	8	34	8	10	67

(人)

図1. 病院（医大、その他病院）診療所（診療科別）来院患者数

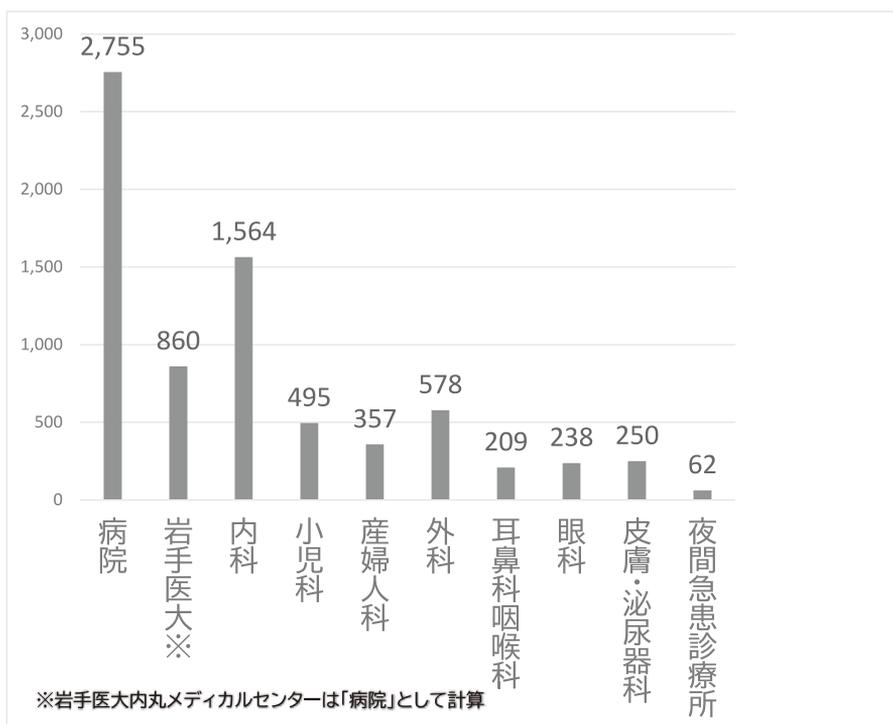
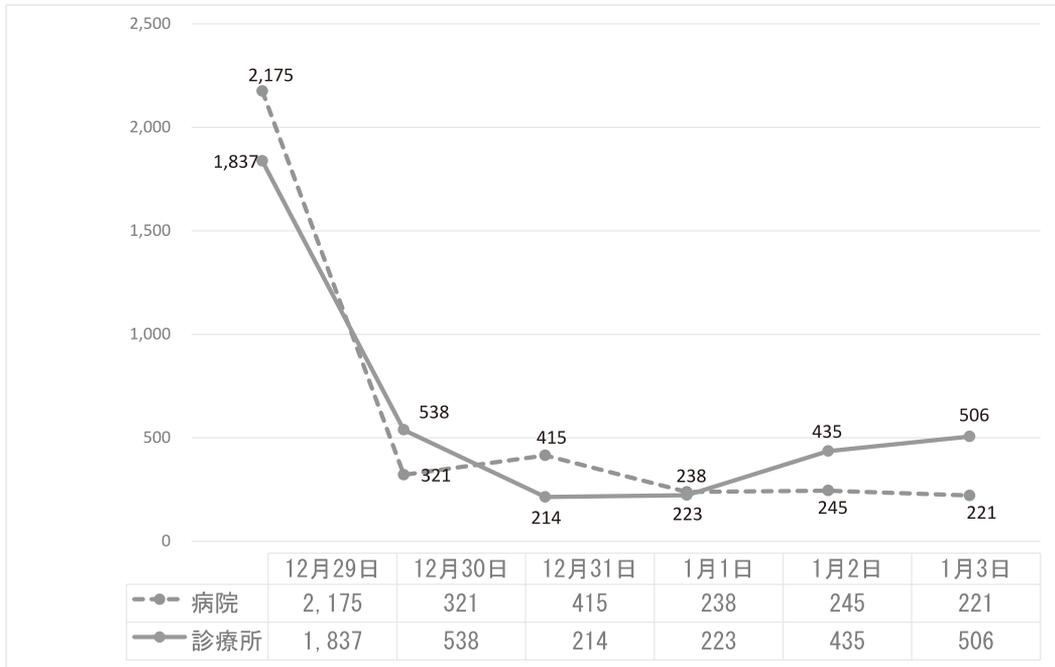


図2. 病院および診療所来院患者数



年末年始期間中における休日救急当番医・夜間急患診療所・臨時発熱外来の患者数

休日救急当番医

12月29日(木)	診療・検査医療機関	患者数	コロナ検査数	インフルエンザ患者数
内科(南)	◎	54	21	1
内科(北)1	◎	50	20	0
内科(北)2	◎	21	10	0
外科・整形外科	◎	139	30	1
小児科	◎	81	37	4

12月30日(金)	診療・検査医療機関	患者数	コロナ検査数	インフルエンザ患者数
内科(南)	◎	66	52	1
内科(北)1	◎	33	10	2
外科・整形外科	◎	57		
小児科	◎	103	27	6

12月31日(土)	診療・検査医療機関	患者数	コロナ検査数	インフルエンザ患者数
内科(南)	◎	49	35	3
内科(北)1	◎	75	54	2
外科・整形外科	◎	56	3	0
小児科	◎	117	54	8

1月1日(日)	診療・検査医療機関	患者数	コロナ検査数	インフルエンザ患者数
内科(南)	◎	64	46	7
内科(北)1	◎	96	61	11
外科・整形外科		46		
小児科	◎	73	16	14

1月2日(月)	診療・検査医療機関	患者数	コロナ検査数	インフルエンザ患者数
内科(南)		29		
内科(北)1	◎	51	40	3
内科(北)2	◎	39	1	1
外科・整形外科		39		
小児科	◎	106	36	7

1月3日(火)	診療・検査医療機関	患者数	コロナ検査数	インフルエンザ患者数
内科(南)	◎	53	47	2
内科(北)1	◎	68	56	10
外科・整形外科	◎	31	4	0
小児科	◎	132	53	17

盛岡市夜間急患診療所

12月29日(水)	通常診療患者数	発熱外来患者数
内科	0	4
小児科	1	1

12月30日(木)	通常診療患者数	発熱外来患者数
内科	2	7
小児科	4	1

12月31日(金)	通常診療患者数	発熱外来患者数
内科	2	5
小児科	2	1

1月1日(土)	通常診療患者数	発熱外来患者数
内科	1	4
小児科	2	4

1月2日(日)	通常診療患者数	発熱外来患者数
内科	0	11
小児科	0	0

1月3日(月)	通常診療患者数	発熱外来患者数
内科	0	4
小児科	3	3

臨時発熱外来

12月29日(水)		検査数	COVID-19	Flu A	Flu B
岩手医科大学附属 病院小児科(参考)	8:30~12:00	14	5	1	0

12月30日(木)		検査数	COVID-19	Flu A	Flu B
中津川病院	9:00~12:00	17	11	0	0
二宮内科クリニック	9:00~12:00	21	14	1	0
南昌病院(参考)	10:00~16:00	18	11	3	0

12月31日(金)		検査数	COVID-19	Flu A	Flu B
岩手医科大学附属内丸 メディカルセンター	9:00~12:00	22	13	2	0
葛クリニック	9:00~12:00	26	15	2	0
産科婦人科吉田医院	9:00~12:00	9	6	0	0

以上が令和4年度の年末年始外来患者実態調査の結果です。

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら迎えた三度目の年末年始でした。第8波は年末にピークに達し、さらには県内でインフルエンザA型陽性患者も散見されるようになり、その中で迎えた年末年始でした。

過去2年の休日救急当番医では、COVID-19感染が疑われる患者が受診した際の个人防护具装着などの準備に時間を要し、診療が滞ってしまった結果、診療時間が深夜にまで及んだ事例がありました。こういった状況を鑑み、今年度は例年の休日救急当番医に加え、市内の複数の医療機関にご協力いただき、COVID-19とインフルエンザ感染症の診療に特化した臨時発熱外来を開設することになりました。結果、10件から、多い施設では100件以上の検査が行われ、すべての臨時発熱外来において検査対象者の半数以上で新型コロナウイルス陽性であり、少数ながらインフルエンザA型陽性者もみられました。どの医療機関からも大きな混乱は報告されていません

が、もし臨時発熱外来が開設されていなければ、この数の発熱患者が休日救急当番医を受診していたと考えられ、大きな負担となっていたことは想像に難くありません。休日救急当番医、夜間急患診療所当番医、臨時発熱外来を担当された医療機関各位には医療体制の維持にご協力いただきましたこと、本誌面をお借りし深く感謝申し上げます。

COVID-19は今年5月に5類感染症に移行することが正式決定しておりますが、完全終息にはまだまだ時間を要し、季節性インフルエンザとともに注意すべき呼吸器感染症として休日夜間の救急当番医の負担となり続けることが危惧されます。今後とも、圏域の医療体制の堅持のため、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

おかげ様を持ちまして、本アンケートは毎回100%の回収率となっております。こちらにつきましても、来年度以降もご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(鈴木知己)

Ⅳ 盛岡地区二次救急医療体制 43年目のあゆみ

盛岡地区二次救急医療対策委員会

1. 実態報告

2022年の二次救急医療体制について、表1から表3に示すような各病院の割当回数と日程により行われた。またその報告については、二次救急は表4のように、小児救急については表5のように報告されている。表6には各病院毎の月別と総数、図1に総数の過去3年間を比較したグラフを示す。

二次救急受診患者はコロナ禍以前より著しく減少しているが、2022年の総数は33,773名と前年に比較して、約1,000名増加した。月別では7月以降の後半期に増加傾向であった。内訳では、外来受診のみ患者が27,025名、入院を要した患者は6,748名と、前年比で外来受診が約1,500名増加したが入院は減少した。救急車搬送数は9,258名で、前年より約860名増加した。病院別では県立中央病院が43.1%、岩手医科大学附属病院が20.2%、盛岡赤十字病院が12.8%で、他の8病院は5%以下であった。県立中央病院へ受診者が集中している。

2022年は各病院でコロナのクラスターが相次いで発生し、病棟閉鎖や救急受け入れ中止などの事態が多発した。また、救急受け入れ困難事例も多発した。これについてコロナ関連患者は県医療搬送等調整班により適宜入院させており、コロナに関する搬送困難は少なく一般患者が多い。これについては盛岡市消防本部より資料を提供いただき、その分析結果を盛岡市医師会報10月号に掲載した。(p95～p98に収載)

表1

二次救急病院当番表

令和4年6月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
		水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
二	県立中央病院	日直			※内外脳循	内外脳循						※内外脳循	内外脳循						※内外脳循	内外脳循						※内外脳循	内外脳循					
		宿直	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循
二	盛岡市立病院	日直			※外内	外内						※外内	外内						※内内	内内						※内外内	内外内					
		宿直	内	外	内	外	内	内	内	外	外	内	内	内	外	内	外	内	内	内	内	外	外	外	外	内	外	内	外	内	外	
盛岡赤十字病院 岩手医大病院 産婦人科・精神神経科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科はオンコールにて対応																																
二	盛岡赤十字病院	日直			※循脳外産	呼整産						※脳内整産	循外産						※消外産	内脳外産						※呼泌消整産	循外産					
		宿直	外産	内産	消産	循泌産	外産	耳産	消外産	脳外産	外産	泌産	整産	内産	循耳産	整産	外産	消泌産	整産	耳産	循産	外産	循産	消脳外産	外産	内産	呼泌消整産	耳産	整産	外産	消産	泌産
二	岩手医大病院	日直										※内外小歯	内外小歯							※内外小歯	内外小歯						※内外小歯	内外小歯				
		宿直	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯
産婦人科・精神神経科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科はオンコールにて対応																																
救	遠山山病院	日直											内																			
		宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
救	藤内病院	日直											形成																			
		宿直	整	整	整	整	内	整	脳外	整	整	内	整	形成	整	整	整	整	内	形成	整	整	脳外	整	整	整	内	整	整	整	整	
救	盛岡つなび病舎	日直											内																			
		宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
病	盛岡友愛病院	日直											※内	外													※内	脳内				
		宿直	整	整	泌	内	内	外	内	整	整	内	内	外	外	内	整	整	内	整	整	内	内	整	整	内	内	脳内	脳内	内	整	整
院	川久保病院	日直											小																			
		宿直	内	小	眼	内	内	小	内	内	内	内	眼	内	小	内	内	小	内	眼	内	内	内	内	眼	内	内	内	内	内	眼	小
院	盛岡医療センター	日直				※整	内						※整	内						※整	整						※内	内				
		宿直	整	整	内	整	内	内	整	整	内	整	整	内	整	内	整	内	内	整	整	内	内	内	内	内	整	内	内	内	内	整
院	八角病院	日直											外																			
		宿直	内	内	内	外	内	内	外	内	内	内	内	外	内	内	内	内	内	外	内	内	内	内	内	内	内	内	外	内	内	内
受最	入終	入院院	A	中	医	中	日	医	中	日	医	中	医	中	日	医	中	日	医	中	中	医	中	日	医	中	日	医	中	日	医	中
			B	尖川久保	大遠山	赤橋立	赤橋立	大角	大角	赤友愛	大つなぎ	尖川久保	大遠山	大市立	尖橋立	赤角	大八角	尖友愛	赤つなぎ	大川久保	尖遠山	尖市立	大橋内	尖角	尖角	尖角	尖角	尖角	尖角	尖角	尖角	尖角

【注意事項】

- 各病院の当直医(診療科)が変更されることがありますので、事前に電話で確認することをおすすめします。
 ※消防署(救急隊)は患者の状況により、直近または最も適していると考えられる二次救急病院を選定して連絡を入れますので、救急隊から受入を要請された場合は可能な限り受入をお願いします。
- 最終入院受入病院とは、急患について他の病院が受け入れられない場合、最終調整及び責任をもつ病院です。
- 小児の入院が必要と思われる場合は、小児救急入院受入病院当番表をご参照下さい。
- 盛岡市立病院の平日は一人体制となります。
- ※印は、休日体制になっていますので、ご留意下さい。

令和4年5月25日作成

表2 令和4年(2022年1月~12月)二次救急輪番病院年間回数

区分 病院	年 末 年 始	祝 祭 日	日 曜 日	土 曜 日	平 日	年 間 回 数	総 回 数
盛岡市立病院	0	1	7	7	30	45	53
八角病院	1	2	7	5	31	46	56
盛岡つなぎ温泉病院	1	5	6	5	29	46	58
県立中央病院	3	7	20	20	92	142	172
岩手医大附属病院	2	3	20	20	96	141	166
盛岡赤十字病院	1	5	11	10	55	82	99
遠山病院	0	0	6	7	32	45	51
栃内病院	1	4	7	7	27	46	58
盛岡友愛病院	1	2	5	6	32	46	54
川久保病院	1	0	6	6	32	45	52
国立盛岡医療センター	1	1	7	7	30	46	55
計	12	30	102	100	486	730	874

令和4年(2022年1月~12月)小児救急各病院当番コマ数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
中央	18	21	18	21	20	20	21	20	20	20	18	19	236
日赤	12	13	11	11	11	10	11	11	12	13	10	11	136
国立盛岡	10	9	9	10	9	10	10	9	10	10	9	10	115
合計	40	43	38	42	40	40	42	40	42	43	37	40	487

表3 二次救急医療輪番病院及び小児救急輪番病院日程表
(令和4年1月～3月)

1月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	土	中央	遠山	中央 中央
2	日	日赤	市立	国立 国立
3	月	医大	栃内	中央 中央
4	火	中央	国立	日赤
5	水	日赤	八角	国立
6	木	医大	友愛	中央
7	金	中央	つなぎ	日赤
8	土	中央	川久保	中央 中央
9	日	医大	遠山	日赤 日赤
10	月	中央	市立	中央 中央
11	火	日赤	国立	中央
12	水	医大	栃内	国立
13	木	中央	八角	日赤
14	金	日赤	友愛	国立
15	土	医大	つなぎ	中央 中央
16	日	中央	川久保	日赤 日赤
17	月	医大	遠山	日赤
18	火	医大	市立	中央
19	水	中央	栃内	国立
20	木	日赤	国立	中央
21	金	医大	八角	中央
22	土	中央	友愛	日赤 日赤
23	日	日赤	つなぎ	中央 中央
24	月	医大	川久保	中央
25	火	中央	遠山	日赤
26	水	中央	市立	国立
27	木	医大	栃内	中央
28	金	中央	国立	日赤
29	土	日赤	八角	国立 国立
30	日	医大	友愛	中央 中央
31	月	中央	つなぎ	日赤

中央 21
日赤 13
国立 9

2月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	火	日赤	川久保	中央
2	水	医大	遠山	国立
3	木	中央	市立	日赤
4	金	医大	栃内	中央
5	土	医大	国立	中央 中央
6	日	中央	八角	日赤 日赤
7	月	日赤	友愛	中央
8	火	医大	つなぎ	日赤
9	水	中央	川久保	国立
10	木	日赤	遠山	中央
11	金	医大	市立	中央 中央
12	土	中央	栃内	国立 国立
13	日	中央	国立	日赤 日赤
14	月	医大	八角	中央
15	火	中央	友愛	日赤
16	水	日赤	つなぎ	国立
17	木	医大	川久保	中央
18	金	中央	遠山	国立
19	土	日赤	市立	中央 中央
20	日	医大	栃内	中央 中央
21	月	中央	国立	日赤
22	火	医大	八角	中央
23	水	医大	友愛	国立 国立
24	木	中央	つなぎ	日赤
25	金	日赤	川久保	中央
26	土	医大	遠山	中央 中央
27	日	中央	市立	日赤 日赤
28	月	日赤	栃内	中央

中央 19
日赤 11
国立 8

3月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	火	医大	国立	日赤
2	水	中央	八角	国立
3	木	中央	友愛	中央
4	金	医大	つなぎ	日赤
5	土	中央	川久保	国立 国立
6	日	日赤	遠山	中央 中央
7	月	医大	市立	中央
8	火	中央	栃内	日赤
9	水	日赤	八角	国立
10	木	医大	国立	中央
11	金	中央	友愛	中央
12	土	医大	つなぎ	日赤 日赤
13	日	医大	川久保	中央 中央
14	月	中央	遠山	日赤
15	火	日赤	市立	中央
16	水	医大	栃内	国立
17	木	中央	国立	中央
18	金	日赤	八角	中央
19	土	医大	友愛	日赤 日赤
20	日	中央	つなぎ	国立 国立
21	月	中央	川久保	中央 中央
22	火	医大	遠山	中央
23	水	中央	市立	国立
24	木	日赤	栃内	中央
25	金	医大	国立	日赤
26	土	中央	八角	中央 中央
27	日	日赤	友愛	日赤 日赤
28	月	医大	つなぎ	中央
29	火	中央	川久保	中央
30	水	医大	遠山	国立
31	木	医大	市立	中央

中央 20
日赤 11
国立 9

(令和4年4月～6月)

4月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	金	中 央 栃 内	日 赤		
2	土	日 赤 国 立	中 央 中 央		
3	日	医 大 八 角	日 赤 国 立		
4	月	中 央 友 愛	日 赤		
5	火	日 赤 つ な ぎ	中 央		
6	水	医 大 川 久 保	国 立		
7	木	中 央 遠 山	日 赤		
8	金	中 央 市 立	国 立		
9	土	医 大 栃 内	中 央 中 央		
10	日	中 央 国 立	日 赤 日 赤		
11	月	日 赤 八 角	中 央		
12	火	医 大 友 愛	日 赤		
13	水	中 央 遠 山	国 立		
14	木	日 赤 川 久 保	中 央		
15	金	医 大 友 愛	中 央		
16	土	中 央 市 立	日 赤 日 赤		
17	日	医 大 栃 内	中 央 中 央		
18	月	医 大 国 立	日 赤		
19	火	中 央 八 角	中 央		
20	水	日 赤 友 愛	国 立		
21	木	医 大 つ な ぎ	中 央		
22	金	中 央 川 久 保	国 立		
23	土	日 赤 遠 山	中 央 中 央		
24	日	医 大 市 立	日 赤 日 赤		
25	月	中 央 栃 内	中 央		
26	火	中 央 国 立	中 央		
27	水	医 大 八 角	国 立		
28	木	中 央 つ な ぎ	日 赤		
29	金	日 赤 つ な ぎ	国 立 国 立		
30	土	医 大 川 久 保	中 央 中 央		

中 央 18
日 赤 12
国 立 10
合 計 40

5月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	日	中 央 遠 山	日 赤 日 赤		
2	月	日 赤 市 立	中 央		
3	火	医 大 国 立	中 央 中 央		
4	水	中 央 栃 内	国 立 国 立		
5	木	医 大 八 角	日 赤 日 赤		
6	金	医 大 友 愛	国 立		
7	土	中 央 つ な ぎ	中 央 中 央		
8	日	日 赤 川 久 保	中 央 中 央		
9	月	医 大 遠 山	日 赤		
10	火	中 央 市 立	中 央		
11	水	日 赤 栃 内	国 立		
12	木	医 大 国 立	中 央		
13	金	中 央 八 角	中 央		
14	土	中 央 友 愛	日 赤 日 赤		
15	日	医 大 つ な ぎ	中 央 中 央		
16	月	中 央 川 久 保	日 赤		
17	火	日 赤 遠 山	中 央		
18	水	医 大 市 立	国 立		
19	木	中 央 栃 内	日 赤		
20	金	日 赤 国 立	中 央		
21	土	医 大 八 角	中 央 中 央		
22	日	中 央 友 愛	国 立 国 立		
23	月	医 大 つ な ぎ	中 央		
24	火	医 大 川 久 保	日 赤		
25	水	中 央 遠 山	国 立		
26	木	日 赤 市 立	中 央		
27	金	医 大 栃 内	国 立		
28	土	中 央 国 立	日 赤 日 赤		
29	日	日 赤 八 角	中 央 中 央		
30	月	医 大 友 愛	中 央		
31	火	中 央 つ な ぎ	日 赤		

中 央 21
日 赤 13
国 立 9
合 計 43

6月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	水	中 央 川 久 保	国 立		
2	木	医 大 遠 山	中 央		
3	金	中 央 市 立	日 赤		
4	土	日 赤 栃 内	国 立 国 立		
5	日	医 大 国 立	中 央 中 央		
6	月	中 央 八 角	日 赤		
7	火	日 赤 友 愛	中 央		
8	水	医 大 つ な ぎ	国 立		
9	木	中 央 川 久 保	日 赤		
10	金	医 大 遠 山	中 央		
11	土	医 大 市 立	中 央 中 央		
12	日	中 央 栃 内	日 赤 日 赤		
13	月	日 赤 国 立	中 央		
14	火	医 大 八 角	日 赤		
15	水	中 央 友 愛	国 立		
16	木	日 赤 つ な ぎ	中 央		
17	金	医 大 川 久 保	日 赤		
18	土	中 央 遠 山	中 央 中 央		
19	日	中 央 市 立	国 立 国 立		
20	月	医 大 栃 内	中 央		
21	火	中 央 国 立	中 央		
22	水	日 赤 八 角	国 立		
23	木	医 大 友 愛	中 央		
24	金	中 央 つ な ぎ	日 赤		
25	土	日 赤 川 久 保	中 央 中 央		
26	日	医 大 遠 山	日 赤 日 赤		
27	月	中 央 市 立	中 央		
28	火	医 大 栃 内	中 央		
29	水	医 大 八 角	国 立		
30	木	中 央 国 立	日 赤		

中 央 18
日 赤 11
国 立 9
合 計 38

(令和4年7月～9月)

7月	二次救急		小児救急			
	日	曜日	A	B	宿直	日直
1	金	日	赤友愛	中 央		
2	土	医	大つなぎ	国 立	国 立	
3	日	中	央川久保	中 央	中 央	
4	月	日	赤遠山	中 央		
5	火	医	大市立	日 赤		
6	水	中	央栃内	国 立		
7	木	中	央国立	日 赤		
8	金	医	大八角	中 央		
9	土	中	央友愛	日 赤	日 赤	
10	日	日	赤つなぎ	中 央	中 央	
11	月	医	大川久保	日 赤		
12	火	中	央遠山	中 央		
13	水	日	赤市立	国 立		
14	木	医	大栃内	中 央		
15	金	中	央国立	日 赤		
16	土	医	大八角	中 央	中 央	
17	日	医	大友愛	国 立	国 立	
18	月	中	央つなぎ	中 央	中 央	
19	火	日	赤川久保	中 央		
20	水	医	大遠山	国 立		
21	木	中	央市立	日 赤		
22	金	日	赤栃内	中 央		
23	土	医	大国立	中 央	中 央	
24	日	中	央八角	日 赤	日 赤	
25	月	中	央友愛	中 央		
26	火	医	大つなぎ	日 赤		
27	水	中	央川久保	国 立		
28	木	日	赤遠山	中 央		
29	金	医	大市立	日 赤		
30	土	中	央栃内	国 立	国 立	
31	日	日	赤国立	中 央	中 央	

中 央 21
日 赤 11
国 立 10
合 計 42

8月	二次救急		小児救急			
	日	曜日	A	B	宿直	日直
1	月	医	大八角	日 赤		
2	火	中	央友愛	中 央		
3	水	医	大川久保	中 央		
4	木	医	大川久保	中 央		
5	金	中	央遠山	日 赤		
6	土	日	赤市立	中 央	中 央	
7	日	医	大栃内	国 立	国 立	
8	月	中	央国立	日 赤		
9	火	日	赤八角	中 央		
10	水	医	大友愛	国 立		
11	木	中	央つなぎ	中 央	中 央	
12	金	中	央川久保	日 赤		
13	土	医	大遠山	中 央	中 央	
14	日	中	央市立	日 赤	日 赤	
15	月	日	赤栃内	中 央		
16	火	医	大国立	中 央		
17	水	中	央八角	国 立		
18	木	日	赤友愛	中 央		
19	金	医	大つなぎ	日 赤		
20	土	中	央川久保	国 立	国 立	
21	日	医	大遠山	中 央	中 央	
22	月	医	大市立	日 赤		
23	火	中	央国立	中 央		
24	水	日	赤栃内	国 立		
25	木	医	大八角	中 央		
26	金	中	央友愛	中 央		
27	土	日	赤つなぎ	日 赤	日 赤	
28	日	医	大川久保	中 央	中 央	
29	月	中	央遠山	中 央		
30	火	中	央市立	日 赤		
31	水	医	大栃内	国 立		

中 央 20
日 赤 11
国 立 9
合 計 40

9月	二次救急		小児救急			
	日	曜日	A	B	宿直	日直
1	木	中	央国立	日 赤		
2	金	日	赤八角	国 立		
3	土	医	大友愛	中 央	中 央	
4	日	中	央つなぎ	日 赤	日 赤	
5	月	日	赤川久保	中 央		
6	火	医	大遠山	中 央		
7	水	中	央市立	国 立		
8	木	医	大栃内	中 央		
9	金	医	大国立	中 央		
10	土	中	央八角	国 立	国 立	
11	日	日	赤友愛	中 央	中 央	
12	月	医	大つなぎ	日 赤		
13	火	日	赤川久保	中 央		
14	水	中	央遠山	国 立		
15	木	医	大市立	中 央		
16	金	中	央栃内	日 赤		
17	土	中	央国立	中 央	中 央	
18	日	医	大八角	国 立	国 立	
19	月	中	央友愛	日 赤	日 赤	
20	火	日	赤つなぎ	中 央		
21	水	医	大川久保	国 立		
22	木	中	央遠山	中 央		
23	金	日	赤市立	中 央	中 央	
24	土	医	大栃内	日 赤	日 赤	
25	日	中	央国立	中 央	中 央	
26	月	医	大八角	日 赤		
27	火	中	央友愛	中 央		
28	水	医	大つなぎ	国 立		
29	木	日	赤川久保	中 央		
30	金	医	大遠山	国 立		

中 央 20
日 赤 10
国 立 10
合 計 40

(令和4年10月～12月)

10月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	土	中 央 市 立	日 赤	日 赤
2	日	日 赤 栃 内	中 央	中 央
3	月	医 大 国 立	日 赤	
4	火	中 央 八 角	中 央	
5	水	医 大 友 愛	中 央	
6	木	医 大 つ な ぎ	中 央	
7	金	中 央 川 久 保	日 赤	
8	土	日 赤 遠 山	中 央	中 央
9	日	医 大 市 立	国 立	国 立
10	月	中 央 栃 内	中 央	中 央
11	火	日 赤 国 立	中 央	
12	水	医 大 八 角	国 立	
13	木	中 央 友 愛	中 央	
14	金	医 大 つ な ぎ	国 立	
15	土	医 大 川 久 保	中 央	中 央
16	日	中 央 遠 山	日 赤	日 赤
17	月	日 赤 市 立	中 央	
18	火	医 大 栃 内	中 央	
19	水	中 央 八 角	国 立	
20	木	日 赤 国 立	中 央	
21	金	医 大 友 愛	国 立	
22	土	中 央 つ な ぎ	日 赤	日 赤
23	日	中 央 川 久 保	中 央	中 央
24	月	医 大 遠 山	中 央	
25	火	中 央 市 立	日 赤	
26	水	日 赤 栃 内	国 立	
27	木	医 大 国 立	中 央	
28	金	中 央 八 角	日 赤	
29	土	日 赤 友 愛	国 立	国 立
30	日	医 大 つ な ぎ	中 央	中 央
31	月	中 央 川 久 保	日 赤	

中 央 21
日 赤 11
国 立 10
合 計 42

11月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	火	医 大 遠 山	中 央	
2	水	医 大 市 立	国 立	
3	木	中 央 栃 内	日 赤	日 赤
4	金	日 赤 国 立	中 央	
5	土	医 大 八 角	国 立	国 立
6	日	中 央 友 愛	中 央	中 央
7	月	日 赤 つ な ぎ	中 央	
8	火	医 大 川 久 保	日 赤	
9	水	中 央 遠 山	国 立	
10	木	中 央 市 立	中 央	
11	金	医 大 栃 内	中 央	
12	土	中 央 国 立	日 赤	日 赤
13	日	日 赤 八 角	中 央	中 央
14	月	医 大 友 愛	中 央	
15	火	中 央 つ な ぎ	日 赤	
16	水	日 赤 川 久 保	中 央	
17	木	医 大 遠 山	中 央	
18	金	中 央 市 立	日 赤	
19	土	医 大 栃 内	国 立	国 立
20	日	医 大 国 立	中 央	中 央
21	月	中 央 八 角	日 赤	
22	火	日 赤 友 愛	中 央	
23	水	医 大 つ な ぎ	国 立	国 立
24	木	中 央 川 久 保	日 赤	
25	金	日 赤 遠 山	中 央	
26	土	医 大 市 立	中 央	中 央
27	日	中 央 栃 内	日 赤	日 赤
28	月	中 央 国 立	中 央	
29	火	医 大 八 角	中 央	
30	水	中 央 友 愛	国 立	

中 央 20
日 赤 11
国 立 9
合 計 40

12月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	木	日 赤 つ な ぎ	中 央	
2	金	医 大 川 久 保	日 赤	
3	土	中 央 遠 山	国 立	国 立
4	日	日 赤 市 立	中 央	中 央
5	月	医 大 栃 内	中 央	
6	火	中 央 国 立	日 赤	
7	水	医 大 八 角	国 立	
8	木	医 大 友 愛	中 央	
9	金	日 赤 つ な ぎ	日 赤	
10	土	日 赤 川 久 保	中 央	中 央
11	日	医 大 遠 山	国 立	国 立
12	月	中 央 市 立	中 央	
13	火	日 赤 国 立	中 央	
14	水	医 大 栃 内	国 立	
15	木	中 央 八 角	中 央	
16	金	中 央 友 愛	日 赤	
17	土	医 大 つ な ぎ	中 央	中 央
18	日	中 央 川 久 保	日 赤	日 赤
19	月	日 赤 遠 山	中 央	
20	火	医 大 市 立	日 赤	
21	水	中 央 栃 内	国 立	
22	木	日 赤 国 立	中 央	
23	金	医 大 八 角	中 央	
24	土	中 央 友 愛	日 赤	日 赤
25	日	医 大 つ な ぎ	中 央	中 央
26	月	医 大 川 久 保	中 央	
27	火	中 央 遠 山	日 赤	
28	水	日 赤 市 立	国 立	
29	木	医 大 栃 内	中 央	中 央
30	金	中 央 国 立	日 赤	日 赤
31	土	日 赤 八 角	国 立	国 立

中 央 20
日 赤 12
国 立 10
合 計 42

表 4 二次救急患者データ

月 日		1日		2日 輪番日		3日		4日		5日 輪番日		6日		7日															
曜 日		日		月		火		水		木		金		土															
病 院 名		外	来入	院	外	来入	院	外	来入	院	外	来入	院	外	来入	院													
		救急車		救急車	救急車		救急車	救急車	救急車		救急車	救急車	救急車	救急車		救急車													
深夜	AM0	内科系	1		1		2		1				2		1														
		外科系					1			1	1		1	1															
	AM6	小児科																											
		産科			1		1																						
時間外	AM6	内科系	1		1	2			2																				
		外科系	1						3		2		1			1													
	AM9	小児科	1						1		1																		
		産科														1													
土曜日	AM9	内科系																											
		外科系																											
	PM0	小児科																											
		産科																											
土曜日	PM0	内科系														3													
		外科系														5	1												
	PM5	小児科																											
		産科																											
日祭日	AM9	内科系	4				6	1	9		6	1																	
		外科系	6				11	1	13	1	10	1	1																
	PM5	小児科	1						2		1	1																	
		産科																											
時間外	PM5	内科系	3	1	1	1	5	1	3	2	2		1		1														
		外科系			2	1	4		4	1	4		3		2	1													
	PM8	小児科			1																								
		産科																											
夜間	PM8	内科系	1				1				1		2																
		外科系	2		4	2	6	1	1			1	1		7														
	PM12	小児科	2		3		2		3		2	1	1		4														
		産科	1				1				2				1														
合 計		25	0	1	2	14	0	4	1	42	0	3	1	47	0	5	0	38	1	5	0	12	0	1	1	24	1	2	0

二次救急患者（以下二次患者と略記す）データについては表4に示す通り、小児救急患者（以下小児患者と略記す）（以下小児患者と略記す）については表5に示す通りの資料を各二次救急医療病院より各病院事務長の責任において1ヵ月分をまとめ、翌月中旬まで医師会に提出される。

表5 小児救急患者データ

月日		1日				2日 輪番日				3日 輪番日				4日				5日 輪番日				6日				7日							
曜日		日				月				火				水				木				金				土							
病院名		外		来		入		院		外		来		入		院		外		来		入		院		外		来		入		院	
			救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車
深夜	AM0 ～ AM6					2																				1							
	時間外																																
土曜日	AM9 ～ PM0																													1			
土曜日	PM0 ～ PM5																																
日曜日	AM9 ～ PM5	4	1	3	1								1																				
時間外	PM5 ～ PM8	1		1																	1												
時間外	PM8 ～ PM12	3																			1												
合計		8	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0

表 6 病院別・月別二次救急患者年間総数

病院名	年月												合計 (名)	月平均	比率 (%)
	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
中央病院	1,213	1,011	946	1,150	1,393	1,240	1,389	1,194	1,258	1,305	1,190	1,275	14,564	1,214	43.1
日赤病院	353	240	298	305	368	263	457	474	330	356	369	517	4,330	361	12.8
市立病院	139	102	110	91	116	101	168	119	169	144	132	140	1,531	128	4.5
遠山病院	11	5	10	10	14	11	13	14	19	12	7	14	140	12	0.4
八角病院	116	108	94	76	161	83	149	199	138	106	110	127	1,467	122	4.3
岩手医大	562	451	567	606	689	539	695	448	668	618	533	452	6,828	569	20.2
栃内病院	160	60	66	79	126	68	68	64	57	114	48	66	976	81	2.9
つなぎ温泉病院	27	52	29	36	41	32	92	75	53	44	65	79	625	52	1.9
友愛病院	58	54	45	50	53	51	63	69	76	58	53	93	723	60	2.1
川久保病院	19	85	51	102	34	25	38	224	264	21	133	138	1,134	95	3.4
盛岡医療センター	128	102	93	120	116	89	136	130	128	147	124	142	1,455	121	4.3
合計	2,786	2,270	2,309	2,625	3,111	2,502	3,268	3,010	3,160	2,925	2,764	3,043	33,773	2,814	100

図 1 二次救急病院来院患者総数月別分布

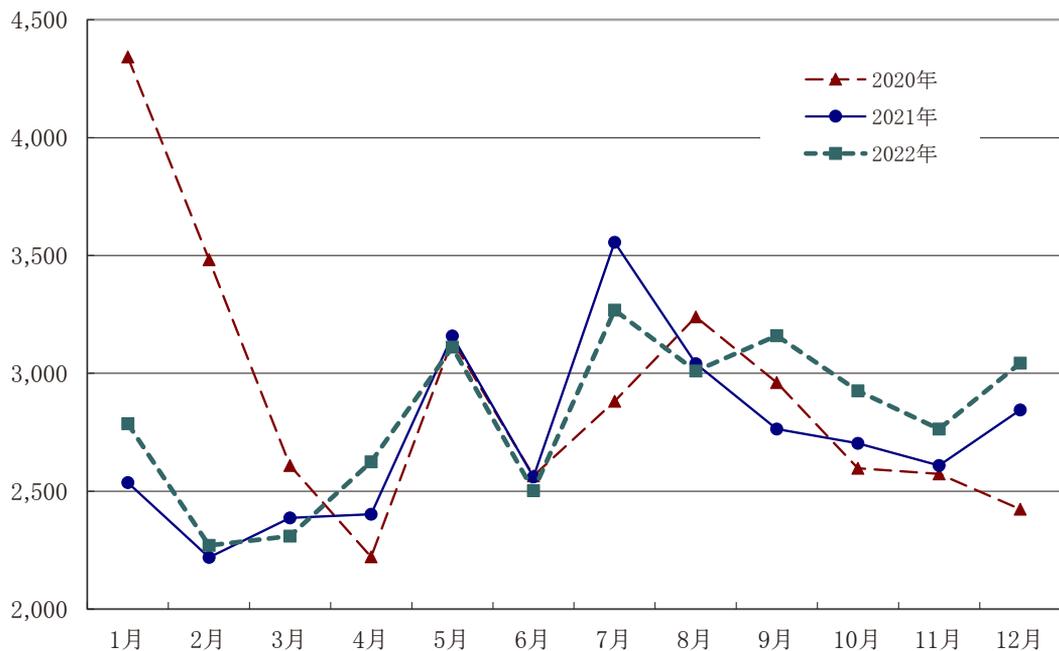


表7 二次救急病院における来院患者の実態（年間総数）

2022年1月 ～12月	外 来		入 院		うち救急車搬入		総 数
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央 病 院	10,650 ^名	39.4 [%]	3,914 ^名	58.0 [%]	5,711 ^名	61.7 [%]	14,564 ^名
日 赤 病 院	3,475	12.9	855	12.7	1,138	12.3	4,330
市 立 病 院	1,331	4.9	200	3.0	446	4.8	1,531
遠 山 病 院	87	0.3	53	0.8	93	1.0	140
八 角 病 院	1,356	5.0	111	1.6	192	2.1	1,467
岩 手 医 大	5,862	21.7	966	14.3	247	2.7	6,828
栃 内 病 院	913	3.4	63	0.9	241	2.6	976
つなぎ温泉病院	477	1.8	148	2.2	251	2.7	625
友 愛 病 院	618	2.3	105	1.6	281	3.0	723
川 久 保 病 院	1,080	4.0	54	0.8	122	1.3	1,134
盛岡医療センター	1,176	4.4	279	4.1	536	5.8	1,455
合 計	27,025	100	6,748	100	9,258	100	33,773

表8 二次救急病院における来院患者の実態（月平均）

2022年1月 ～12月	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	救 急 車 搬 入 患 者 数	総 計
中 央 病 院	888 ^名	326 ^名	476 ^名	1,214 ^名
日 赤 病 院	290	71	95	361
市 立 病 院	111	17	37	128
遠 山 病 院	7	4	8	12
八 角 病 院	113	9	16	122
岩 手 医 大	489	81	21	569
栃 内 病 院	76	5	20	81
つなぎ温泉病院	40	12	21	52
友 愛 病 院	52	9	23	60
川 久 保 病 院	90	5	10	95
盛岡医療センター	98	23	45	121
合 計	2,252	562	772	2,814

図2 二次救急病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入（表7参照）

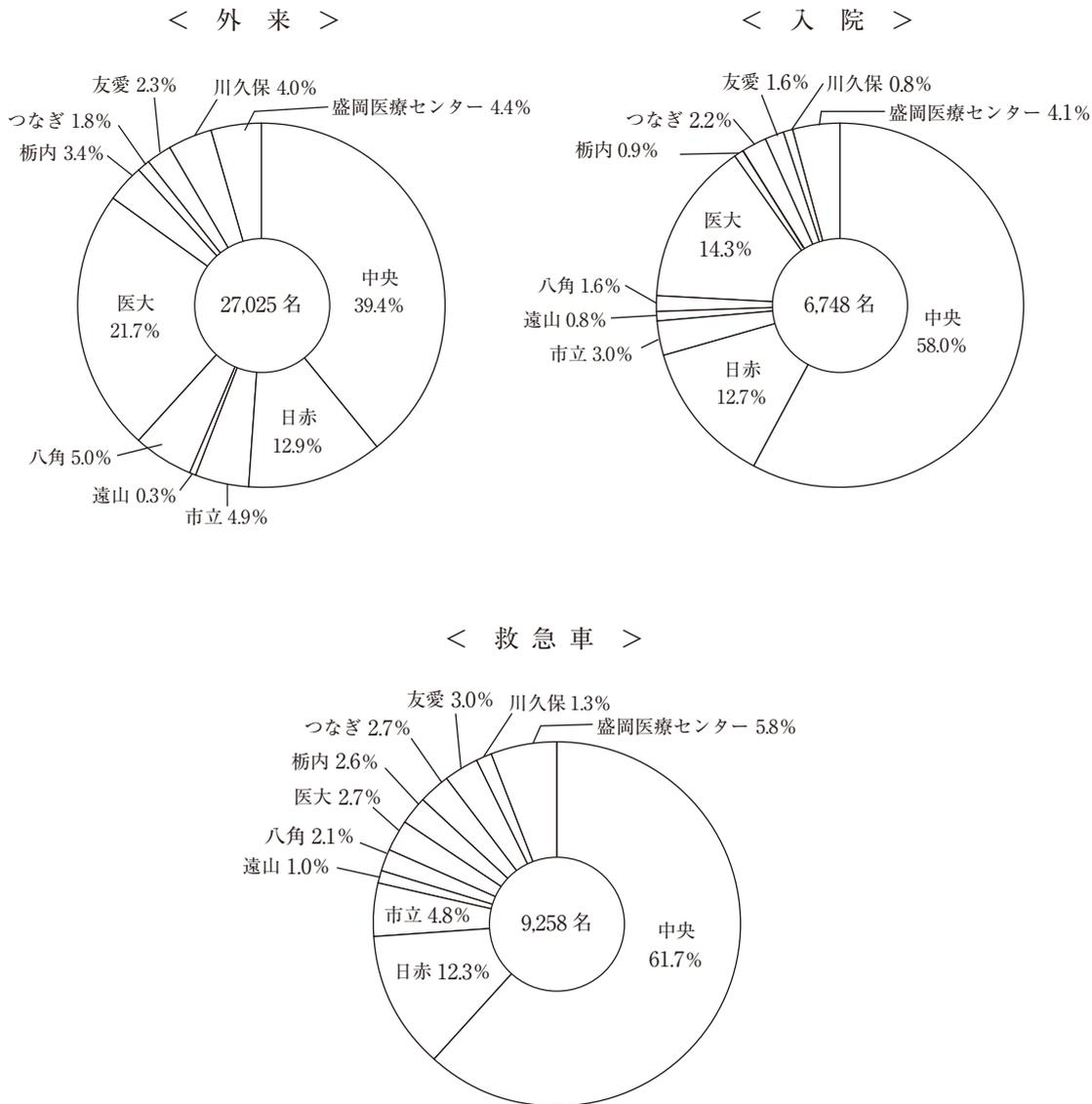


表9 二次救急病院における救急車搬入患者内訳 (2022.1～2022.12)

時間帯 (表4参照)	外 来		入 院		科 別	外 来		入 院	
	患者数	比 率	患者数	比 率		患者数	比 率	患者数	比 率
深夜	932	16.9	554	14.8	内科系	1,908	34.6	2,008	53.6
時間外A	705	12.8	508	13.6	外科系	1,817	33.0	1,242	33.1
土曜日(1)	260	4.7	204	5.4	その他	1,784	32.4	499	13.3
土曜日(2)	455	8.3	284	7.6	計	5,509	(100)	3,749	(100)
日祭日	769	14.0	496	13.2					
時間外B	1,183	21.5	969	25.9					
夜 間	1,205	21.9	734	19.6					
計	5,509	(100)	3,749	(100)					

図3 二次救急病院における救急車搬入内訳

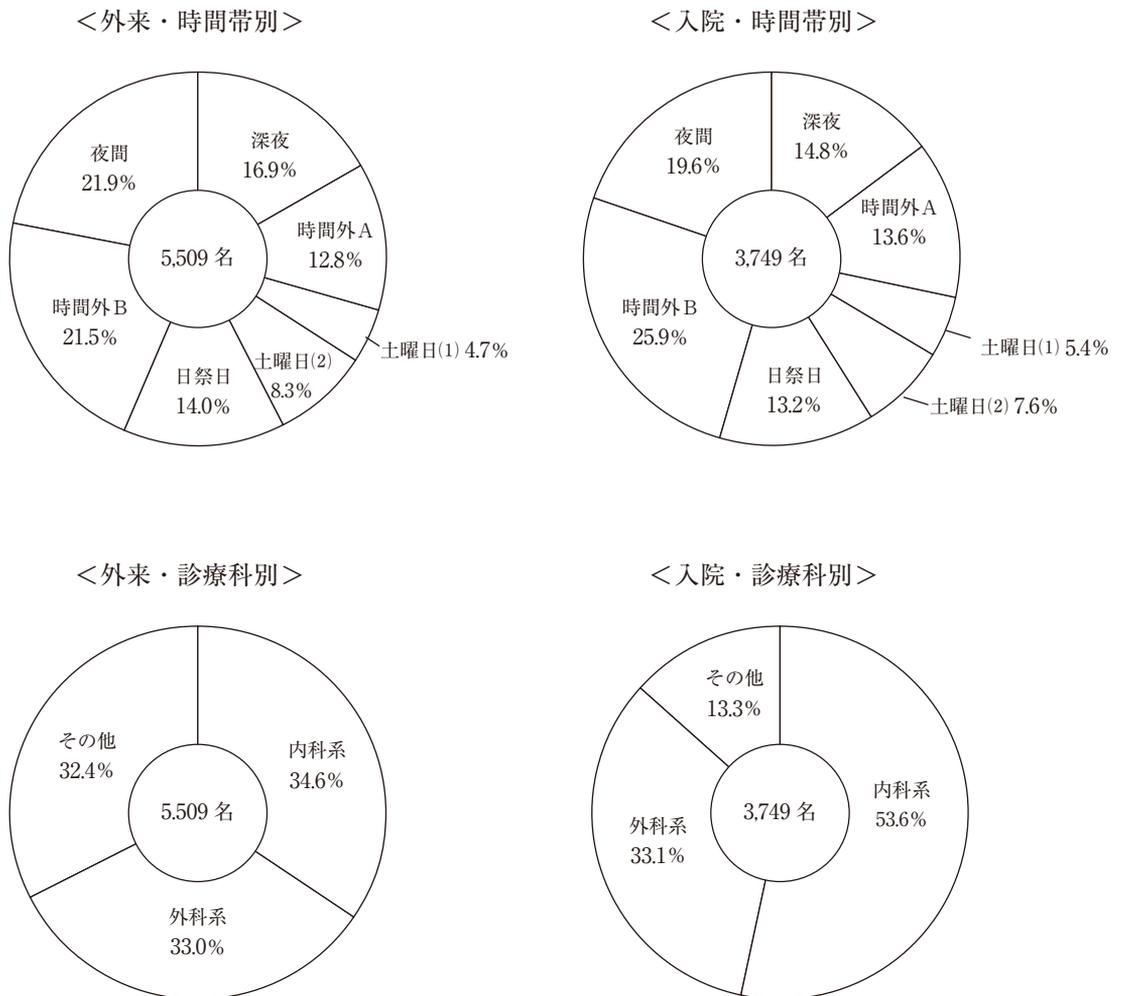
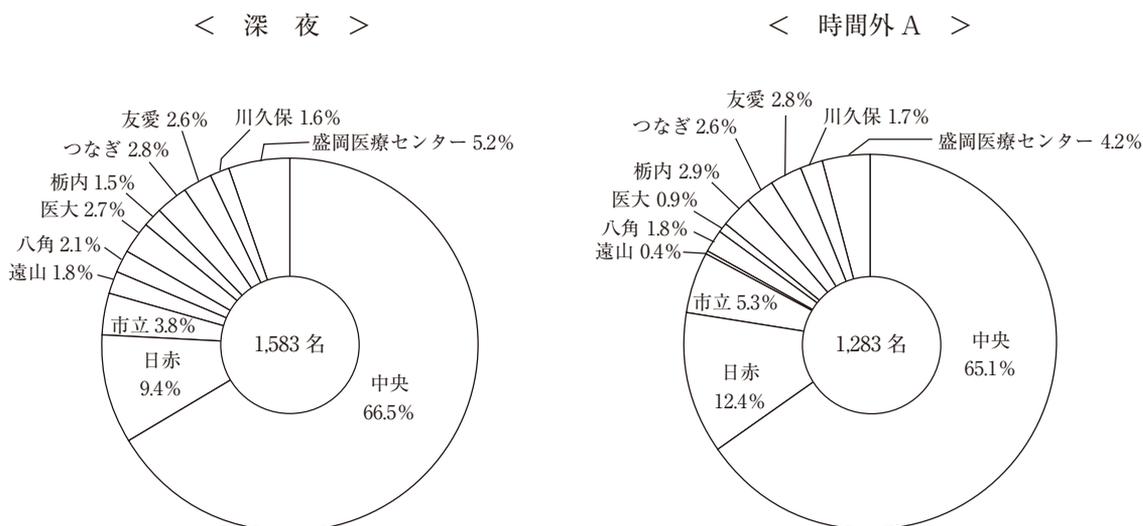


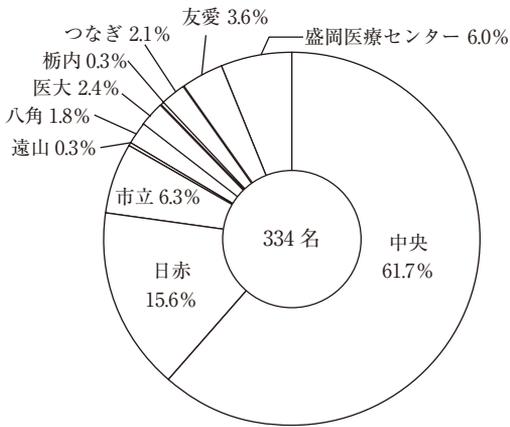
表 10 二次救急病院における病院別救急車搬入患者内訳 (2022. 1 ~ 2022. 12)

	深夜		時間外A		土曜日(1)		土曜日(2)		日祭日		時間外B		夜間		総合	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	1,052	66.5	835	65.1	206	61.7	308	55.0	686	56.8	1,402	61.7	1,222	60.5	5,711	61.7
日赤病院	149	9.4	159	12.4	52	15.6	89	15.9	182	15.1	268	11.8	239	11.8	1,138	12.3
市立病院	60	3.8	68	5.3	21	6.3	34	6.1	78	6.5	96	4.2	89	4.4	446	4.8
遠山病院	29	1.8	5	0.4	1	0.3	10	1.8	8	0.7	11	0.5	29	1.4	93	1.0
八角病院	33	2.1	23	1.8	6	1.8	18	3.2	26	2.2	45	2.0	41	2.0	192	2.1
岩手医大	43	2.7	11	0.9	8	2.4	14	2.5	24	2.0	76	3.3	71	3.5	247	2.7
栃内病院	23	1.5	37	2.9	1	0.3	7	1.3	45	3.7	73	3.2	55	2.7	241	2.6
つなぎ温泉病院	44	2.8	33	2.6	7	2.1	14	2.5	29	2.4	66	2.9	58	2.9	251	2.7
友愛病院	41	2.6	36	2.8	12	3.6	17	3.0	35	2.9	76	3.3	64	3.2	281	3.0
川久保病院	26	1.6	22	1.7	0	0.0	8	1.4	12	1.0	27	1.2	27	1.3	122	1.3
盛岡医療センター	83	5.2	54	4.2	20	6.0	41	7.3	83	6.9	131	5.8	124	6.1	536	5.8
合計	1,583	(100)	1,283	(100)	334	(100)	560	(100)	1,208	(100)	2,271	(100)	2,019	(100)	9,258	(100)

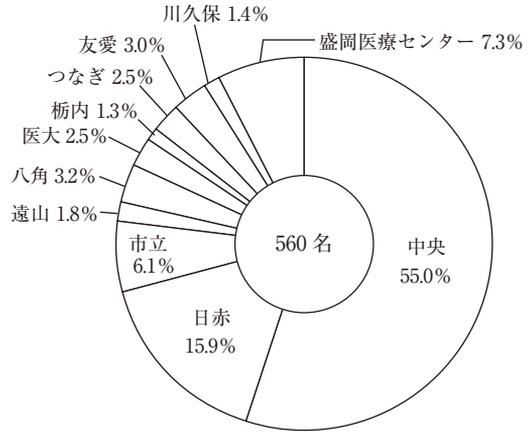
図 4 二次救急病院における病院別、時間帯毎の救急車搬入内訳



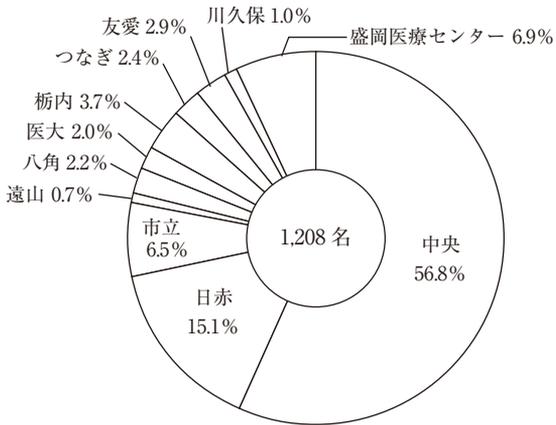
< 土曜日(1) >



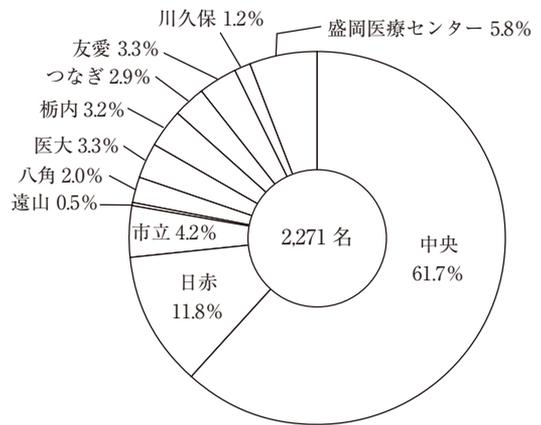
< 土曜日(2) >



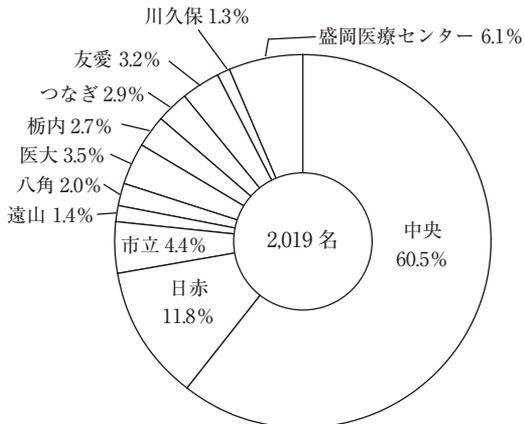
< 日祭日 >



< 時間外 B >



< 夜間 >



< 総合 >

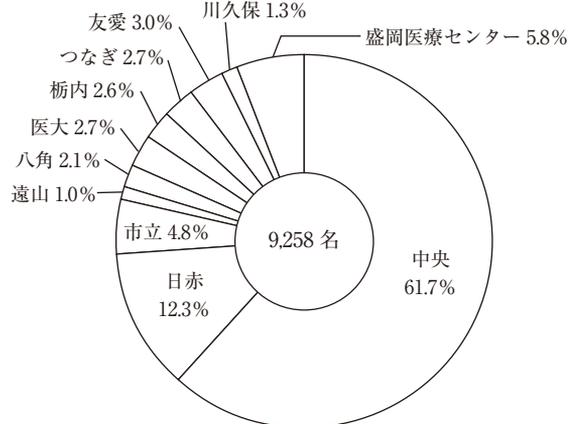


表 11 二次救急病院における外来・入院総合分布（系別による分類Ⅰ）

年間総数		総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	2,438	2,041	4,479	203.2	170.1	373.3
	外科系	3,297	1,223	4,520	274.8	101.9	376.7
	その他	4,915	650	5,565	409.6	54.2	463.8
日赤病院	内科系	990	283	1,273	82.5	23.6	106.1
	外科系	1,540	336	1,876	128.3	28.0	156.3
	その他	945	236	1,181	78.8	19.7	98.4
市立病院	内科系	612	96	708	51.0	8.0	59.0
	外科系	713	100	813	59.4	8.3	67.8
	その他	6	4	10	0.5	0.3	0.8
遠山病院	内科系	86	52	138	7.2	4.3	11.5
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	1	1	2	0.1	0.1	0.2
八角病院	内科系	1,075	103	1,178	89.6	8.6	98.2
	外科系	281	8	289	23.4	0.7	24.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	2,606	472	3,078	217.2	39.3	256.5
	外科系	2,500	302	2,802	208.3	25.2	233.5
	その他	756	192	948	63.0	16.0	79.0
栃内病院	内科系	17	1	18	1.4	0.1	1.5
	外科系	896	62	958	74.7	5.2	79.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	477	148	625	39.8	12.3	52.1
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	346	79	425	28.8	6.6	35.4
	外科系	125	12	137	10.4	1.0	11.4
	その他	147	14	161	12.3	1.2	13.4
川久保病院	内科系	385	51	436	32.1	4.3	36.3
	外科系	6	2	8	0.5	0.2	0.7
	その他	689	1	690	57.4	0.1	57.5
盛岡医療センター	内科系	204	103	307	17.0	8.6	25.6
	外科系	534	84	618	44.5	7.0	51.5
	その他	438	92	530	36.5	7.7	44.2
合 計	内科系	9,236	3,429	12,665	769.7	285.8	1,055.4
	外科系	9,892	2,129	12,021	824.3	177.4	1,001.8
	その他	7,897	1,190	9,087	658.1	99.2	757.3
総 合 計		27,025	6,748	33,773	2,252.1	562.3	2,814.4
				1日平均	74.0	18.5	92.5

表 12 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中央病院	4,479	35.4	4,520	37.6	5,565	61.2
日赤病院	1,273	10.1	1,876	15.6	1,181	13.0
市立病院	708	5.6	813	6.8	10	0.1
遠山病院	138	1.1	0	0.0	2	0.02
八角病院	1,178	9.3	289	2.4	0	0.0
岩手医大	3,078	24.3	2,802	23.3	948	10.4
栃内病院	18	0.1	958	8.0	0	0.0
つなぎ温泉病院	625	4.9	0	0.0	0	0.0
友愛病院	425	3.4	137	1.1	161	1.8
川久保病院	436	3.4	8	0.1	690	7.6
盛岡医療センター	307	2.4	618	5.1	530	5.8
合 計	12,665	(100)	12,021	(100)	9,087	(100)

図 5 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類）

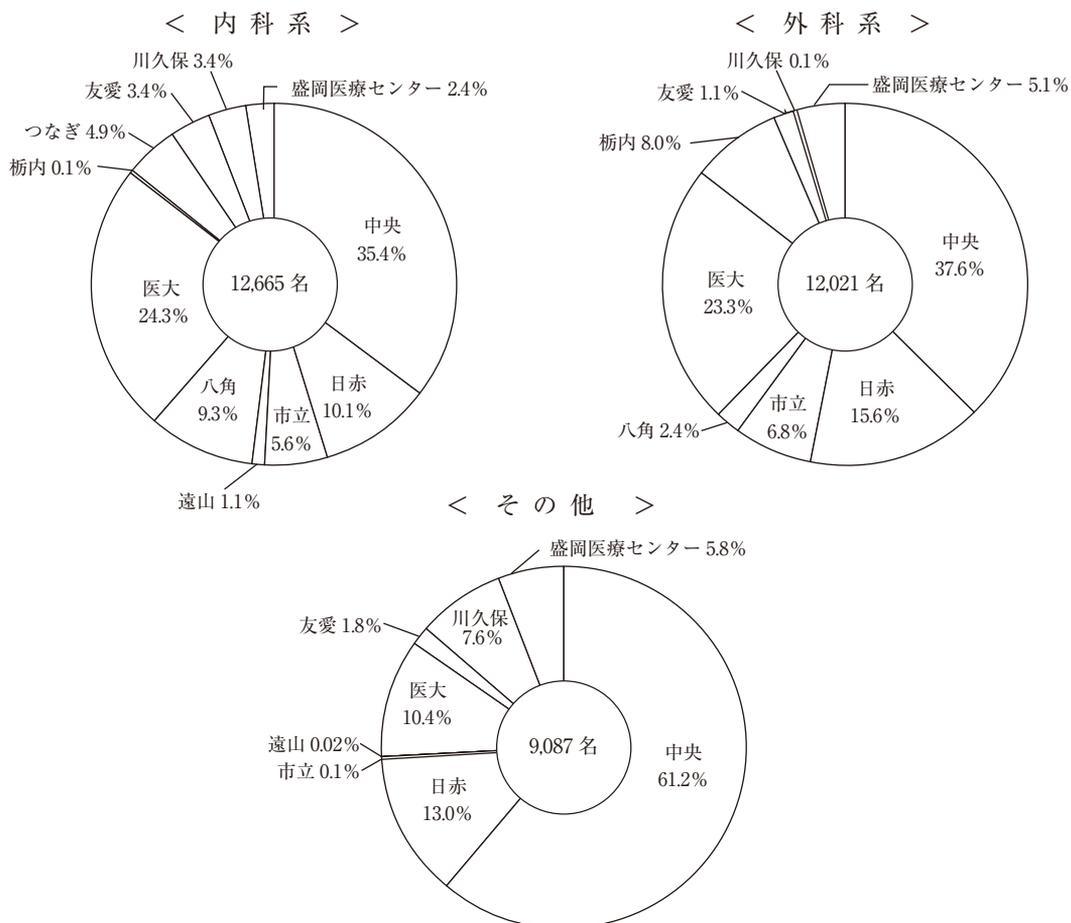


表 13 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	外 来						入 院					
	内 科 系		外 科 系		そ の 他		内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比率										
中央病院	2,438	26.4	3,297	33.3	4,915	62.2	2,041	59.5	1,223	57.4	650	54.6
日赤病院	990	10.7	1,540	15.6	945	12.0	283	8.3	336	15.8	236	19.8
市立病院	612	6.6	713	7.2	6	0.1	96	2.8	100	4.7	4	0.3
遠山病院	86	0.9	0	0.0	1	0.0	52	1.5	0	0.0	1	0.1
八角病院	1,075	11.6	281	2.8	0	0.0	103	3.0	8	0.4	0	0.0
岩手医大	2,606	28.2	2,500	25.3	756	9.6	472	13.8	302	14.2	192	16.1
栃内病院	17	0.2	896	9.1	0	0.0	1	0.03	62	2.9	0	0.0
つなぎ温泉病院	477	5.2	0	0.0	0	0.0	148	4.3	0	0.0	0	0.0
友愛病院	346	3.7	125	1.3	147	1.9	79	2.3	12	0.6	14	1.2
川久保病院	385	4.2	6	0.1	689	8.7	51	1.5	2	0.1	1	0.1
盛岡医療センター	204	2.2	534	5.4	438	5.5	103	3.0	84	3.9	92	7.7
合 計	9,236	(100)	9,892	(100)	7,897	(100)	3,429	(100)	2,129	(100)	1,190	(100)

図6 二次救急病院における来院患者の外来・入院病院別分布

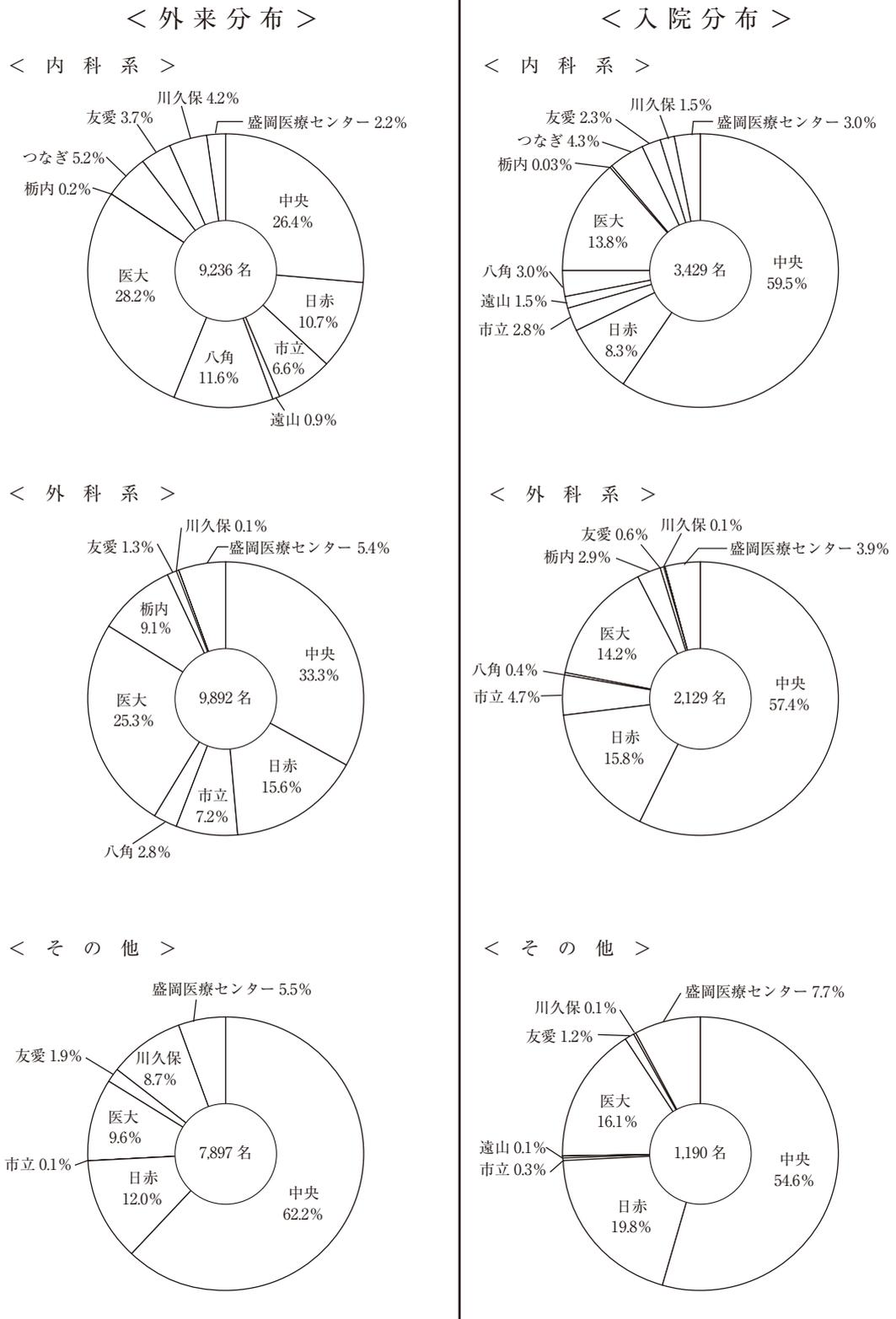


表 14 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

		外 来		入 院	
		患 者 数	比 率	患 者 数	比 率
内 科 系	深 夜	1,214	13.1	464	13.5
	時 間 外 A	905	9.8	411	12.0
	土 曜 日 (1)	665	7.2	213	6.2
	土 曜 日 (2)	689	7.5	308	9.0
	日 祭 日	1,992	21.6	548	16.0
	時 間 外 B	1,914	20.7	885	25.8
	夜 間	1,857	20.1	600	17.5
	計	9,236	100	3,429	100
外 科 系	深 夜	798	8.1	259	12.2
	時 間 外 A	811	8.2	233	10.9
	土 曜 日 (1)	696	7.0	157	7.4
	土 曜 日 (2)	1,045	10.6	225	10.6
	日 祭 日	1,984	20.1	333	15.6
	時 間 外 B	2,407	24.3	571	26.8
	夜 間	2,151	21.7	351	16.5
	計	9,892	100	2,129	100
そ の 他	深 夜	964	12.2	208	17.5
	時 間 外 A	673	8.5	79	6.6
	土 曜 日 (1)	400	5.1	80	6.7
	土 曜 日 (2)	770	9.8	104	8.7
	日 祭 日	1,589	20.1	164	13.8
	時 間 外 B	1,720	21.8	286	24.0
	夜 間	1,781	22.6	269	22.6
	計	7,897	100	1,190	100
総 計		27,025		6,748	

図7 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

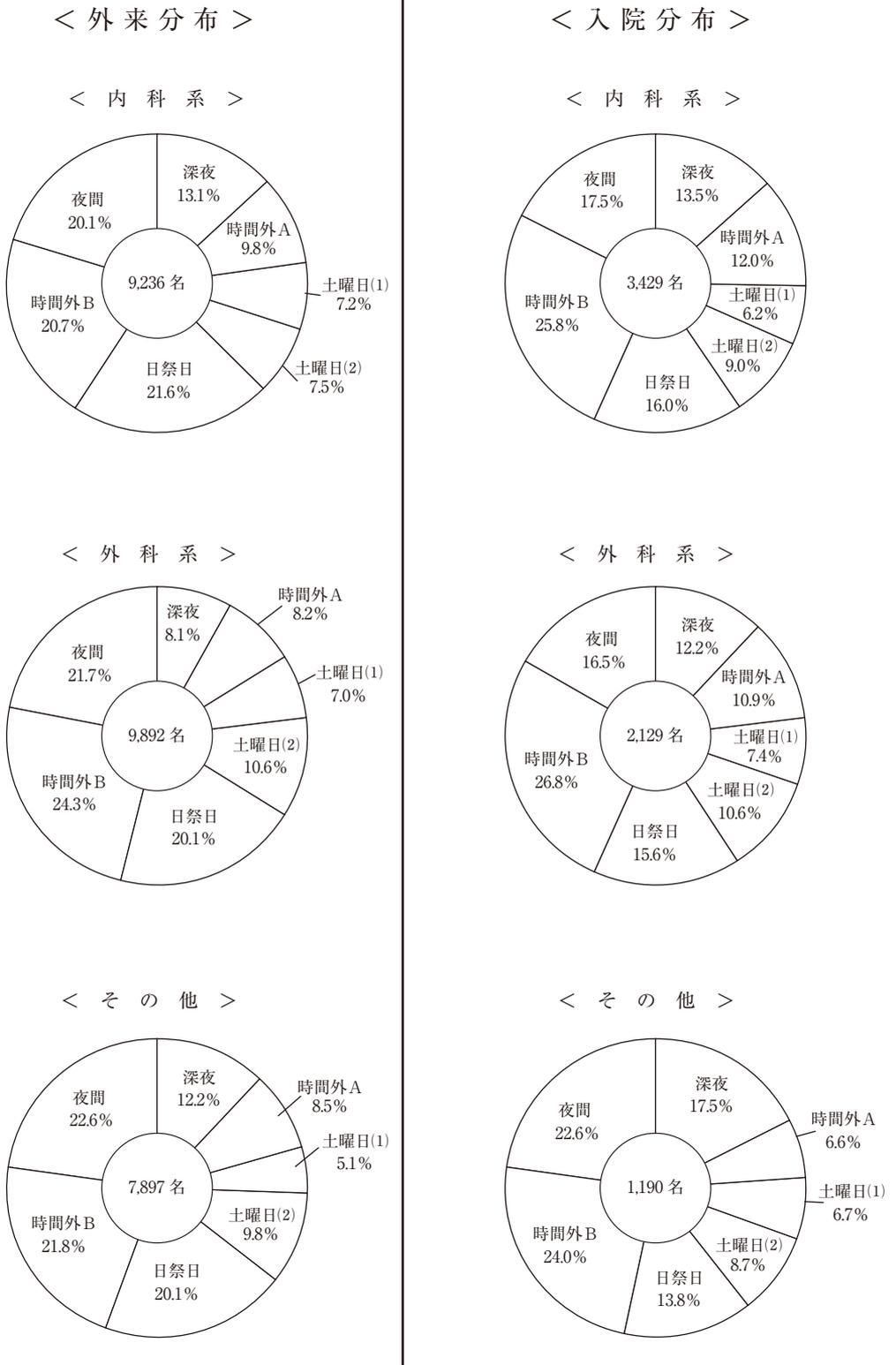


図8 二次救急病院における時間帯別外来患者比率

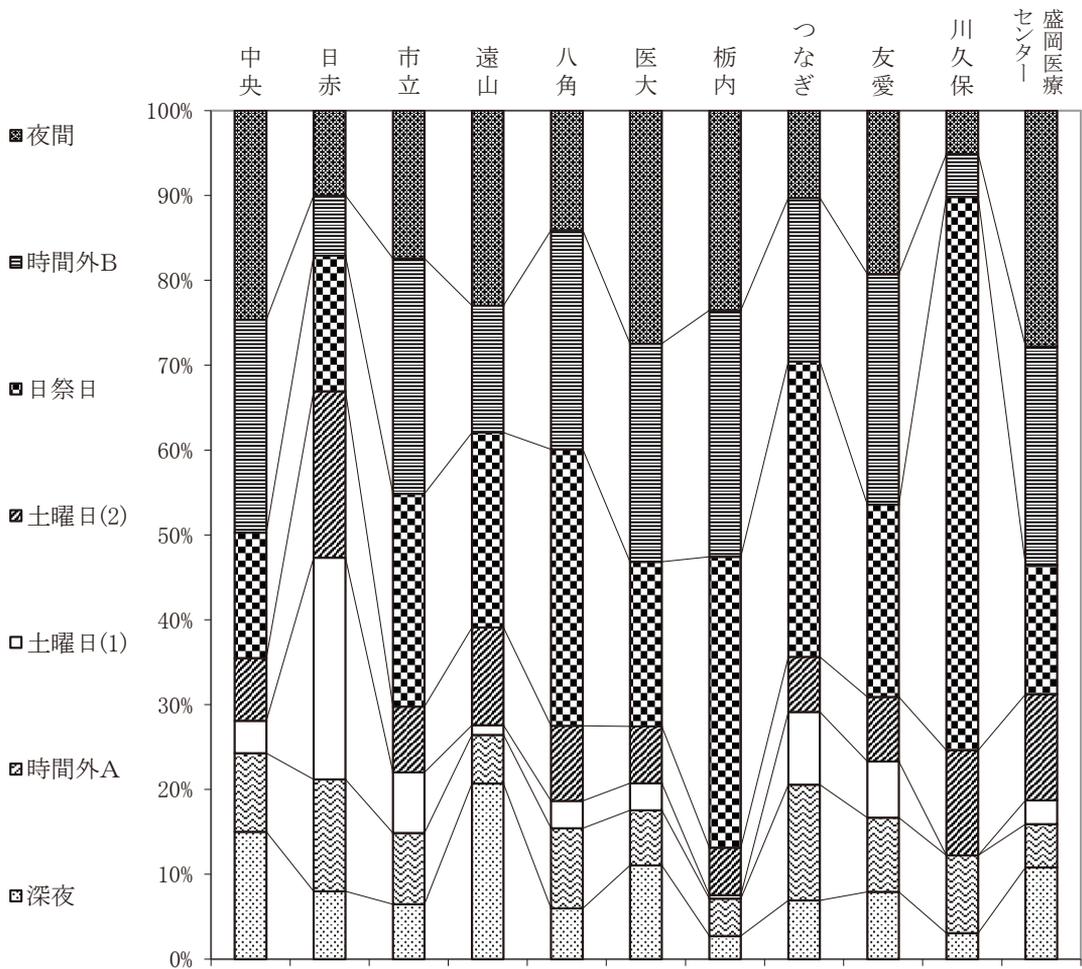


図9 二次救急病院における時間帯別入院患者比率

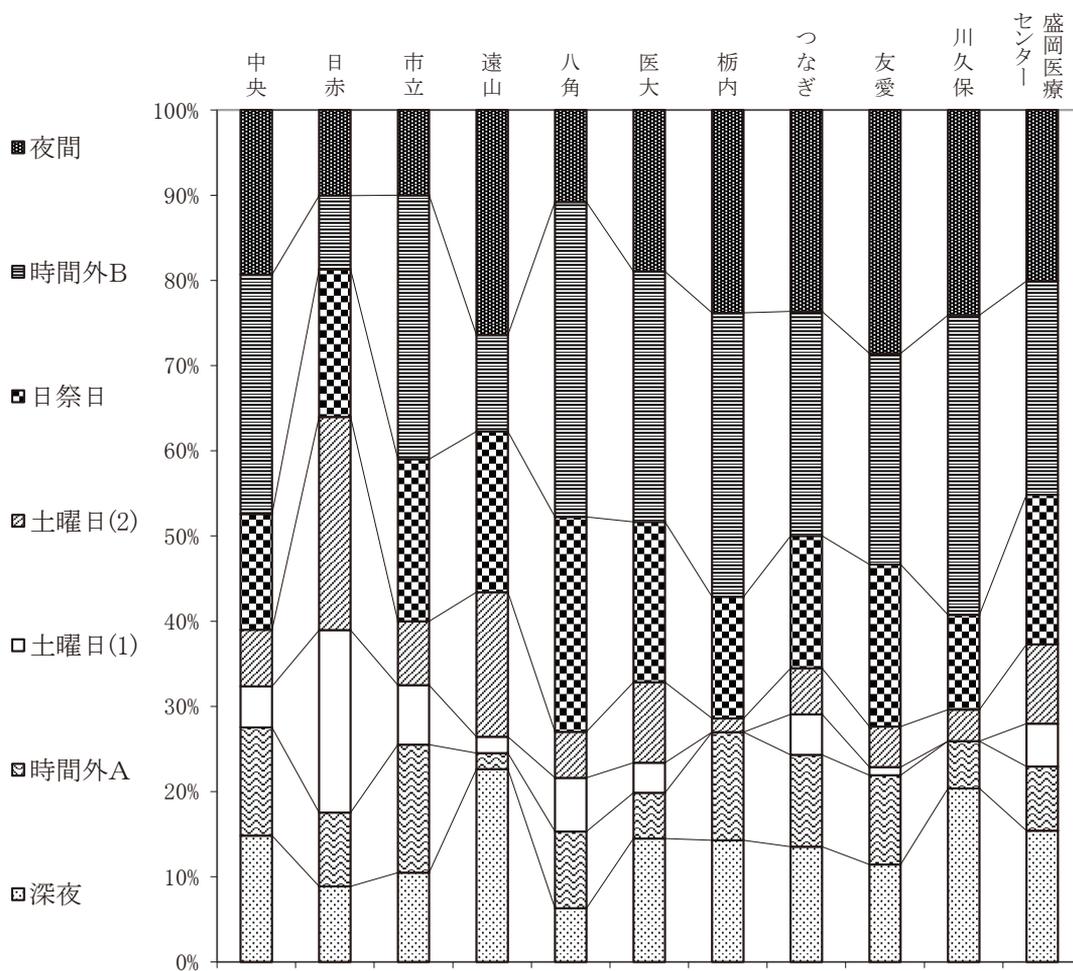


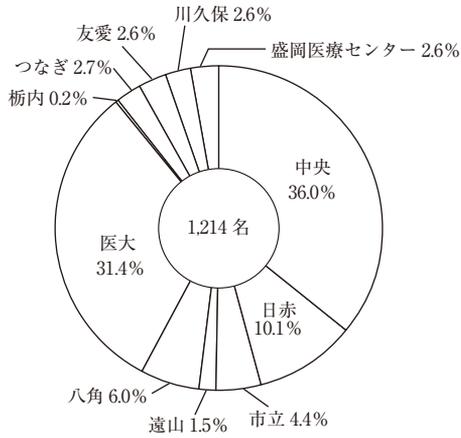
表 15 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

深夜 (AM0～AM6)	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	437	287	724	36.4	23.9	60.3
	外科系	392	170	562	32.7	14.2	46.8
	その他	770	123	893	64.2	10.3	74.4
日赤病院	内科系	123	31	154	10.3	2.6	12.8
	外科系	122	32	154	10.2	2.7	12.8
	その他	33	13	46	2.8	1.1	3.8
市立病院	内科系	53	10	63	4.4	0.8	5.3
	外科系	33	11	44	2.8	0.9	3.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	18	11	29	1.5	0.9	2.4
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	1	1	0.0	0.1	0.1
八角病院	内科系	73	7	80	6.1	0.6	6.7
	外科系	8	0	8	0.7	0.0	0.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	381	64	445	31.8	5.3	37.1
	外科系	191	25	216	15.9	2.1	18.0
	その他	75	51	126	6.3	4.3	10.5
栃内病院	内科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	外科系	23	9	32	1.9	0.8	2.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	33	20	53	2.8	1.7	4.4
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	31	9	40	2.6	0.8	3.3
	外科系	3	1	4	0.3	0.1	0.3
	その他	15	2	17	1.3	0.2	1.4
川久保病院	内科系	31	10	41	2.6	0.8	3.4
	外科系	0	1	1	0.0	0.1	0.1
	その他	2	0	2	0.2	0.0	0.2
盛岡医療センター	内科系	32	15	47	2.7	1.3	3.9
	外科系	26	10	36	2.2	0.8	3.0
	その他	69	18	87	5.8	1.5	7.3
合 計	内科系	1,214	464	1,678	101.2	38.7	139.8
	外科系	798	259	1,057	66.5	21.6	88.1
	その他	964	208	1,172	80.3	17.3	97.7
総 合 計		2,976	931	3,907	248.0	77.6	325.6
				1日平均	8.2	2.6	10.7

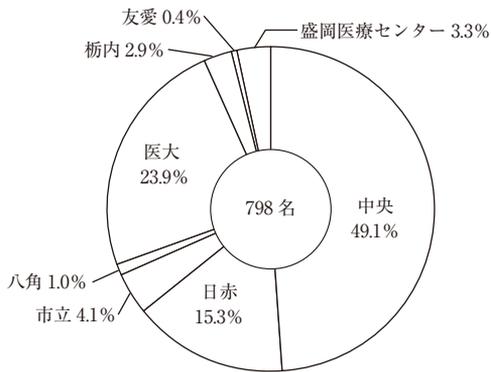
図 10 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

< 外来分布 >

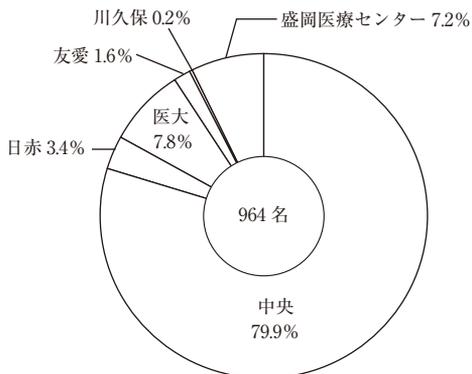
< 内科系 >



< 外科系 >

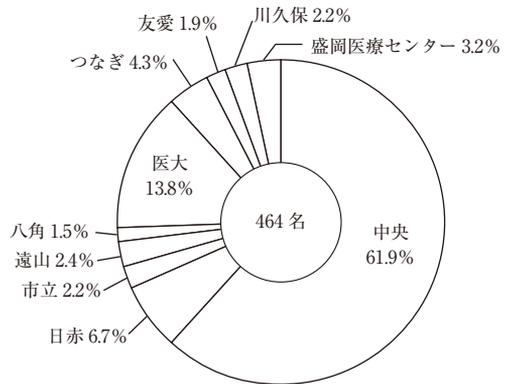


< その他 >

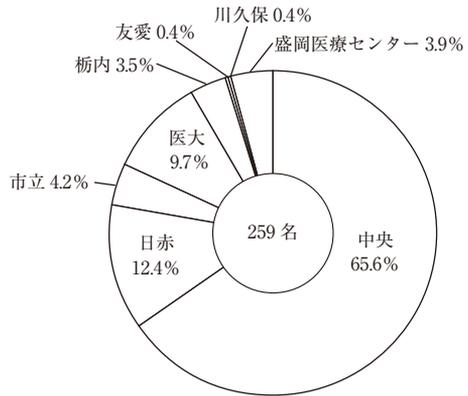


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

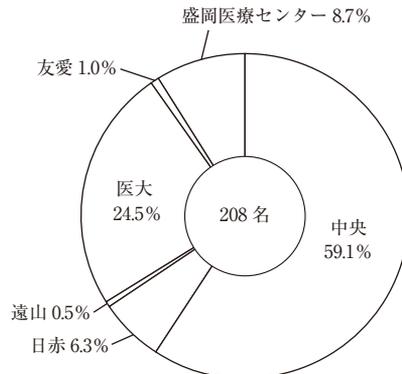


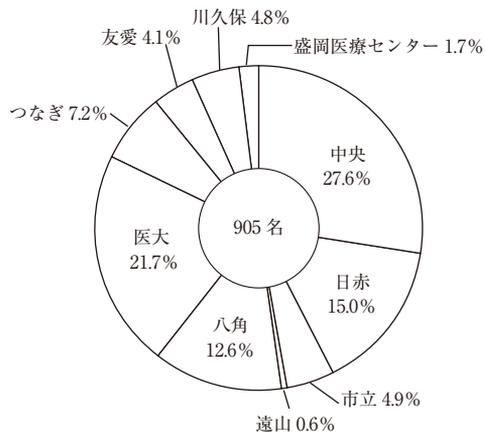
表 16 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

時間外A (AM6～AM9)	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	250	316	566	20.8	26.3	47.2
	外科系	273	139	412	22.8	11.6	34.3
	その他	463	42	505	38.6	3.5	42.1
日赤病院	内科系	136	26	162	11.3	2.2	13.5
	外科系	235	29	264	19.6	2.4	22.0
	その他	87	19	106	7.3	1.6	8.8
市立病院	内科系	44	7	51	3.7	0.6	4.3
	外科系	68	23	91	5.7	1.9	7.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	5	1	6	0.4	0.1	0.5
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	114	8	122	9.5	0.7	10.2
	外科系	14	2	16	1.2	0.2	1.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	196	21	217	16.3	1.8	18.1
	外科系	149	20	169	12.4	1.7	14.1
	その他	37	11	48	3.1	0.9	4.0
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	40	8	48	3.3	0.7	4.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	65	16	81	5.4	1.3	6.8
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	37	8	45	3.1	0.7	3.8
	外科系	5	3	8	0.4	0.3	0.7
	その他	12	0	12	1.0	0.0	1.0
川久保病院	内科系	43	3	46	3.6	0.3	3.8
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	56	0	56	4.7	0.0	4.7
盛岡医療センター	内科系	15	5	20	1.3	0.4	1.7
	外科系	27	9	36	2.3	0.8	3.0
	その他	18	7	25	1.5	0.6	2.1
合 計	内科系	905	411	1,316	75.4	34.3	109.7
	外科系	811	233	1,044	67.6	19.4	87.0
	その他	673	79	752	56.1	6.6	62.7
総 合 計		2,389	723	3,112	199.1	60.3	259.3
				1日平均	6.5	2.0	8.5

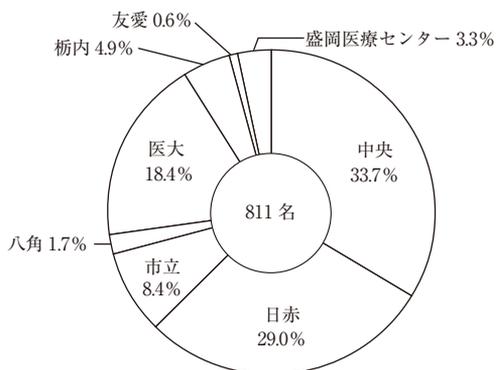
図 11 二次救急病院の外來・入院分布（時間外A）

< 外來分布 >

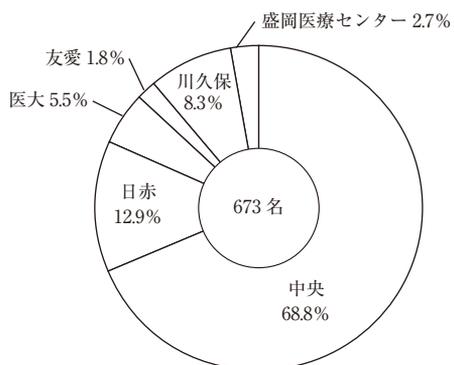
< 内科系 >



< 外科系 >

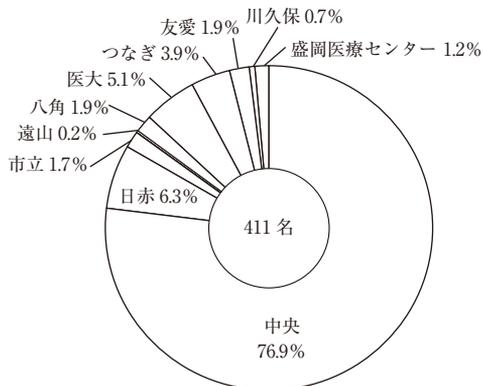


< その他 >

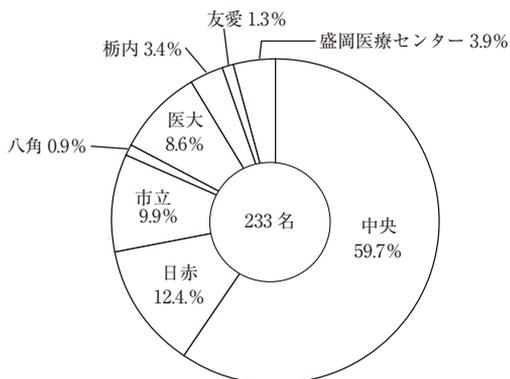


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

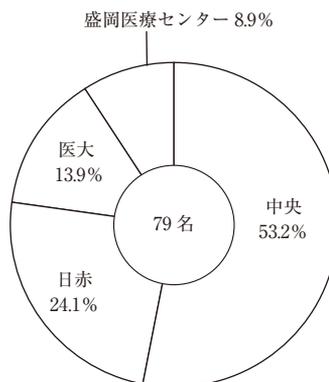


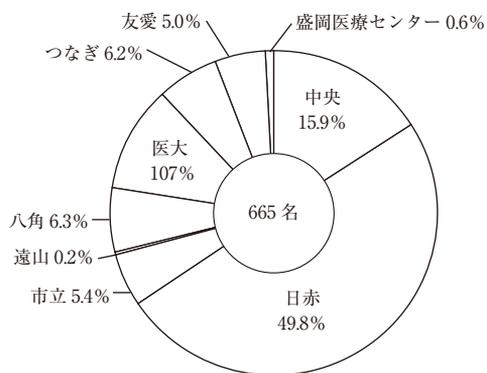
表 17 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

土曜日（1） （AM9～PM0）	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	106	100	206	8.8	8.3	17.2
	外科系	154	68	222	12.8	5.7	18.5
	その他	148	21	169	12.3	1.8	14.1
日赤病院	内科系	331	62	393	27.6	5.2	32.8
	外科系	368	72	440	30.7	6.0	36.7
	その他	209	49	258	17.4	4.1	21.5
市立病院	内科系	36	8	44	3.0	0.7	3.7
	外科系	58	5	63	4.8	0.4	5.3
	その他	1	1	2	0.1	0.1	0.2
遠山病院	内科系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	42	7	49	3.5	0.6	4.1
	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	71	17	88	5.9	1.4	7.3
	外科系	85	8	93	7.1	0.7	7.8
	その他	30	9	39	2.5	0.8	3.3
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	41	7	48	3.4	0.6	4.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	33	1	34	2.8	0.1	2.8
	外科系	4	0	4	0.3	0.0	0.3
	その他	4	0	4	0.3	0.0	0.3
川久保病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
盛岡医療センター	内科系	4	10	14	0.3	0.8	1.2
	外科系	21	4	25	1.8	0.3	2.1
	その他	8	0	8	0.7	0.0	0.7
合 計	内科系	665	213	878	55.4	17.8	73.2
	外科系	696	157	853	58.0	13.1	71.1
	その他	400	80	480	33.3	6.7	40.0
総 合 計		1,761	450	2,211	146.8	37.5	184.3
				1日平均	4.8	1.2	6.1

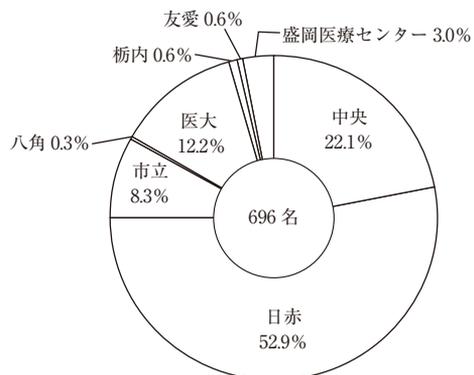
図 12 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

< 外来分布 >

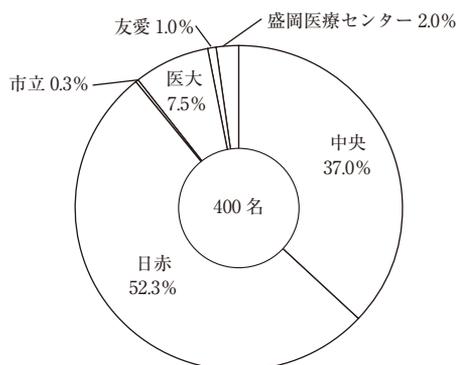
< 内科系 >



< 外科系 >

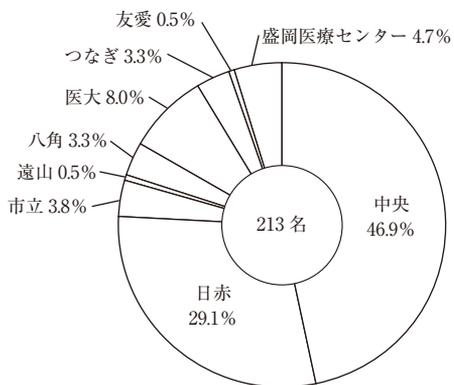


< その他 >

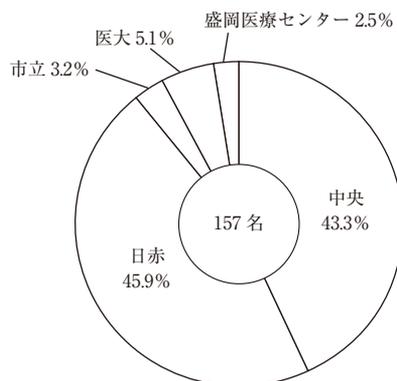


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

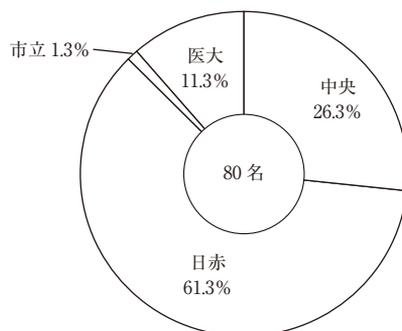


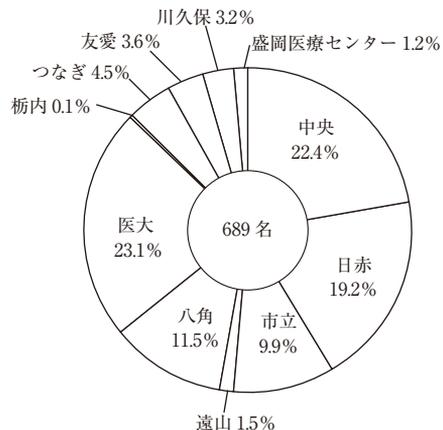
表 18 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

土曜日（2） （PM0～PM5）	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	154	153	307	12.8	12.8	25.6
	外科系	290	86	376	24.2	7.2	31.3
	その他	341	21	362	28.4	1.8	30.2
日赤病院	内科系	132	65	197	11.0	5.4	16.4
	外科系	344	90	434	28.7	7.5	36.2
	その他	206	59	265	17.2	4.9	22.1
市立病院	内科系	68	5	73	5.7	0.4	6.1
	外科系	35	9	44	2.9	0.8	3.7
	その他	0	1	1	0.0	0.1	0.1
遠山病院	内科系	10	9	19	0.8	0.8	1.6
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	79	6	85	6.6	0.5	7.1
	外科系	41	0	41	3.4	0.0	3.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	159	49	208	13.3	4.1	17.3
	外科系	174	27	201	14.5	2.3	16.8
	その他	61	15	76	5.1	1.3	6.3
栃内病院	内科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	外科系	50	1	51	4.2	0.1	4.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	31	8	39	2.6	0.7	3.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	25	4	29	2.1	0.3	2.4
	外科系	8	1	9	0.7	0.1	0.8
	その他	14	0	14	1.2	0.0	1.2
川久保病院	内科系	22	2	24	1.8	0.2	2.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	112	0	112	9.3	0.0	9.3
盛岡医療センター	内科系	8	7	15	0.7	0.6	1.3
	外科系	103	11	114	8.6	0.9	9.5
	その他	36	8	44	3.0	0.7	3.7
合 計	内科系	689	308	997	57.4	25.7	83.1
	外科系	1,045	225	1,270	87.1	18.8	105.8
	その他	770	104	874	64.2	8.7	72.8
総 合 計		2,504	637	3,141	208.7	53.1	261.8
				1日平均	6.9	1.7	8.6

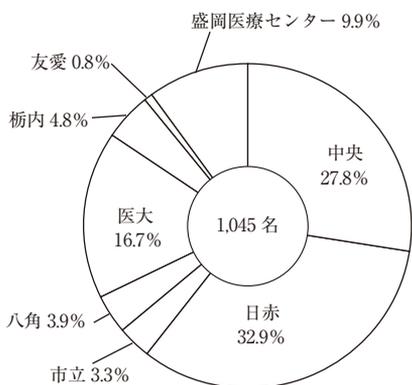
図 13 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

< 外来分布 >

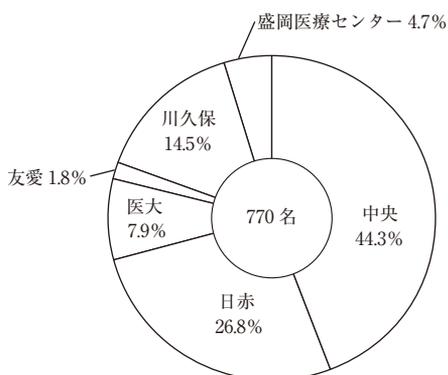
< 内科系 >



< 外科系 >

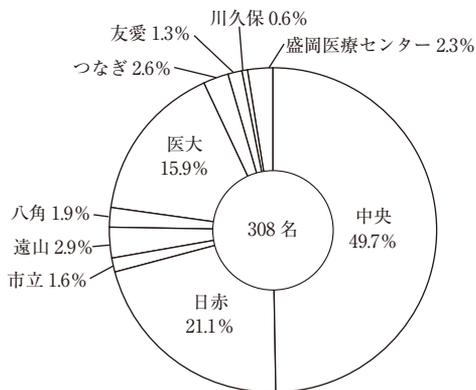


< その他 >

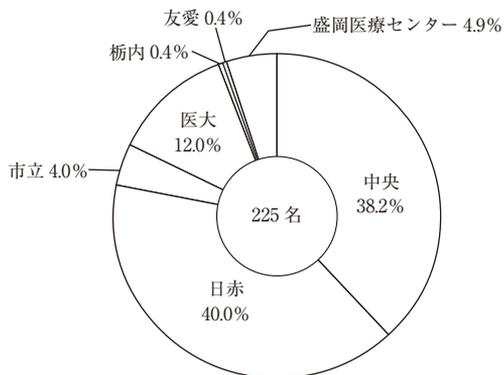


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

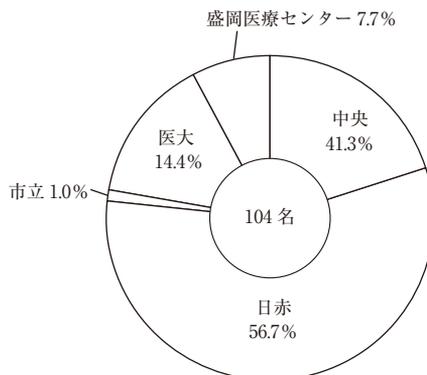


表 19 二次救急病院の外来・入院分布（日祭日）

日 祭 日 (AM9～PM5)	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	386	305	691	32.2	25.4	657.6
	外 科 系	543	168	711	45.3	14.0	59.3
	そ の 他	646	59	705	53.8	4.9	58.8
日 赤 病 院	内 科 系	117	39	156	9.8	3.3	13.0
	外 科 系	220	48	268	18.3	4.0	22.3
	そ の 他	218	61	279	18.2	5.1	23.3
市 立 病 院	内 科 系	161	18	179	13.4	1.5	14.9
	外 科 系	170	20	190	14.2	1.7	15.8
	そ の 他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
遠 山 病 院	内 科 系	19	10	29	1.6	0.8	2.4
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
八 角 病 院	内 科 系	360	26	386	30.0	2.2	32.2
	外 科 系	82	2	84	6.8	0.2	7.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	451	89	540	37.6	7.4	45.0
	外 科 系	536	65	601	44.7	5.4	50.1
	そ の 他	150	28	178	12.5	2.3	14.8
栃 内 病 院	内 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外 科 系	313	9	322	26.1	0.8	26.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	166	23	189	13.8	1.9	15.8
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	95	15	110	7.9	1.3	9.2
	外 科 系	32	2	34	2.7	0.2	2.8
	そ の 他	13	3	16	1.1	0.3	1.3
川 久 保 病 院	内 科 系	203	4	207	16.9	0.3	17.3
	外 科 系	4	1	5	0.3	0.1	0.4
	そ の 他	497	1	498	41.4	0.1	41.5
盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	34	19	53	2.8	1.6	4.4
	外 科 系	84	18	102	7.0	1.5	8.5
	そ の 他	61	12	73	5.1	1.0	6.1
合 計	内 科 系	1,992	548	2,540	166.0	45.7	211.7
	外 科 系	1,984	333	2,317	165.3	27.8	193.1
	そ の 他	1,589	164	1,753	132.4	13.7	146.1
総 合 計		5,565	1,045	6,610	463.8	87.1	550.8
				1 日 平 均	15.2	2.9	18.1

図 14 二次救急病院の外来・入院分布（日祭日）

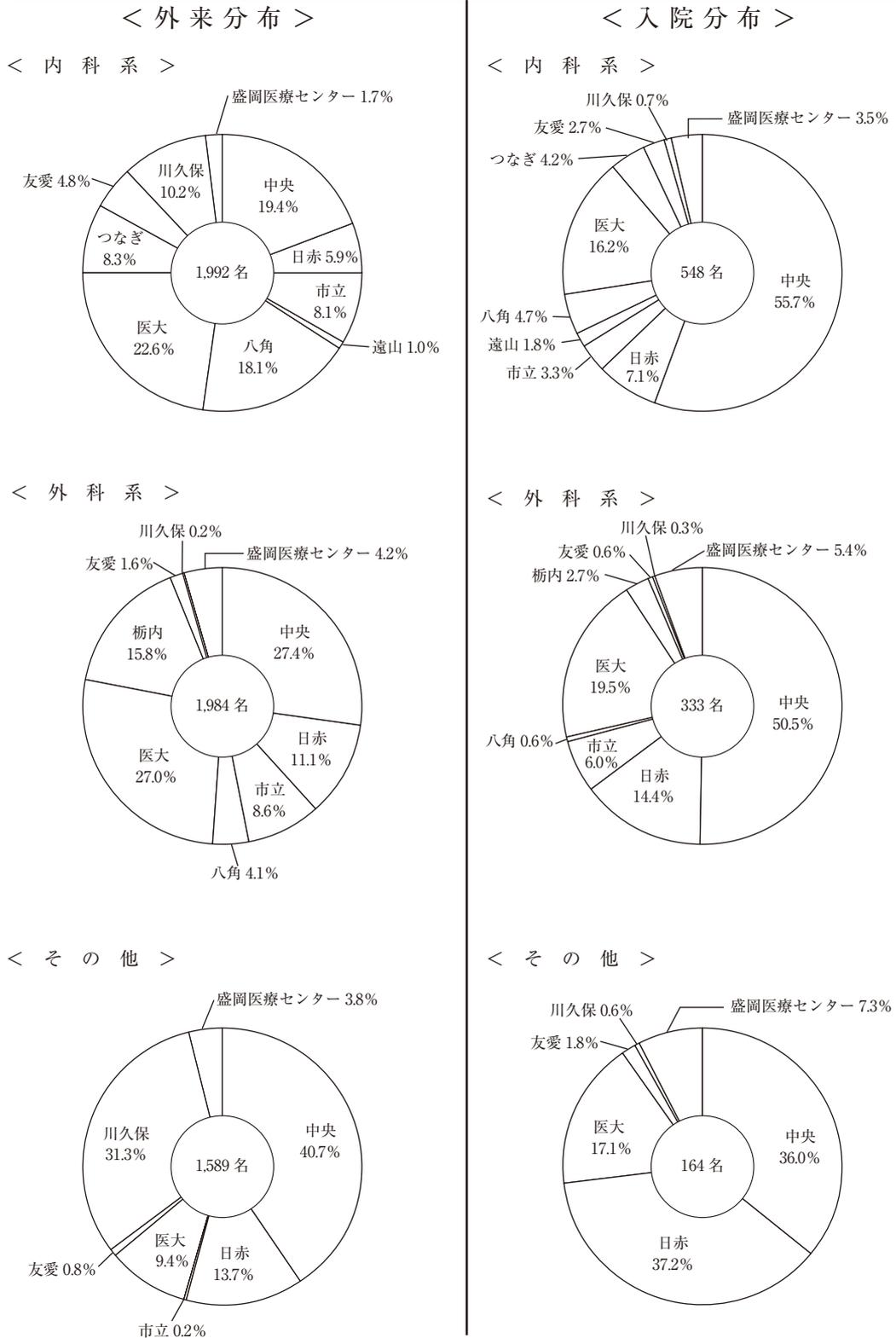


表 20 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

時間外B (PM5～PM8)	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	537	537	1,074	44.8	44.8	89.5
	外科系	882	360	1,242	73.5	30.0	103.5
	その他	1,253	203	1,456	104.4	16.9	121.3
日赤病院	内科系	53	22	75	4.4	1.8	6.3
	外科系	83	34	117	6.9	2.8	9.8
	その他	111	18	129	9.3	1.5	10.8
市立病院	内科系	157	33	190	13.1	2.8	15.8
	外科系	211	27	238	17.6	2.3	19.8
	その他	1	2	3	0.1	0.2	0.3
遠山病院	内科系	13	6	19	1.1	0.5	1.6
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	250	38	288	20.8	3.2	24.0
	外科系	100	3	103	8.3	0.3	8.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	641	145	786	53.4	12.1	65.5
	外科系	682	106	788	56.8	8.8	65.7
	その他	184	33	217	15.3	2.8	18.1
栃内病院	内科系	5	1	6	0.4	0.1	0.5
	外科系	260	20	280	21.7	1.7	23.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	92	39	131	7.7	3.3	10.9
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	72	19	91	6.0	1.6	7.6
	外科系	39	2	41	3.3	0.2	3.4
	その他	57	5	62	4.8	0.4	5.2
川久保病院	内科系	42	19	61	3.5	1.6	5.1
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	12	0	12	1.0	0.0	1.0
盛岡医療センター	内科系	52	26	78	4.3	2.2	6.5
	外科系	149	19	168	12.4	1.6	14.0
	その他	102	25	127	8.5	2.1	10.6
合 計	内科系	1,914	885	2,799	159.5	73.8	233.3
	外科系	2,407	571	2,978	200.6	47.6	248.2
	その他	1,720	286	2,006	143.3	23.8	167.2
総 合 計		6,041	1,742	7,783	503.4	145.2	648.6
				1日平均	16.6	4.8	21.3

図 15 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

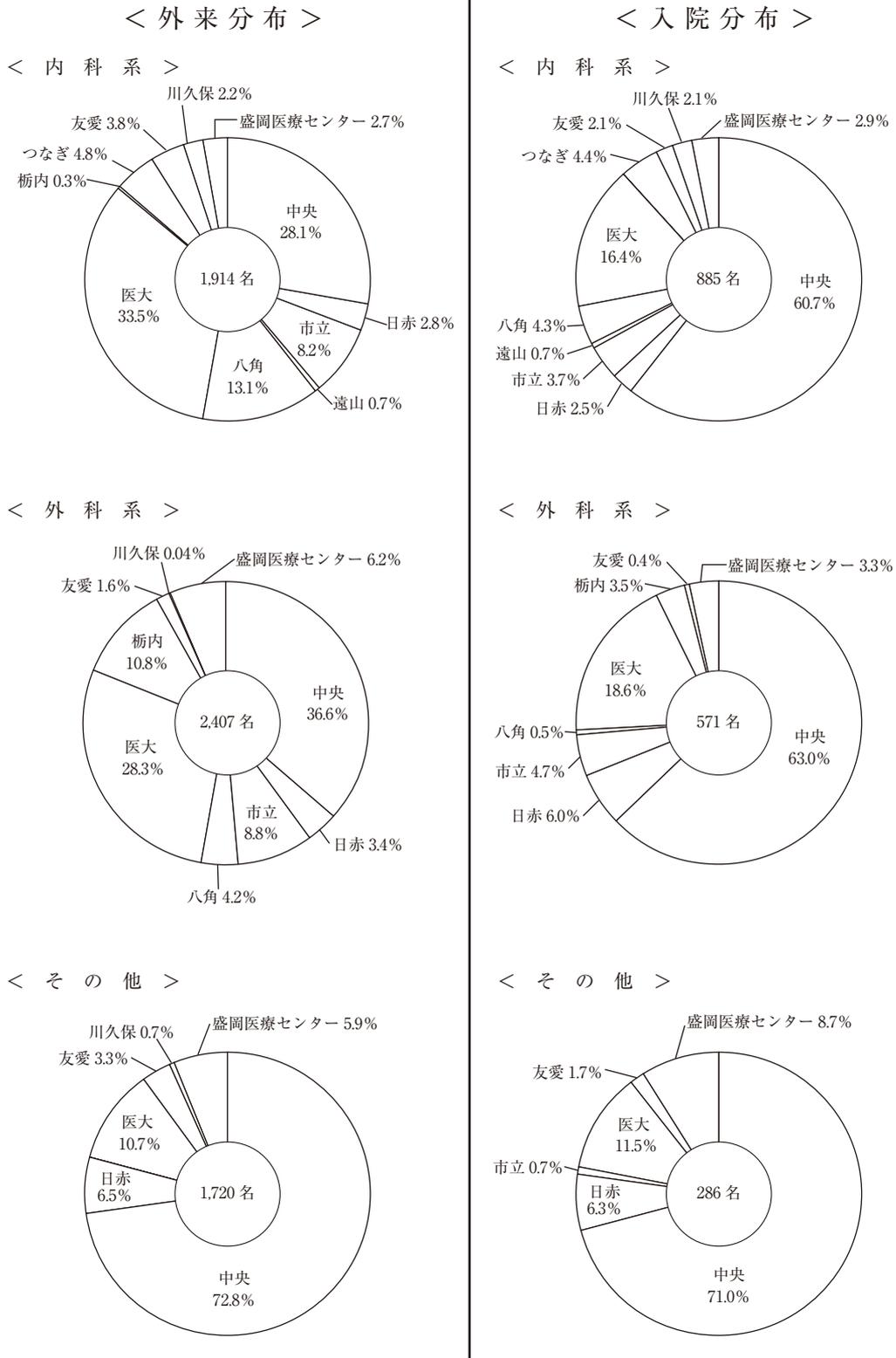


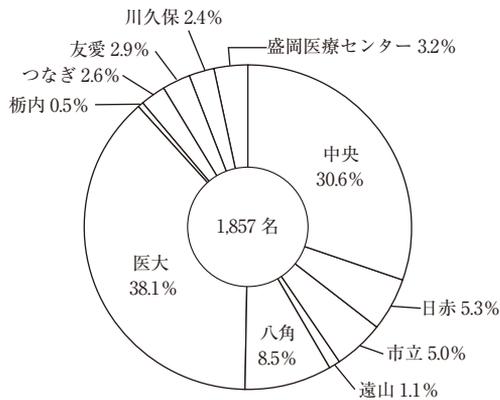
表 21 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

夜 間 (PM8～PM12)	2022.1～ 2022.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	568	343	911	47.3	28.6	75.9
	外 科 系	763	232	995	63.6	19.3	82.9
	そ の 他	1,294	181	1,475	107.8	15.1	122.9
日 赤 病 院	内 科 系	98	38	136	8.2	3.2	11.3
	外 科 系	168	31	199	14.0	2.6	16.6
	そ の 他	81	17	98	6.8	1.4	8.2
市 立 病 院	内 科 系	93	15	108	7.8	1.3	9.0
	外 科 系	138	5	143	11.5	0.4	11.9
	そ の 他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
遠 山 病 院	内 科 系	20	14	34	1.7	1.2	2.8
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	157	11	168	13.1	0.9	14.0
	外 科 系	34	1	35	2.8	0.1	2.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	707	87	794	58.9	7.3	66.2
	外 科 系	683	51	734	56.9	4.3	61.2
	そ の 他	219	45	264	18.3	3.8	22.0
栃 内 病 院	内 科 系	9	0	9	0.8	0.0	0.8
	外 科 系	206	15	221	17.2	1.3	18.4
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	49	35	84	4.1	2.9	7.0
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	53	23	76	4.4	1.9	6.3
	外 科 系	34	3	37	2.8	0.3	3.1
	そ の 他	32	4	36	2.7	0.3	3.0
川 久 保 病 院	内 科 系	44	13	57	3.7	1.1	4.8
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	10	0	10	0.8	0.0	0.8
盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	59	21	80	4.9	1.8	6.7
	外 科 系	124	13	137	10.3	1.1	11.4
	そ の 他	144	22	166	12.0	1.8	13.8
合 計	内 科 系	1,857	600	2,457	154.8	50.0	204.8
	外 科 系	2,151	351	2,502	179.3	29.3	208.5
	そ の 他	1,781	269	2,050	148.4	22.4	170.8
総 合 計		5,789	1,220	7,009	482.4	101.7	584.1
				1 日 平 均	15.9	3.3	19.2

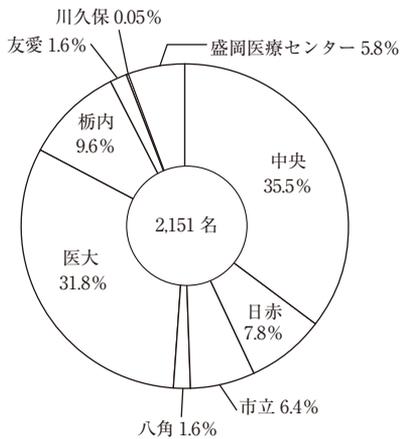
図 16 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

< 外来分布 >

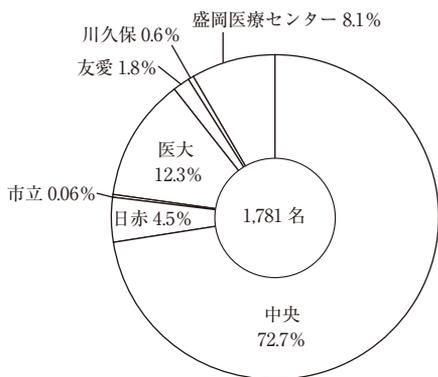
< 内科系 >



< 外科系 >

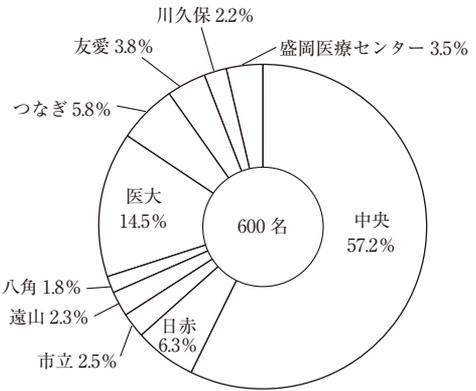


< その他 >

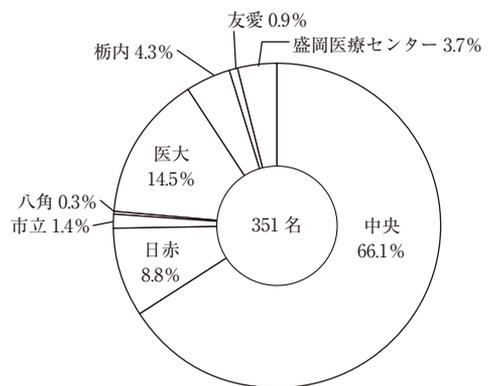


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

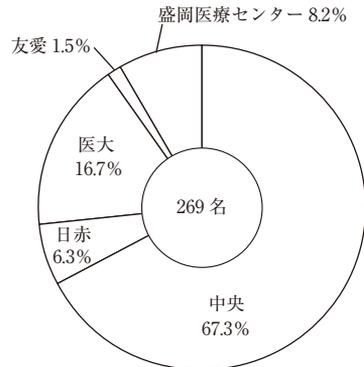
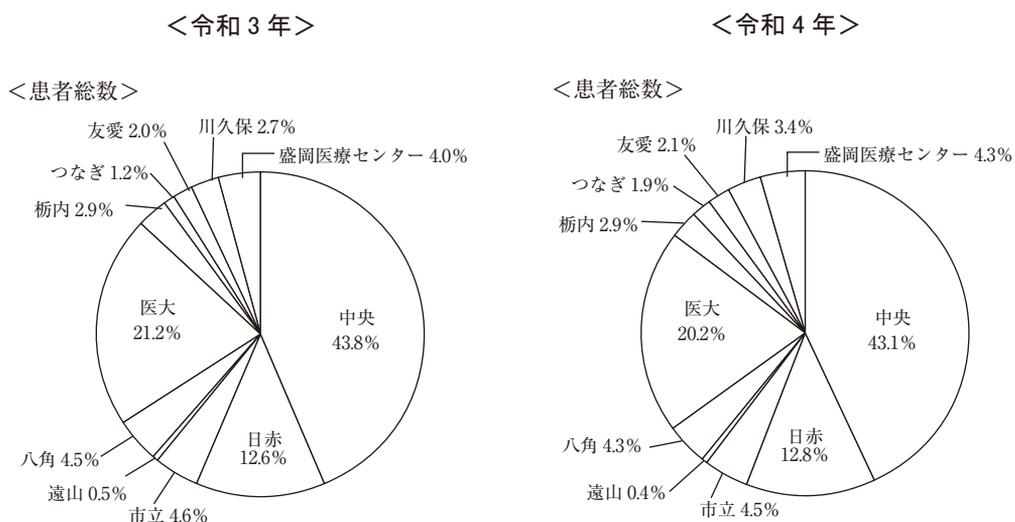


表 22 盛岡地区二次救急患者動態（前年との比較）

病院名	外来患者数		入院患者数		救急車搬入患者数		総数	
	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年
中央病院	10,253	10,650	4,110	3,914	5,141	5,711	14,363	14,564
日赤病院	3,089	3,475	1,031	855	1,207	1,138	4,120	4,330
市立病院	1,228	1,331	267	200	464	446	1,495	1,531
遠山病院	103	87	53	53	62	93	156	140
八角病院	1,357	1,356	119	111	178	192	1,476	1,467
岩手医大	5,980	5,862	975	966	232	247	6,955	6,828
栃内病院	884	913	69	63	190	241	953	976
つなぎ温泉病院	265	477	122	148	154	251	387	625
友愛病院	561	618	102	105	209	281	663	723
川久保病院	779	1,080	107	54	156	122	886	1,134
盛岡医療センター	1,095	1,176	231	279	398	536	1,326	1,455
合計	25,594	27,025	7,186	6,748	8,391	9,258	32,780	33,773

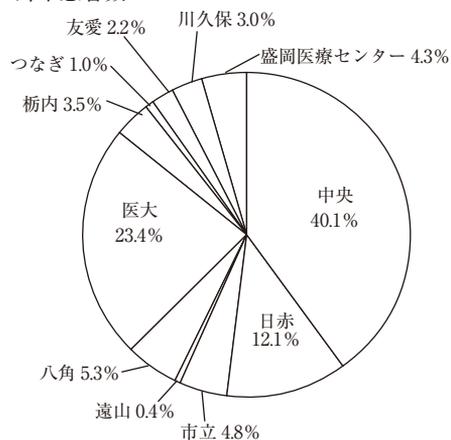
（高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。）

図 17 二次救急患者病院別分布（前年との比較）



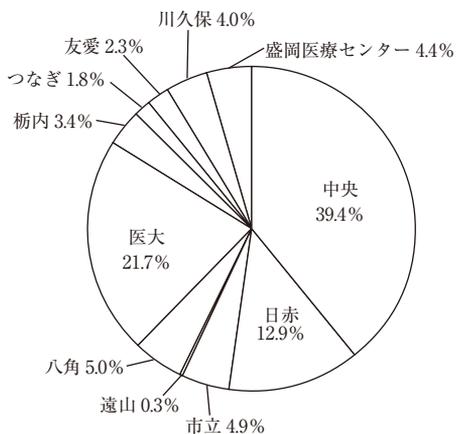
<令和3年>

<外来患者数>

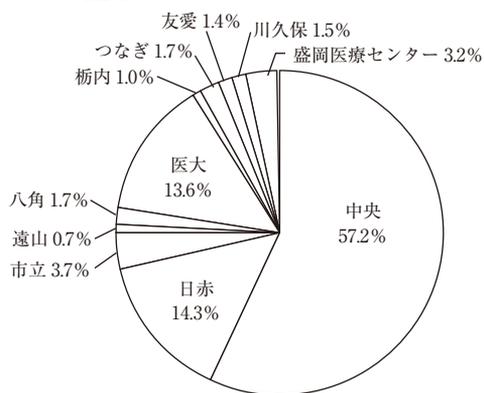


<令和4年>

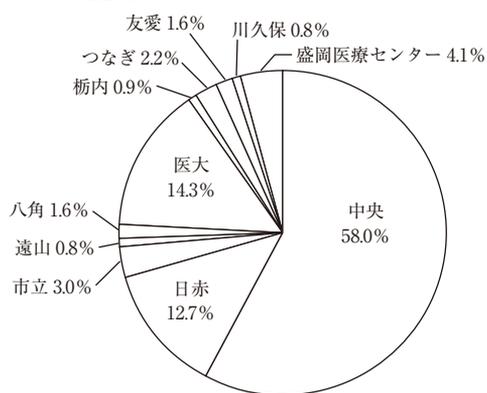
<外来患者数>



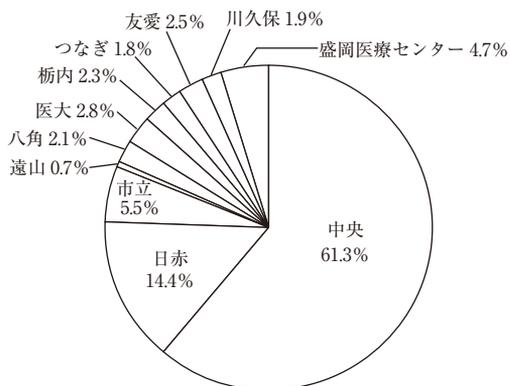
<入院患者数>



<入院患者数>



<救急車搬入患者数>



<救急車搬入患者数>

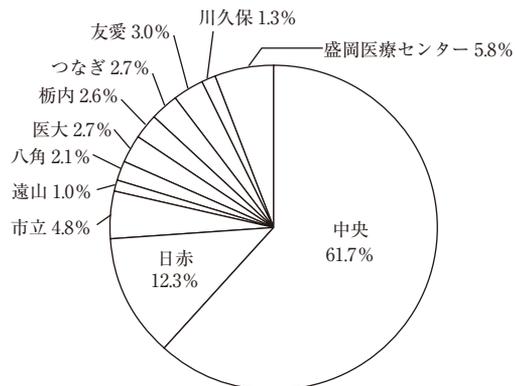
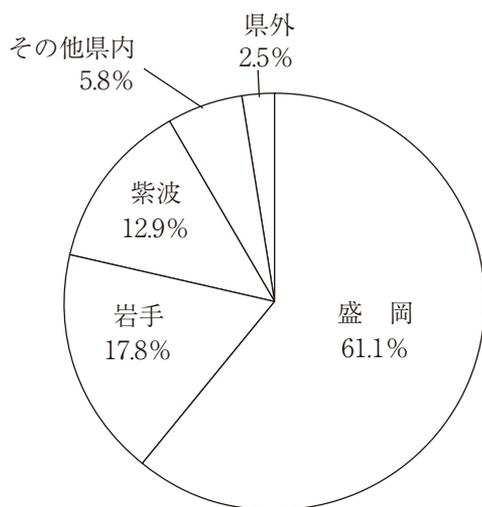


表 23 市町村別二次救急患者動態

市 町 村	外 来	入 院	合 計
盛 岡	16,517	4,111	20,628
雫 石	582	209	791
葛 巻	44	39	83
岩 手	674	208	882
滝 沢	2,397	558	2,955
紫 波	2,037	417	2,454
矢 巾	1,622	275	1,897
八 幡 平	989	295	1,284
その他県内	1,450	503	1,953
県 外	713	133	846
合 計	27,025	6,748	33,773

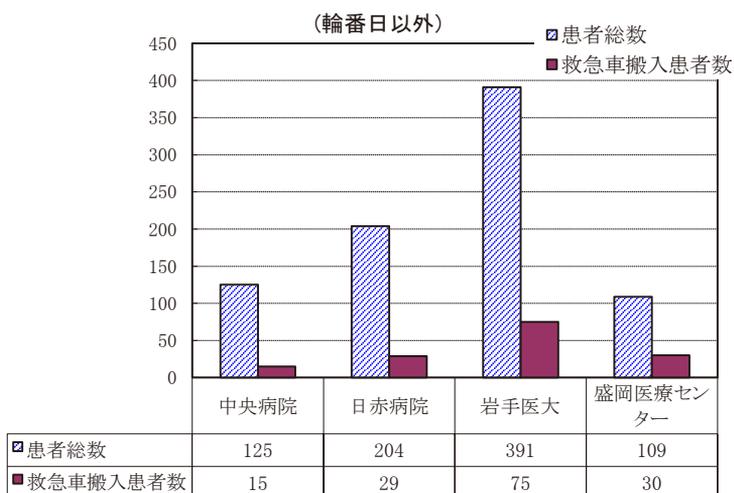
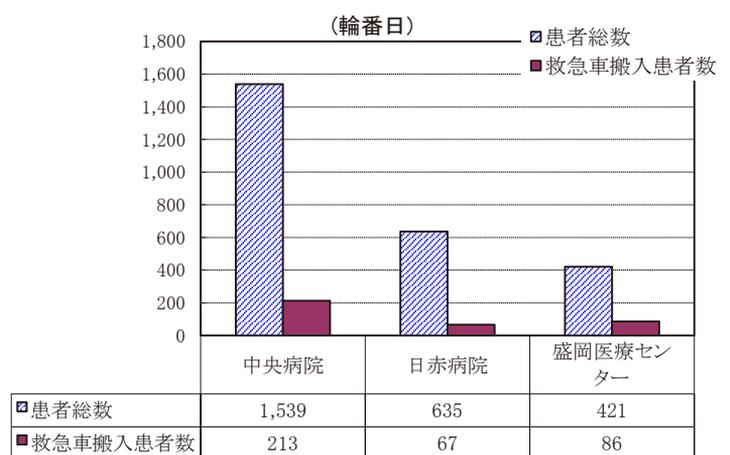
図 18 <地区別患者比率>



小児救急病院群輪番制 23 年目のまとめ

図19～21および表24～27に小児救急病院別の輪番日の受診者数と輪番日以外の受診者数、各病院別受診者数を示す。小児救急患者の総数は3,424名で、前年比65名の減少であった。うち救急車搬入患者数は515名（15.0%）でこちらは前年比11名の増となった。輪番日の受診者数は2,595名（総数の75.8%）、救急車搬入数366名（輪番日受診者の14.1%）、1コマ単位平均5.30人であった。輪番日以外の受診者数は829名（総数の24.2%）、救急車搬入数149名（輪番日以外受診者の18.0%）、1コマ単位平均0.42人であった。病院別では、総数では中央病院が1,664名（48.6%）と最も多く、入院を必要とした患者は平均0.97人であった。

図 19 病院患者総数



※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退
輪番日以外は集計を継続

表 24 小児救急患者病院別合計表（輪番日）

令和4年1月～令和4年12月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央 病 院	1,329	61.1	210	49.9	1,539	59.3	213	58.2
日 赤 病 院	490	22.5	145	34.4	635	24.5	67	18.3
盛岡医療センター	355	16.3	66	15.7	421	16.2	86	23.5
合 計	2,174	100	421	100	2,595	100	366	100

表 25 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日）

令和4年1月～令和4年12月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	5.55	0.88	6.43	0.90
日 赤 病 院	3.59	1.06	4.65	0.49
盛岡医療センター	3.16	0.60	3.76	0.76
平 均	4.44	0.86	5.30	0.75

※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退

輪番日以外は集計を継続

図 20 小児救急病院別患者比率（輪番日）

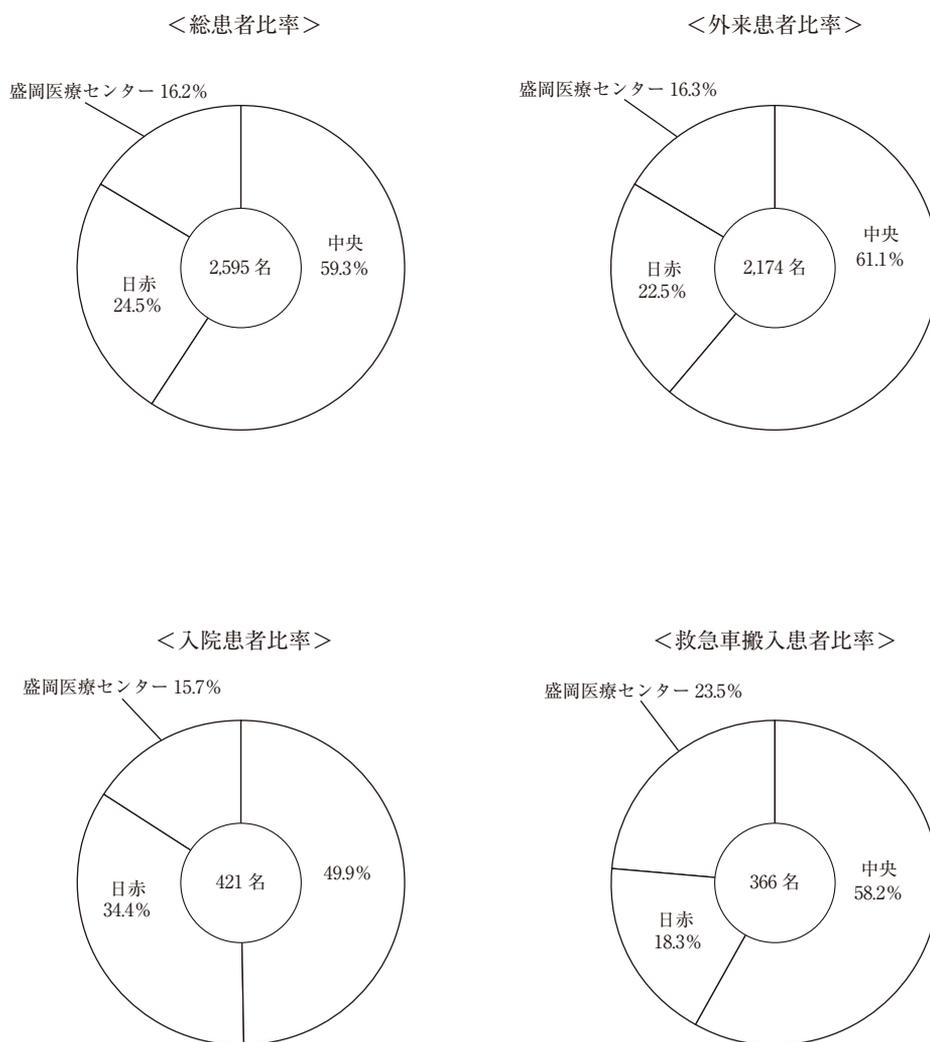


表 26 小児救急患者病院別合計表（輪番日以外）

令和 4 年 1 月～令和 4 年 12 月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車 搬入患者数	比 率
中 央 病 院	103	16.0	22	11.8	125	15.1	15	10.1
日 赤 病 院	170	26.4	34	18.3	204	24.6	29	19.5
岩 手 医 大	287	44.6	104	55.9	391	47.2	75	50.3
盛岡医療センター	83	12.9	26	14.0	109	13.1	30	20.1
合 計	643	100	186	100	829	100	149	100

表 27 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日以外）

令和 4 年 1 月～令和 4 年 12 月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	0.41	0.09	0.50	0.06
日 赤 病 院	0.48	0.10	0.58	0.08
岩 手 医 大	0.59	0.21	0.80	0.15
盛岡医療センター	0.22	0.07	0.29	0.08
平 均	0.33	0.10	0.42	0.08

※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退
輪番日以外は集計を継続

図 21 小児救急病院別患者比率（輪番日以外）

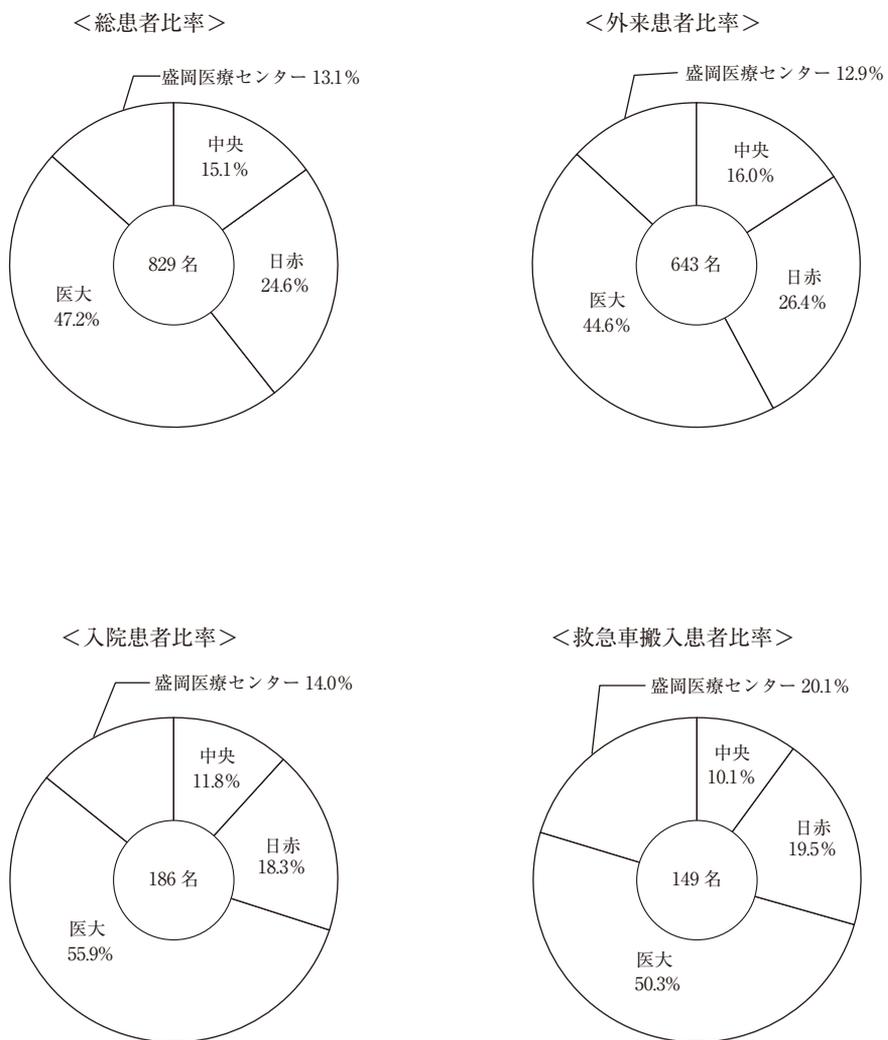


表 28 小児救急患者市町村別合計表（輪番日）

令和4年1月～令和4年12月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	1,393	64.1	266	63.2	1,659	63.9
雫 石	33	1.5	6	1.4	39	1.5
葛 巻	3	0.1	0	0.0	3	0.1
岩 手	40	1.8	9	2.1	49	1.9
滝 沢	279	12.8	53	12.6	332	12.8
紫 波	137	6.3	29	6.9	166	6.4
矢 巾	91	4.2	23	5.5	114	4.4
八 幡 平	93	4.3	16	3.8	109	4.2
小 計	2,069	95.2	402	95.5	2,471	95.2
その他県内	48	2.2	9	2.1	57	2.2
県 外	57	2.6	10	2.4	67	2.6
合 計	2,174	100	421	100	2,595	100

表 29 1コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日）

令和4年1月～令和4年12月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	2.84	64.0	0.54	63.0	3.38	63.8
雫 石	0.07	1.5	0.01	1.4	0.08	1.5
葛 巻	0.01	0.1	0.00	0.0	0.01	0.1
岩 手	0.08	1.8	0.02	2.1	0.10	1.9
滝 沢	0.57	12.9	0.11	12.7	0.68	12.9
紫 波	0.28	6.3	0.06	6.9	0.34	6.4
矢 巾	0.19	4.2	0.05	5.5	0.23	4.4
八 幡 平	0.19	4.3	0.03	3.8	0.22	4.2
小 計	4.23	95.2	0.82	95.5	5.05	95.2
その他県内	0.10	2.2	0.02	2.2	0.12	2.2
県 外	0.12	2.6	0.02	2.3	0.14	2.6
合 計	4.44	100	0.86	100	5.30	100

図 22 小児救急市町村別患者比率（輪番日）

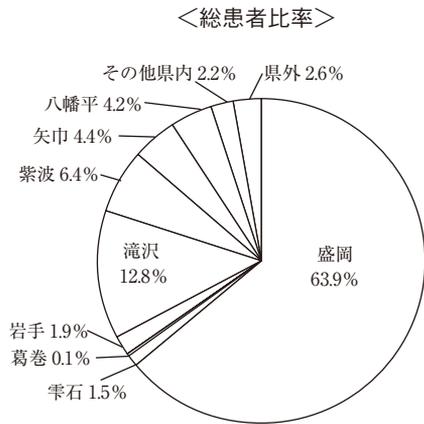


図 23 小児救急郡市別患者比率（輪番日）

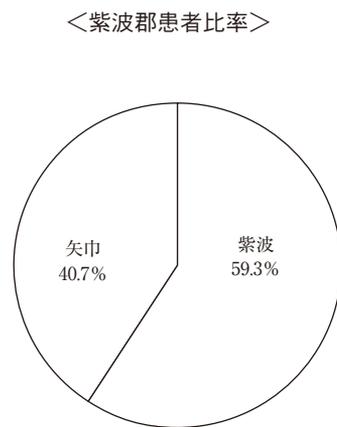
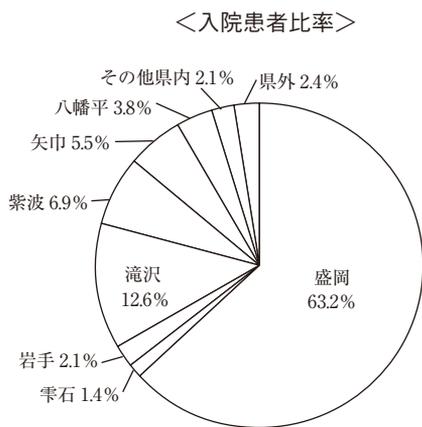
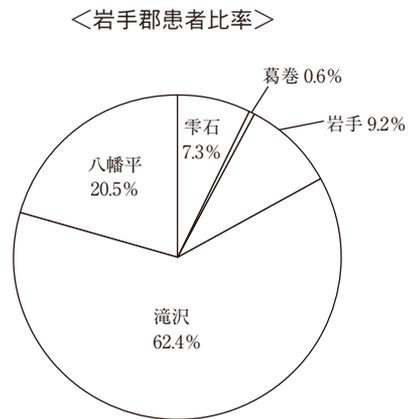
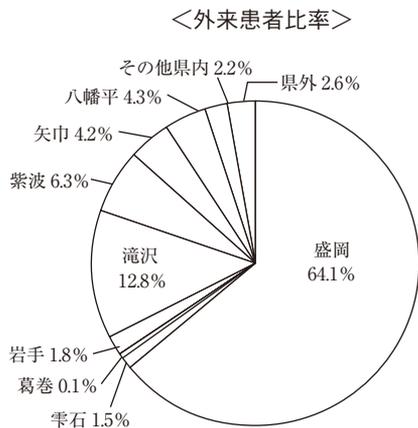
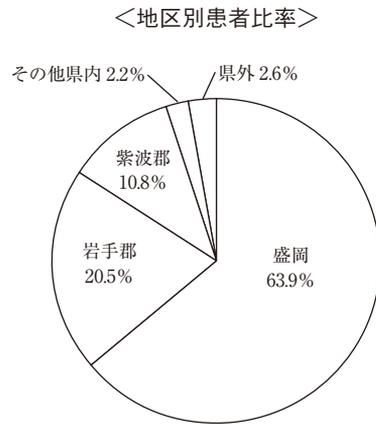


表 30 小児救急患者市町村別合計表（輪番日以外）

令和4年1月～令和4年12月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	360	56.0	86	46.2	446	53.8
雫 石	11	1.7	4	2.2	15	1.8
葛 卷	3	0.5	0	0.0	3	0.4
岩 手	3	0.5	2	1.1	5	0.6
滝 沢	60	9.3	16	8.6	76	9.2
紫 波	54	8.4	8	4.3	62	7.5
矢 巾	50	7.8	14	7.5	64	7.7
八 幡 平	17	2.6	3	1.6	20	2.4
小 計	558	86.8	133	71.5	691	83.4
その他県内	68	10.6	49	26.3	117	14.1
県 外	17	2.6	4	2.2	21	2.5
合 計	643	100	186	100	829	100

表 31 1コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日以外）

令和4年1月～令和4年12月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	0.18	56.1	0.04	46.3	0.23	53.9
雫 石	0.01	1.7	0.002	2.1	0.01	1.8
葛 卷	0.002	0.5	0.00	0.0	0.002	0.4
岩 手	0.002	0.5	0.001	1.0	0.003	0.6
滝 沢	0.03	9.3	0.01	8.6	0.04	9.1
紫 波	0.03	8.4	0.004	4.3	0.03	7.5
矢 巾	0.03	7.7	0.01	7.5	0.03	7.7
八 幡 平	0.01	2.7	0.001	1.5	0.01	2.4
小 計	0.29	86.8	0.07	71.5	0.35	83.3
その他県内	0.03	10.6	0.03	26.3	0.06	14.1
県 外	0.01	2.7	0.002	2.2	0.01	2.5
合 計	0.33	100	0.10	100	0.42	100

図 24 小児救急市町村別患者比率（輪番日以外）

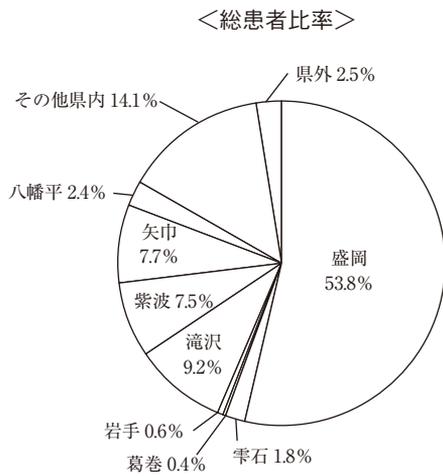
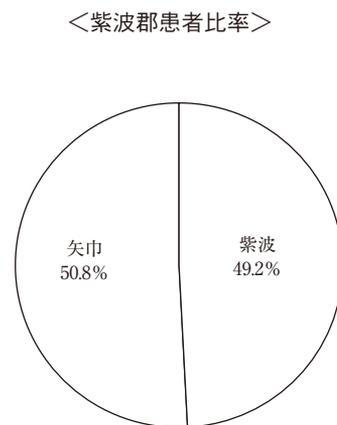
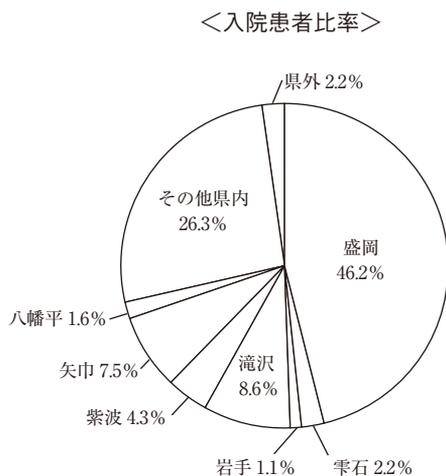
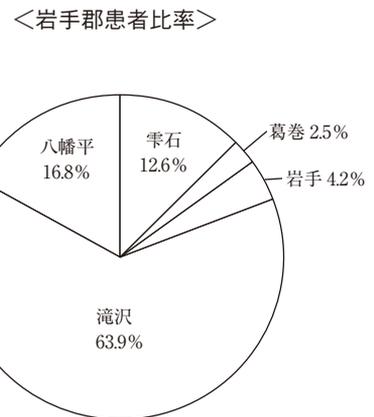
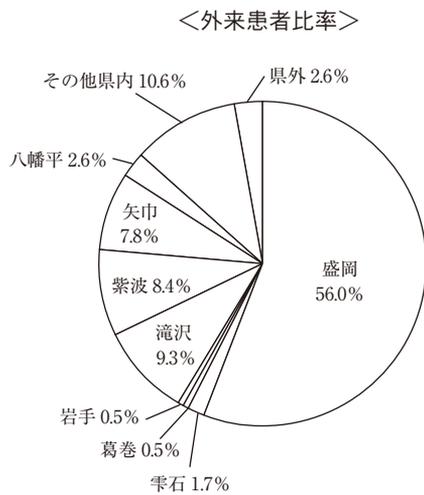
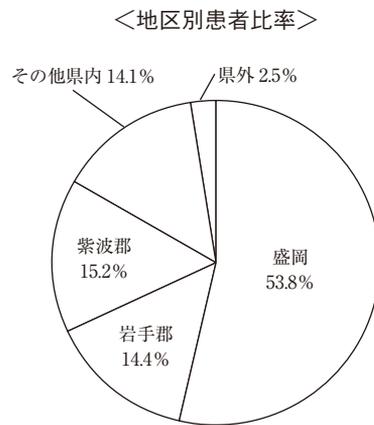


図 25 小児救急郡市別患者比率（輪番日以外）



コロナ禍で起きた救急搬送困難事例の増加

はじめに

岩手県は医療資源が乏しく各二次救急医療圏で中核病院が限られていたため、救急搬送について大きな問題はなく経過してきた。盛岡医療圏では二次救急病院が多数存在するため1979年（昭和54年）以来二次救急医療体制を構築し、1995年いわゆるたらい回しを防ぐために輪番病院を最終受け入れ病院とした救急輪番制を開始した。以来、多少の変遷を経て現在に至っているが、これまで救急搬送困難に至る事例は少なく、以前の報告では搬送先決定までの回数は平均1.4回程度、すなわち2回以内の要請で搬送先が決定されていた。2020年に始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミック（以下コロナ禍）以後、盛岡医療圏で多くの搬送困難事例が発生するようになった。令和4年6月27日開催された盛岡地区二次救急医療対策委員会で委員よりこの問題に対し指摘があり、盛岡地区広域消防組合消防本部へ調査、資料を要請し、以下のような実態が明らかになったので報告する。

救急搬送困難の実態

1. 平成29年～令和3年救急搬送数(表1):

救急搬送数は、平成29年から令和3年を比較すると、新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）以前の平成29年～令和1年まで3年間の平均が16,532人であったが、コロナが始まった令和2年は

15,692人と約1,000人減少した。翌令和3年は16,446人、本年は半年経過した時点で8,410人とほぼ例年のペースに戻っている。

2. 救急搬送困難事例案件数(表1):

①搬送先決定まで4回以上照会した件数は令和1年130件、令和2年288件、令和3年377件と令和2年以降増加した。
②30分以上要した滞在時間例数は令和1年862件、令和2年1,252件、令和3年1,617件と令和2年以降増加した。コロナ疑いは令和2年30件、令和3年44件であった。①かつ②の例は、令和1年76件、令和2年189件、令和3年247件であった。令和4年は1月から6月までの半年間で252件とさらに増加した。

3. 救急搬送困難詳細(令和4年1月～6月):

盛岡地区広域消防組合消防本部より提供された令和4年1月から6月の救急搬送困難詳細一覧表の一部を表2に掲載する。救急搬送困難（4回以上照会、滞在時間30分以上）と判断された総数は252件であった。これをまとめたものが図1～4である。

患者の年代(図1)では60歳以上の高齢者が全体の3/4である。15歳以下は小児輪番制があるため報告はない。

表1

	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R4(6ヶ月)
救急搬送総数(人)	15,878	16,736	16,982	15,692	16,446	8,410
①救急受入要請4回以上		—	130	288	377	—
②受入先決定30分以上要 () コロナ疑	—	—	862	1,252 (30)	1,617 (44)	—
①+②	—	—	76	189	247	252

表2 救急搬送困難詳細一覧表抜粋（一部改変）

曜日	覚知時間	性別	年代	滞在時間	回数	要請内容
月	20時26分	男	60	30分	5	後方に転倒、頭部負傷、コロナなし
水	13時15分	男	20	48分	5	頭痛、嘔気、倦怠感及び味覚障害、症状増悪、コロナなし
水	14時55分	女	80	53分	5	めまい及び嘔気、コロナなし
水	20時20分	男	30	95分	4	前胸部痛、症状増悪、コロナなし
木	11時36分	男	60	75分	4	玄関先で倒れているところを発見、会話ができない、コロナなし
金	7時49分	女	90	67分	4	発熱、呼びかけに反応鈍い、コロナなし
金	13時15分	男	80	52分	4	転倒による腰の痛み、動けない、コロナなし
土	12時55分	男	80	49分	4	両下肢の脱力感、症状増悪、歩行困難、コロナなし
日	6時54分	女	90	40分	4	全身の寒気、震え、コロナなし

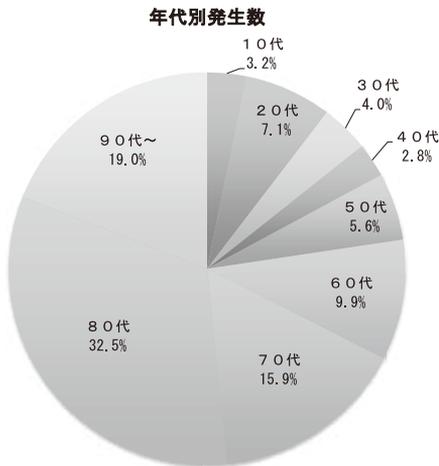


図1

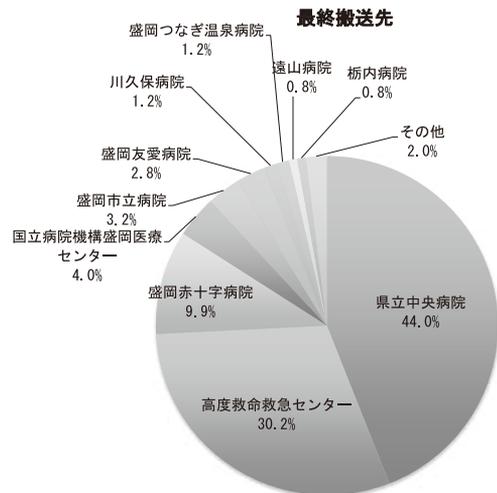


図3

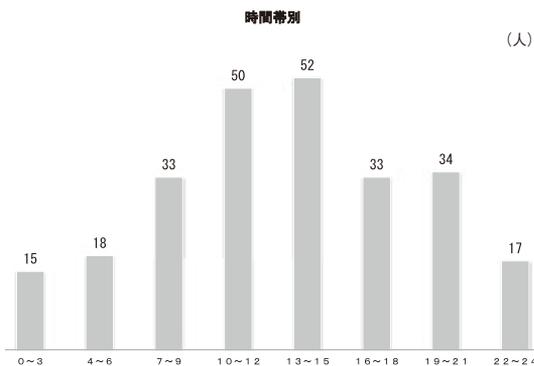


図2

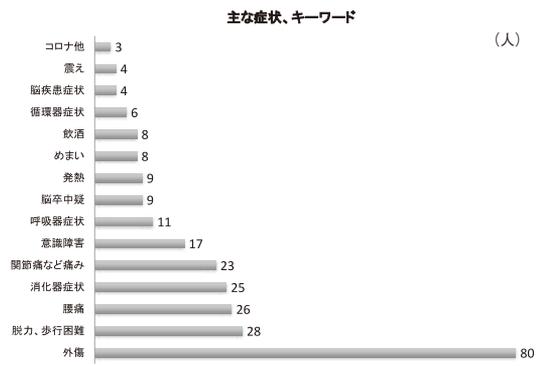


図4

性別は女性 141 人、男性 111 人と女性が多い。

時間帯別（図 2）では、休日に限らず平日の日中の時間帯から夜間にかけて多い。病院の診療時間内に受け入れ困難な事例が多いことがわかる。

最終搬送先（図 3）は県立中央病院が 44%、高度救命救急センターが 30%と三次医療機関に 74%の患者が搬送されていた。

要請内容を、疑い疾患またはキーワードで分類した（重複あり）ものが図 4 である。転倒など外傷を疑わせるものが 80 例（31%）で、腰痛、関節痛などの痛みに関するものが 20%、脱力、歩行困難が 10%、消化器症状 10%、意識障害などが多かった。

コロナまたはその疑い事例は 3 件と少なく、また発熱を主訴としたものは、9 件程度と少ない。転倒など外傷に分類したものが最多だが、要請内容から軽症と思われるものが多い。腰痛、関節痛などの痛みを訴える患者も多く、これらを合わせると全体の約半数が外科、整形外科系の疾患が疑われるもので搬送困難になっている。ついで脱力、歩行困難、意識障害に分類されるものが多いが、明らかに脳卒中などの急病による症状ではなく、「両下肢の力が入らない」「歩けなくなった」「反応が鈍い」などの高齢者によくみられる症状で救急要請された場合に搬送困難になっていた。

考案および対策

盛岡地区広域消防組合消防本部からの資料を 7 月 26 日開催された盛岡地区二次救急医療対策委員会常任委員会へ報告し、対策が検討された。委員より、早急に解決しなければならない問題であり、その場は当会以外なく、輪番制度の見直し、受け入れ制度の見直しなど意見がでた。この現状を二次救急対策委員会委員へ情報提供し、各医療機関へ患者受け入れについて協力要請

することにした。また、この問題は 9 月 6 日放送の NHK「おぼんですいわて」でも取り上げられ、NHK news web には「岩手 救急車来たけれど…コロナ禍搬送困難事例増加」との記事が掲載され、コロナ禍の医療の大きな問題としてクローズアップされた。今回のデータからもわかるように、搬送困難事例は高齢者で比較的軽症と思われる訴えの救急要請が多い。従来の報告で搬送困難の理由として多い泥酔、薬物、精神科的症状の患者は少なく、コロナ陽性者、疑いも少ない。コロナ陽性者が急変した場合には保健所と岩手県入院等搬送調整班により救急外来受診や入院の調整が円滑に行われているため搬送困難のケースは少ない。

救急隊は救急出動し患者と接触後にその症状、バイタルサインからトリアージ搬送候補を選定する。搬送先については各地域のメディカルコントロール協議会により、傷病者の状況に応じて適切な医療の提供が行われる医療機関がリストアップされており、その医療機関へ連絡する。例えば脳卒中や虚血性心疾患が疑われる場合には治療可能な医療機関は限定され、速やかに搬送されており大きな混乱はない。しかし軽症あるいは分類不能の症状を訴えたケースでは、かかりつけ医、近隣または患者の希望などで医療機関を選定することがある。今回報告された搬送困難例では外傷や腰痛、関節痛など外科、整形外科系と思われる疾患が多い。これまでも整形外科や外科系の医師は手術や検査で手を離せないときや内科系医師が当直の場合には受け入れを断ることがあり、そのため外科系医師のいる救急病院へ集中してしまうことがあったが、これほどの搬送困難数となることはなかった。このような搬送困難事例が増加しているのは、コロナ禍で厳重な感染対策を要するようになり、容易に救急車を受け入れることが困難になっているため、これまで受け入れ

てきた医療機関の枠が大幅に減少したためと考える。ある病院長よりコロナ対策のため救急患者を個室観察としているため病床確保が難しい、手術患者が多くなり入院しなくてもよさそうな患者を診察できない旨を救急隊に話しているという実情の報告があった。院内感染を防ぐため、コロナ陰性を確認しなければ入院できないため外来での待機時間が長くなる、疑わしい場合には個室管理で経過をみるため、施設面もマンパワーも必要とし受け入れる枠に限りが出る。また第6波、7波では病院職員の感染が相次ぎ、人員確保のため病棟閉鎖などを行なっているため余剰病床がない。スタッフがいないなど診療体制に大きな影響をもたらしたことも大きな要因で、医療逼迫の一つの結果といえる。しかし理由の如何を問わず救急搬送が困難になる事態は避けなければならない。今回のデータより搬送困難になっているのは高齢者で軽症と推察される外傷や痛みなどありふれた訴えで救急要請されたものが多く、専門性を有しない初期診療で十分対応できると思われる。初期、二次医療機関は初期診療と入院治療、対応困難であれば3次医療機関へ紹介するという救急体制の本来の役割分担の原点に立ち返り、かかりつけ医を含む各医療機関へ軽症の救

急患者の受け入れ協力をお願いする。また、傷病者本人や家族等が急な病気やケガの症状から自力で緊急度を判断することは困難で、そのため救急車を要請してしまう原因になる。まして高齢者の独居や老々介護といった世帯が増加しており、高齢者が緊急度を判断することは一層困難であると考えられる。コロナ禍で進んだオンラインや電話による受診相談体制を発展させ、傷病時に住民、特に高齢者がサポート、相談を受けやすい環境を整えることも適正受診を進める一つの方法である。また医療側と搬送側の連携をIT化し、リアルタイムに受け入れ状況がわかるような救急医療情報システムの整備も必要と思われる。

結語

コロナ禍で急増した救急搬送困難事例について報告した。原因は初期、二次救急施設でコロナ感染対策のため救急受け入れ枠が減少していることや病床削減、医療スタッフの減少など医療の逼迫の影響が大きい。救急搬送困難を減らすためコロナ禍に適応した救急医療システムの整備が必要である。

(救急医療対策部 部長 久保直彦)

2. 経過報告

- 令和4年 1月18日（火） 第206回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（水） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 2月15日（火） 第207回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 3月15日（火） 第208回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
29日（火） 第19回岩手県医師会小児救急電話相談事業運営委員会
- 4月19日（火） 第209回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第1回救急医療体制のあゆみ編集委員会
- 5月17日（火） 第210回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（水） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 6月21日（火） 第211回小児救急電話相談事業事例検討会
27日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 7月19日（火） 第212回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（月） 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会
26日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第2回救急医療体制のあゆみ編集委員会
- 8月18日（木） 第213回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（木） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 令和4年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

- 9月8日（木） 令和4年度第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
13日（火） 第39回救急医療学術講演会（WEB開催）
21日（水） 第214回小児救急電話相談事業事例検討会
27日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 10月18日（火） 第215回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 11月15日（火） 第216回小児救急電話相談事業事例検討会
18日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）
28日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 12月20日（火） 第217回小児救急電話相談事業事例検討会
23日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和4年2月25日（金）午後7時
場 所：盛岡市医師会館（ハイブリッド方式）



1. 報告

1) 1月分患者データについて

患者総数2,786名と前年より250名増加、救急車搬送患者は794名と前年より70名増加した。小児救急輪番日も220名と前年より36名増加した。二次、小児ともコロナ前に比較して、大幅な減少が続いている。高度救命救急センターは総数203名とほぼ例年程度であった。参考として夜間急患診療所は123名と減少し、休日救急当番医も大幅な減少であった。インフルエンザの発生報告はみられない。

2) 令和3年の患者データについて

(1)二次救急：総数32,780名と前年より2,255名、月平均188名減少していた。救急車搬送数は8,391名と前年比631名増加した。

(2)小児救急：小児輪番日2,727名、非輪番日は762名であった。

(3)休日救急当番医・夜間急患診療所：ともにコロナ前に比較して大幅減少した。

3) 第207回小児救急電話相談事業事例検討会

令和3年の年間統計3,267件の相談があった。

4) 岩手県立中央病院の三次救急指定について

岩手県の三次救急医療体制の充実のため、本年4月より岩手県立中央病院が救命救急センターに指定される予定である。

5) 3月の二次救急病院当番表について：事前了承通り

6) 令和4年度小児救急輪番表（4月～6月）の公表について：事前了承通り

2. 協議

1) 令和4年度二次・小児救急輪番表（案）

について：原案通り了承された。

2) 令和4年度二次救急医療対策委員会運営予算（案）について：事務局より来年度案が説明された。一般会計は前年通りとしたが、特別会計は救急医療人のつどいの開催も見込みが立たないことから中止として予算を計上し、会費を各病院今年度より5万円減とした。原案通り了承された。

3) 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員の任期満了について：盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項により、令和4年5月の医師会定例総会をもって委員の任期満了になるため、各施設に

委員の推薦を依頼することとする。

4) その他

(1) 盛岡赤十字病院がコロナアウトブレイクのため、診療を縮小していたが、3月1日より通常診療となる。

(2) 宮田 剛委員より、県立中央病院の救急外来の受診者が急増しており、各施設のかかりつけの患者は、その施設を救急受診していただくように要請があった。

(久保直彦)

出席者一覧

委員長

吉田 耕太郎

常任委員

井上 義博	赤坂 真奈美	須原 誠	梶原 和華
佐々木 一裕	相馬 淳	金子 博純	本間 博
菊池 貴彦	久保 直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	金濱 誠己	久保田 公宜	小林 有一
関 博文	三浦 義孝		

委員

小笠原 邦昭	森野 禎浩	宮田 剛	加藤 章信
佐々木 達哉	千葉 知	木村 啓二	白石 秀夫
田村 茂	八角 有紀	高橋 邦尚	木村 宗孝
		(代理 高橋 清実)	(代理 加藤 博巳)

岩手県県央保健所 所長 田名場 善明

盛岡市保健所 所長 矢野 亮佑 企画総務課長 相馬 英洋

盛岡市医師会事務局 事務局長 及川 敬一郎
次長 水本 達彦 係長 谷藤 慎治

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和4年6月27日（月）午後7時
場 所：盛岡市医師会館（ハイブリッド方式）



新型コロナウイルス感染防止の対応として、今回もZoomミーティングによるリモート会議を併用して開催された。

1. 報告

1) 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員について（5 / 23以降）

盛岡市医師会役員改選に伴う新委員として、盛岡市医師会工藤卓次理事、夜間急患診療所運営協議会西島浅香委員、岩手県高度救命救急センター高橋学准教授が今回より参加した。

2) 5月分患者データについて

二次救急患者総数は3,111名と前年とほぼ同様であった。救急車搬入数は784名と前年より約70名増加した。参考として夜間急患診療所は120名と減少した状態が続いている。小児救急患者の輪番日は総数223名、一コマあたり5.19とコロナ以前の半数以下で経過している。

3) 年度ごとのデータについて

令和3年度の二次救急患者総数は33,003名で、コロナ前の令和元年に比

較して、13,293名減であった。内訳では、外来受診のみ患者が25,931名と昨年同様コロナ前に比較して大幅に減少していた。入院を要した患者は7,072名で昨年より259名増加した。救急車搬送数も8,566名と昨年より約1,000人近く増加し、ほぼコロナ前と同様であった。

小児救急輪番日では、令和3年度の小児救急患者総数は2,669名と令和2年度に比べ449名増加したが、コロナ前に比較すると半分ほどと大幅な減少であった。小児救急の輪番日で外来受診のみは2,177名、入院した患者は492名、救急搬送された患者は374名と、総数は前年度より20%増加した。

4) 第211回小児救急電話相談事例検討会（6/21）及び令和3年4月から令和4年5月までのデータについて

5) 令和4年度盛岡市総合防災訓練について 医療者参加は見送りとなった。

2. 協議事項

1) 7月の二次救急病院当番表について

- 原案通り了承された。
- 2)10月～12月の小児輪番表（案）及び令和4年度二次・小児当番表（8月以降）について特に意見はなし。
- 3)いわて盛岡シティマラソン2022について
10月22日、23日開催が予定されている同大会に救護員派遣の要請があった。前回とコースが若干変更になり救護所の数を減らしている。各病院へ協力を依頼する。
- 4)日本スポーツマスターズ2022岩手大会における医師派遣依頼について
本年9月に開催される同大会への医師派遣要請について、大会までの期間が短く、要請総数が22名と多い。当委員会のみでは対応困難なため医師会総務部会で検討していただくことにした。

- 5)令和3年度一般会計および特別会計決算について
原案通り了承された。
- 6)第39回救急医療学術講演会の開催について
9月13日(火)に藤沢市民病院副院長の阿南 英明先生を講師に開催予定で準備中である。
- 7)その他
須原 誠委員より、救急搬送受け入れ困難事例が多発していることが報告された。救急隊が二次救急病院に受け入れを要請した場合、コロナ以前は97%以上が1～2回で受け入れされていたが、最近4回以上問い合わせを要する例が多発してようである。本委員会として消防に問い合わせして現状を把握することにした。

(久保直彦)

出席者一覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長

吉田 耕太郎

常任委員

眞瀬 智彦	赤坂 真奈美	須原 誠	梶原 和華
佐々木 一裕	相馬 淳	金子 博純	工藤 卓次
菊池 貴彦	久保 直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	金濱 誠己	久保田 公宣	小林 有一
関 博文	西島 浅香		

委員

小笠原 邦昭	森野 禎浩	高橋 学	宮田 剛
加藤 章信	佐々木 達哉	千葉 知	木村 啓二
白石 秀夫	田村 茂	八角 有紀	高橋 邦尚
木村 宗孝			(代理 高橋 清実)

岩手県県央保健所 所長 田名場 善明

盛岡市保健所 所長 矢野 亮佑 企画総務課長 相馬 英洋

盛岡市医師会事務局 事務局長 及川 敬一郎
次長 水本 達彦 係長 谷藤 慎治

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和4年11月28日（月）午後7時
場 所：盛岡市医師会館（ハイブリッド方式）



新型コロナウイルス感染防止の対応として、Zoomを利用したハイブリッド方式で開催された。

1. 報告

1)10月分の患者データについて

二次救急の総数は2,925名と昨年より約200名増、先月とほぼ同様であった。救急車搬送数は842名と先月、昨年より増加した。参考として、夜間急患診療所は総数85名と例年の半分以下であった。小児救急は輪番日280名で前年より62名増加した。輪番日以外は84名であった。

輪番日一コマあたり6.7名と例年の半分で経過している。参考として休日救急当番医も全体に少ないが、小児科で100名を超える日があった。医大3次は184名と例年並みで、ドクターヘリは計35件の出動であった。

2)令和3～4年の患者データについて

令和4年は二次救急患者の10月までの総数27,966名、月平均2,797名で、月平均の比較では昨年より65名増加した。月別の動きでは前年とほぼ同様の動きである。内訳では外来患者が22,453名と昨年より1,000名ほど増加し、入院患者は5,513名と昨年より約450名減少した。10月までの救急搬送数は7,558名と昨年より675名増加している。小児救急輪番日のデータは、10月まで月平均206名、一コマあたりは月平均5.07名と昨年よりさらに0.5人減少した。夜間急患診療所の受診者は一晩あたり3.4名、休日当番医も175名と大幅に減少していて、初期救急患者が大幅に減少していることが示唆される。

- 3)第216回小児救急電話相談事業事例検討会（11/15）及び令和3年10月から令和4年10月までのデータについて
- 4)二次救急医療対策委員会小委員会（小

児輪番に係る)について

来年度も今年度と同様に3病院で輪番体制を組むことになった。

- 5)医療提供体制推進事業補助金(医療提供体制設備整備事業)について

3病院から申請があり、過去の実績などを考慮し今回は栃内病院を推薦したことが報告された。

2. 協議事項

- 1)12月分の二次救急病院当番表(案)について:原案通り了承された。
2)令和5年1月~3月小児救急当番表(案)について:原案通り了承された。
3)令和5年度二次救急、小児救急輪番表(案)について:二次救急の輪番表に

基づき輪番案を事務局が作成、小児救急は現在各病院と調整中で、来月の常任委員会までに提示し、最終的に2月の本対策委員会で最終決定する予定である。

- 4)年末年始の救急医療態勢広報掲載案について:例年通りに掲載することになった。年末年始の医療情報について盛岡市医師会の掲載されている情報につながるQRコードを掲載した。
5)その他:コロナの現状について意見交換があった。今後も情報交換を行っていくことになった。

(久保直彦)

出席者一覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長

吉田 耕太郎

常任委員

真瀬 智彦	赤坂 真奈美	須原 誠	梶原 和華
佐々木 一裕	相馬 淳	金子 博純	工藤 卓次
菊池 貴彦	久保 直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	金濱 誠己	久保田 公宜	小林 有一
関 博文	西島 浅香		

委員

小笠原 邦昭	森野 禎浩	高橋 学	宮田 剛
加藤 章信	佐々木 達哉	千葉 知	木村 啓二
白石 秀夫	田村 茂	八角 有紀	木村 宗孝
高橋 邦尚 (代理 高橋 清実)			

岩手県県央保健所 所長 田名場 善明

盛岡市保健所 所長 矢野 亮佑 (代理 次長 加藤 彩子)
企画総務課長 相馬 英洋

盛岡市医師会事務局 事務局長 及川 敬一郎
次長 水本 達彦
係長 谷藤 慎治

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会

と き：令和4年11月18日（金） 午後7時
ところ：盛岡市医師会館 2階会議室
司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部
部 長 久保直彦

出席者

岩手医科大学小児科学講座	教 授	赤 坂 真奈美
岩手県立中央病院	小 児 科 長	三 上 仁
盛岡赤十字病院	小児科部長	梶 原 和 華
国立病院機構盛岡医療センター	副 院 長	佐々木 美 香
盛岡市医師会小児科医会	会 長	西 島 浅 香
盛岡市医師会	会 長	吉 田 耕太郎
盛岡地区二次救急医療対策委員会	委 員 長	
盛岡市医師会救急医療対策部	部 長	久 保 直 彦
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常 任 委 員	
盛岡市医師会	副 会 長	相 馬 淳
〃	〃	金 子 博 純
〃	〃	工 藤 卓 次
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常 任 委 員	金 濱 誠 己
〃	〃	小 林 有 一

— 次 第 —

挨拶 題

1. 令和3年～令和4年小児救急病院患者データ（参考資料）
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響のため、令和3年は輪番日総計2,727名と新型コロナ流行前に比較し、半減の状態が続いている。令和4年1月～10月は総数2,064名で本年も同様に小児救急の受診患者減少が続いている。
2. 各小児救急輪番病院の現状と要望事項等について
3. 令和4年度小児救急輪番表（案）の作成について
 - ・来年度も3病院で輪番を組み対応する方針となった。現状の輪番体制に基づいて事務局案を作成し、それを元に各病院にて検討、調整する方針となった。可能であれば今月の二次救急医療対策委員会で提案し、来年2月の二次救急医療対策委員会にて最終決定する。
4. 年末年始の救急医療体制について
 - ・この冬にインフルとコロナとの同時感染が予想され、お盆休暇のデータと現在の発症数から、年末年始休みには小児の受診者が200～300人予想される。休日当番医、夜間急患診療所と連携をとり対処する。

5. 盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会

日 時：令和4年7月25日（月）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



令和2年、3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、対面での開催はせず、書面会議としていたが、3年前から半数以上の盛岡市担当者の異動もあり、今年度は改めて盛岡市、盛岡市医師会双方顔の見える良好な連携を構築し、円滑な事業運営ができるよう対面での開催となった。

1. 開会

2. 挨拶

盛岡市医師会長	吉田 耕太郎
盛岡市保健福祉部長	村上 淳
盛岡市子ども未来部長	高橋 享孝
盛岡市保健衛生監	廣田 喜之

3. 議題

1) 令和4年度盛岡市保健福祉部・子ども未来部主要事業について

保健福祉部の新規事業として地域福祉課で地域共生社会の実現のため、重層的支援体制整備事業を実施する。障

がい福祉課では障がい者相談支援事業、訓練等給付事業などを実施する。長寿社会課では令和3年度から5年度までを計画期間とする盛岡市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画に基づき、地域包括ケアシステムの一層の推進を図る。一般介護予防事業として「盛岡ゆうゆう大学」を開設し、高齢者の社会参加活動へのきっかけづくりやニーズに対応した講座の実施に取り組む。介護保険課では新人介護職員等の早期離職防止及び定着等を支援するため介護従事者確保事業を実施する。生活福祉第一課・第二課では生活困窮者自立相談支援事業を実施し、事業活動の拠点として「盛岡市くらしの相談支援室」を設置している。令和2年度から長期無業者やひきこもりに陥った方等への支援のためアウトリーチ支援員を配置している。

子ども未来部の新規事業として子ども青少年課では子ども・子育て情報発

信事業を実施する。子育てあんしん課では保育士確保対策事業、医療的ケア児保育支援事業を実施する。母子健康課では子育て世代包括支援センター事業を実施する。

盛岡市保健所の新規事業として指導予防課では医務業務指導事業を実施する。感染症予防事業の一環として新型コロナウイルス感染症について受診・相談センターでの受診調整をはじめ、検体搬送、消毒作業、患者移送、積極的疫学調査など積極的に取り組む。生活衛生課では保護猫一時預かりボランティア支援事業を実施する。

担当者より以上の報告の他継続事業などについて報告があった。

2) 盛岡市医師会からの要望事項について

(1)在宅医療の担当課の明確化による在宅医療提供体制の強化について、(2)子どもの医療費助成の拡充（高校卒業まで）について、(3)おたふくかぜワクチン接種への助成について、(4)3歳児健康診査における眼科要精密検査児の受診勧奨について、の4つの要望を行った。これらの要望事項については以下の通り県などと連携を図りながら調査、研究を実施し、財政や他の事業とのバランスを調整のうえ改善していきたいとの回答であった。

3) その他として矢野亮佑保健所長より急増している新型コロナウイルス感染症に対する今後の方針について説明があった。療養に関する連絡、基本情報の確認にショートメールを利用すること、保健所や医療機関による健康観察は高齢者、高リスク患者に限定すること、集団感染への支援は高齢者や障がい者の入所施設に重点化することなどが示された。

新型コロナウイルス感染症拡大のため懇親会は中止とし、金子博純副会長の挨拶にて閉会となった。

盛岡市医師会からの要望事項に対する回答

▶ 要望事項 No.1

【在宅医療の担当課の明確化による在宅医療提供体制の強化について】

各自治体では地域支援事業等を中心にして地域包括ケアシステムの構築が図られているところですが、在宅医療はその根幹です。

地域支援事業は介護保険事業ですが、在宅医療は保険診療で提供されるものであり、全年代のあらゆる状態の市民が在宅医療の対象となり得ます。

現状では、高齢者はもとより、在宅医療の対象ではあるが介護保険制度の対象にはならない若年者のがん、神経難病、医療的ケア児、小児難病からの成人化、精神発達障害者、引きこもり等の在宅療養は、在宅医療介護を担う事業者の努力で支えられていますが、在宅医療を担う人材不足と高齢化が顕著であり、このままでは、増加する高齢者や在宅療養者への医療提供が困難となるのは明らかです。

盛岡市の在宅医療提供体制を維持・継続するための早急な対策が必要です。盛岡市における在宅医療の担当課を明確化していただくとともに、在宅医療提供体制の強化に取り組んでいただきますようお願いいたします。

▶ 回答（保健所企画総務課）

「在宅医療提供体制」につきましては、国が策定した「医療提供体制の確保に関する基本方針（平成19年）」により、都道府県が主体となって医療提供体制の確保に取り組むこととなっており、県においては、「岩手県医療保健計画」を策定し、地域住民が安全に医療を受けられるよう取り組んでいるところであります。

「岩手県医療保健計画」においては、在宅医療の体制整備を図り、患者のニーズに応じて24時間切れ目のない医療サー

ビスを提供できる体制の実現に向けての取組に当たっての医療機関、関係団体等や市町村、県の役割分担が示されておりますことから、本市においては、各課において取り組んでいる施策を推進しながら、県等と連携を図り、切れ目のない在宅医療提供体制を構築していくために、どのように関わっていけるか研究してまいりたいと存じます。

なお、「盛岡市における在宅医療の担当課の明確化」につきましては、「岩手県医療保健計画」に記載されている市町村の役割が多岐に渡っておりますことから、今後、庁内での調整が必要であると存じます。

▶要望事項 No.2

【子どもの医療費助成の拡充（高校卒業まで）について】

少子化対策の一環として子どもの医療費助成制度は徐々に拡充されてきました。盛岡市も現在、中学生まで助成が拡充され、子育て世代に大いに歓迎されています。全国的には高校生まで助成する自治体が増えてきており、約三分の二の自治体が高校生まで助成を拡充しています。

岩手県では高校生まで実施していないのは盛岡市、滝沢市、久慈市の3自治体のみとなっております。

子どもたちが経済的理由で受診を控える事のないように、盛岡市においても高校生までの助成拡充をお願いいたします。

▶回答（市民部医療助成年金課）

高校卒業までの医療費助成の拡充につきましては、子育て世代の経済的な負担感を軽減するものと存じており、本市においても県内他自治体の実施状況や子ども医療費助成の実績等を踏まえ、検討を行っているところであります。しかしながら、実施に当たっては、継続的に多額の費用を要することとなるため、子育て施策全体の中で優先度を考えながら判断してまいりたいと存じます。

また、本来、子どもの医療費助成制度については、国が統一的に行うべきものであると認識しておりますことから、国の責任において制度化することを全国市長会等を通じて引き続き要望を行ってまいります。

▶要望事項 No.3

【おたふくかぜワクチン接種への助成について】

おたふくかぜの罹患により、無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎、急性膀胱炎など様々な合併症があります。特に、難聴は約1,000人に1人の割合で出現するとの統計もあり、注目されています。この難聴は神経性難聴の為、将来にわたって生活の質にも大きく影響します。

なお、日本小児科学会でもおたふくかぜワクチンの2回接種を推奨しており、全国的にも接種費用を助成する自治体も増えており、近隣市町でも接種費用の公費助成が行われています。盛岡市でも助成の検討をお願いいたします。

▶回答（保健所指導予防課）

おたふくかぜワクチンにつきましては、定期接種化として、「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会」において、「仮に広く接種をするに当たっては、より高い安全性が期待できるワクチンの承認が前提であり、新たなMMRワクチンの開発が望まれる。」としております。

盛岡市といたしましても、おたふくかぜワクチンの接種については、本来、国が責任をもって早期の定期接種化の方向で進めるべきと考えており、全国市長会の継続的な活動を通じて、国に対する要望を行っております。

また、一部近隣市町村でおたふくかぜワクチンへの接種費用の公費助成が行われておりますので、感染症のまん延防止の観点に立ち、情報収集に努めつつ、実施の可能性を引き続き研究してまいりたいと存じます。

▶要望事項 No.4

【3歳児健康診査における眼科要精密検査児の受診勧奨について】

3歳児健診において、盛岡市には屈折検査機器を導入していただき、幼児の屈折異常や弱視、眼位異常の発見に役立っていることが日常診療でも実感されます。しかしながら、日本眼科医会の調査では、異常を指摘された幼児のうち25%が眼科で精密検査を受けていないことがわかりました。

つきましては、3歳児健診において異常があった場合は、弱視の説明を含め眼科受診を強く促していただきますようお願いいたします。また、眼科精密検査未受診の幼児を確認し、繰り返し受診勧奨していただきますようお願いいたします。

▶回答（母子保健課）

3歳児健診の眼科においては、二次検

査としてスポットビジョンスクリーナー検査を実施し、精密検査の対象となった子の保護者に対しては、弱視の説明と、精密検査受診の必要性を説明しておりますが、精密検査の受診率は、令和2年度77.4%、令和3年度は6月末時点で74.1%にとどまっております。

今後、精密検査の対象となった場合は、健診時に弱視等の説明を含め眼科受診を強く促していくとともに、精密検査未受診の保護者へは、健診の概ね3か月後及び5か月後を目途に受診勧奨を行い、精密検査通知の有効期間6か月以内に受診がされるよう受診勧奨を徹底してまいります。

コロナウイルス感染症が急拡大する中で、の会議であったが、活発な質疑応答があり大変有意義な会であった。

（佐藤直也）

出席者名簿

盛岡市医師会

会長	吉田 耕太郎	産科婦人科吉田医院
副会長	金子 博 純	金子胃腸科内科
副会長	工藤 卓 次	くどう医院
理事（総務部長）	橋本 真 生	はしもと眼科クリニック
理事（救急医療対策部長）	久保 直 彦	盛岡赤十字病院 院長
理事（保険部長）	鈴木 知 己	鈴木内科医院
理事（母子保健、思春期保健対策部長）	金濱 誠 己	杜のこどもクリニック
理事（地域医療部・在宅医療部統括部長）	久保田 公 宜	久保田医院
理事（学幼保医部長）	小林 有 一	小林小児科クリニック
理事（看護学院部長）	智田 文 徳	未来の風せいわ病院 理事長
理事（学術部長）	千葉 隆 史	ちば耳鼻咽喉科クリニック
理事（地域医療部1部長）	佐藤 直 也	なおや脳神経・頭痛クリニック
理事（在宅医療部長）	木村 幸 博	もりおか往診ホームケアクリニック
理事（検診部長）	石井 基 弘	石井内科消化器科医院
理事（地域医療部2部長）	滝川 佐波子	西松園内科医院
理事（地域医療部）	谷藤 典 子	谷藤眼科医院
理事（地域医療部）	佐々木 千恵子	葛クリニック
事務局長	及川 敬一郎	
次 長	水本 達 彦	

出席者名簿

盛岡市

保健福祉部

部長	村上	淳
次長	坂本	淳
地域福祉課長	齋藤	美希
障がい福祉課長	野中	隆
長寿社会課長	千葉	信幸
介護保険課長	川目	昌竜
生活福祉第一課長	佐藤	雅春
生活福祉第二課長	西村	輝

(保健所)

保健衛生監	廣田	喜之
保健所長	矢野	亮佑
次長	加藤	彩子
企画総務課長	相馬	英洋
指導予防課長	猿舘	賢治
健康増進課長兼保健師長	石井	里美
生活衛生課長	佐藤	美樹子

子ども未来部

部長	高橋	享孝
次長	佐久山	久美子
子ども青少年課長	杉田	博信
子育てあんしん課長	佐々木	俊幸
母子健康課長	澤口	佐知子
子ども家庭総合支援センター所長	昆	秀博

新型コロナワクチン接種実施本部事務局

事務局長	田村	聡
------	----	---

6. 第39回救急医療学術講演会

日 時：令和4年9月13日（火） 午後7時
場 所：盛岡市医師会館（ハイブリッド方式）



参加者は医師31名、消防27名、その他医療従事者4名であった。講演の要旨は以下の通りである。

講演



阿南英明 副院長

演題：『COVID-19医療に対する戦略的な体制構築と行程のグランドデザイン』

講師：神奈川県理事
医療危機対策管理官/
藤沢市民病院

阿南英明 副院長

【講演要旨】

新型コロナウイルス感染症に対する危機管理体制は、2020年2月横浜港に寄港したクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号のクラスター発生に対して神奈川県DMAT調整本部により始まった。演者は調整本部に

入り船内活動、搬送調整を行い、DMATによる乗客、乗員3711人の検査とトリアージ、そして769人の搬送調整を行った。神奈川県だけでは対処できず、東は宮城、西は大阪まで広域搬送調整した。また病床確保のため結核病床などを利用するなど感染症法上の取り扱いの解釈を拡大し、協力を得られた病院の一般病床へ入院させることを厚労省と交渉した。これらのことを5日間で行い、この対処方法は全国に通知され拡大した。

早期より問題になったのは医療機関の状況が把握できない、病床の空き状況がわからない、感染症対策の資機材がないなど広域での情報基盤がないことがわかった。すなわち通常地域医療とは異なる広域での情報基盤と調整が必要ながわかった。このクルーズ船対応から得た課題は、高齢者、ハイリスクに対する配慮（背景、重症度による分類）、大量の軽症、無症状者の

入院（入院適否と隔離要否の決定）、入院先マッチング（集約的入院病床と情報の把握、調整）、ECMOなどによりICU荷重が高まるための分散的ICUの利用であった。これらの役割分担と機能集約を図り、病状を3段階、重症、中症、無症状または軽症に分け、それぞれ拠点化した。それらの受診調整を神奈川県調整本部が行う緊急医療体制「神奈川モデル」を作成した。また、課題であった神奈川県内医療機関の情報管理システム（G-MIS）を構築し国へ提供した。これにより医療機関、保健所、集合検査所、調整本部、療養宿泊施設などと医療従事者情報、医療機器情報、医療資材情報、搬送依頼、病床情報をITで情報共有できるようになり省力化とスピードが早まった。またC-CAT（Corona-Cluster Attack Team）を立ち上げ高齢者施設などのクラスター対策と支援を行った。

第3波以降今後どのように対策を練っていくか考えた。一つは想定外事態への対応で、入院患者の急増に対応するため医療機関とのコミュニケーション、会議を頻繁に開き、病床確保に関して病院と協定締結し、さらにフェーズにより病床を増減する協定を結んだ。この仕組みも厚労省へ提供し、国全体に広がった。また、各病院の病床状況を共有し、医療機関同士で状況を把握し効率的な運用を図った。また、スコアによる適正な入院基準を作った。このような地域療養における神奈川モデルを作り入院調整した。またコロナ後の患者の後方搬送システム、すなわちコロナで入院した患者の出口問題を解決すべく、後方病院の情報についてアプリを作り情報共有し病床回転数を早めるようにした。

神奈川県ではこのマッチングシステムが75%活用されている。また、最悪時を想定し酸素ステーションを作った。もし要入院患者が溢れた場合を想定した入院までの応急救護所とした。また県全体で入院療養全

体の把握を行った。

第6波以降では、医療逼迫を回避するためのいくつかの戦術を考え、医療負荷の軽減を図った。一つには受診せずセルフで療養できる自主療養で、これは発熱外来の負担の軽減の効果があり、3～4割の患者は自主療養に流れて医療機関の逼迫はなかった。また重症化を予防するための早期対応システムを考え、65歳以上、透析患者、施設患者への治療を各医療機関で早期から行うようにした。

日本の医療構造の特性として、急性期病床の多くで慢性期の患者も診ている医師、看護師が少ない、重篤性や複雑性のケースに対応できない、強制的に感染症対応に従事させづらいという医療体制の運営とリスクマネジメント上の欠点がある。その結果、コロナ以外の一般診療を抑制せざるを得ないという事態になった。このコロナ禍に救急搬送困難事例数が急増していることが報告されている。搬送困難になっているのはコロナに関するものではなく、逆にコロナの患者は入院できるが、それ以外が入院できなくなった。

また高齢者福祉施設、施設入所者に対する感染症医療提供のあり方がなされていない。すなわち、病気に対する対応について目をつぶってきた。今後は施設内で治療する体制を構築すべきである。

今後のこのような事態に対応するために、感染症、健康危機管理に関する人材育成、医療機関の感染管理能力に関する底上げが重要である。また、平時とは異なりこのような有事には緊急的中央集権、トップダウン体制が必要である。

このためにはその根拠を明示し、法を解釈して、財源確保して実行することが大事である。演者らは指揮命令システムを考慮し必要な担当部署へ説明、確認を繰り返し緊急時の指揮命令システムを統一した形で行った。

日本では蓋然性のある自然災害に対

しては様々対策を講じるが、サリン事件、コロナ禍などのようなインパクトのあるCBRNE災害（Chemical（化学）・Biological（生物）・Radiological（放射性物質）・Nuclear（核）・Explosive（爆発物））に対する保健医療体制がなく構築しておく必要がある。2003年SARS流行した時に多くの国ではパンデミックに対するリスクマネジメントを準備したが日本はしていなかった。健康安全保障についても創薬、ワクチン、医療物資など健康危機管理に関することは脆弱である。今後は平時へ向けた復旧復興プログラムが必要である。そのため、抗原検査キットによる、学校、家庭内でのセルフチェックおよび、薬局販売などを進めてきた。第8波+インフルエンザに備える国民、社会にリスク、クライシスコミュニケーションとして8月2日「感染拡大抑制の取り組み」と「柔軟かつ効率的な保健医療体制への移行」について提言した。2段階の移行案すなわち最初のステップでは現行法、通知解釈の範囲で運用し、次のステップで法改正、通知変更を伴うゴールを目指すのものである。この2つのステップでコロナが日常医療に溶け込む準備を考える必要がある。個々の最適解の集合は全体の最適解ではない。適時現状、将来予測を見直して戦略戦術の変更が重要である。

（久保直彦）

講師略歴

新潟大学医学部卒業
横浜市立大学救命救急センター、藤沢市民病院救命救急センター長などを経て、
2019年 藤沢市民病院副院長（現職）
2020年 神奈川県健康医療局医療危機対策統括官（現職）
2021年 神奈川県理事（医療危機対策担当）（現職）

委員など

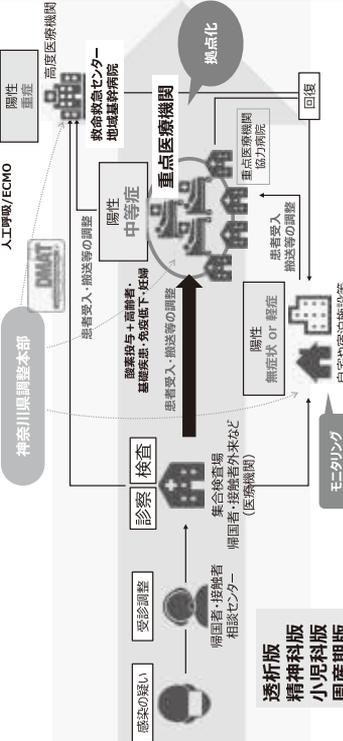
東京医科歯科大学医学部臨床教授
日本災害医学会評議員 神奈川県DMAT連絡協議会会長
日本救急医学会評議員・専門医・指導員
厚生労働省新型コロナウイルス感染症アドバイザリーボード構成員
専門は救急医学、災害医学

ダイヤモンドプリンセス号から得られた課題と施策

ダイヤモンドプリンセス号対応の課題から、神奈川県全体・全国の対策を講じる

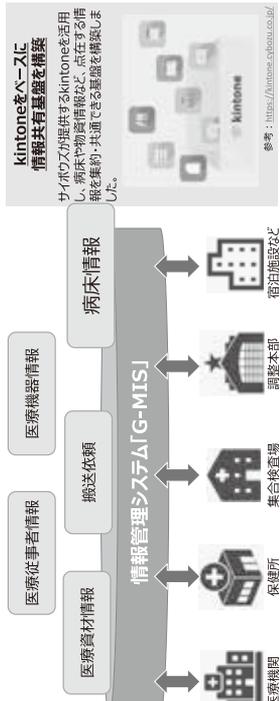
<p>高齢・ハイリスク、合併症に対する配慮 患者の選別行為が必要。</p>	<p>大量の軽症、無症状者の入院 膨大な数の軽症・無症状者への医療提供業務を効率化しなければならぬ。</p>	<p>入院先マッチング 入院が必要と判断した場合に即時に搬送先を決定するため、病床数の共有が必要。</p>	<p>ICU荷重大 ICU荷重が高まるため、リソース（人員・物資）の最適化が求められる。</p>
			
<p>背景・重症度による分類 「入院要否」と「隔離要否」の分離</p>	<p>集約的入院病床と情報（医療情報の把握と調整）</p>	<p>分散的ICU採用（医療情報の把握と調整）</p>	

緊急医療体制「神奈川県」役割分担と機能集約



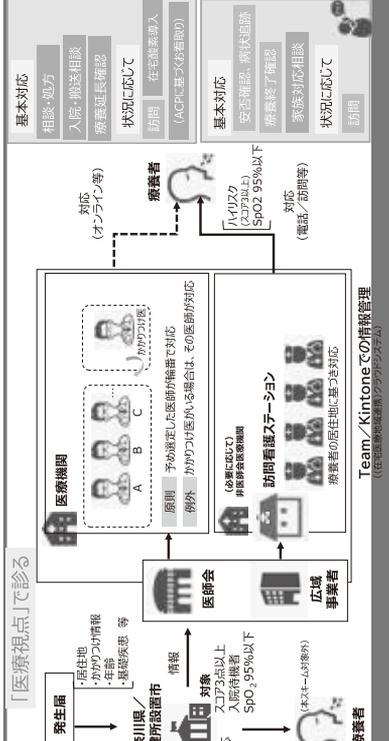
神奈川県内医療機関の情報管理システム

課題の1つであったリソース（ヒト・モノ）の見える化をIT基盤を構築して解決した



神奈川県内医療機関の情報管理システムを構築し、国に提供

4. 地域療養の神奈川県モデル

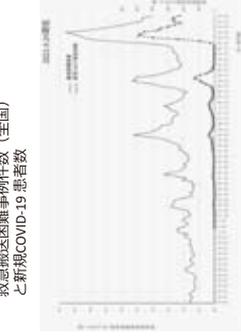


第6波以降の医療逼迫を回避するための6つの戦略

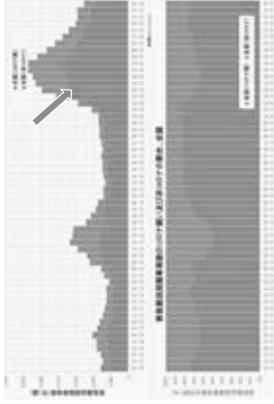


2-2 全国におけるコロナ流行と救急搬送困難事例数

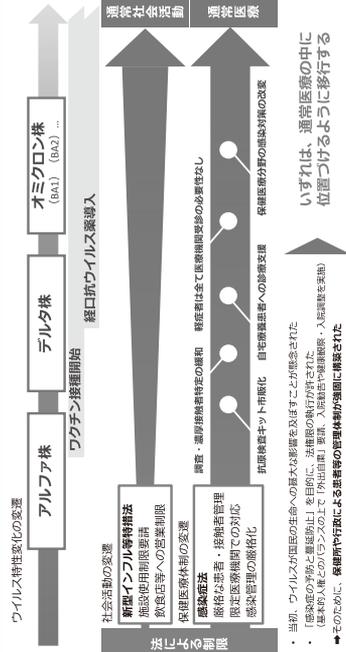
救急搬送困難事例数 (全国) と新規COVID-19患者数



第6波で非コロナ患者の搬送困難件数が上昇



ウイルス特性変化や対応策の変遷と社会経済活動及び保健医療体制の変更



社会の受け止めはどうか？ (例)

* 地の実情に応じてステップ1への移行の判断をする

	従来の対応	ステップ1	ステップ2
社会的受け止め			
診療に関わる費用負担	原則全額公費負担	混乱回避のため外来を含め原則全員公費負担継続	重症患者は公費負担 (他は患者の保険診療)
感染者の外出自粛	法的に基づく感染発症期間中は外出自粛	感染伝法の強力的運用 医療も保健所も重症化対応へサポートはざるを得ない 要する外出自粛期間を付与することが可能な中で、ひとりひとりが主体的な感染予防行動をする	感染伝法の取り強い変更 保健所による外出自粛要請によらず、市民の自発的な感染予防行動を行う 必要経費の外出自粛 (感染・生体必需品購入)
濃厚接触者 (感染者の接点者)		原則保健所の認定と要請で7日以内の活動禁止 (検査活用で早期の活動の場合あり)	感染伝法の強力的運用 保健所による濃厚接触者特定が困難なので、一ひとりの主体的な感染予防行動を要する
検査・受診のあり方	受けし者は医療機関受診が公費負担 (検査費用は自費負担) (検査など) を助長	医療機関受診に拘らず、施設や家庭において検査検査費用を促進し、特に高齢者の高い年齢者は医療機関受診を必須としない選択 (例えば、学校)	
公共交通機関利用	不可	利用を控える、自家用車などを活用	利用可

公的な証明を求める民間保険での取り扱いについては別途検討が必要

7. 岩手県小児救急電話相談事業実績

はじめに

平成16年10月より、岩手県では「看護師によるこども救急相談電話」事業を実施している。この事業は、岩手県から岩手県医師会が受託し、実務的な業務は盛岡市医師会に委託されている。この相談員は、岩手県看護協会が推薦し、盛岡市医師会が雇用するものとし、11名を登録している。

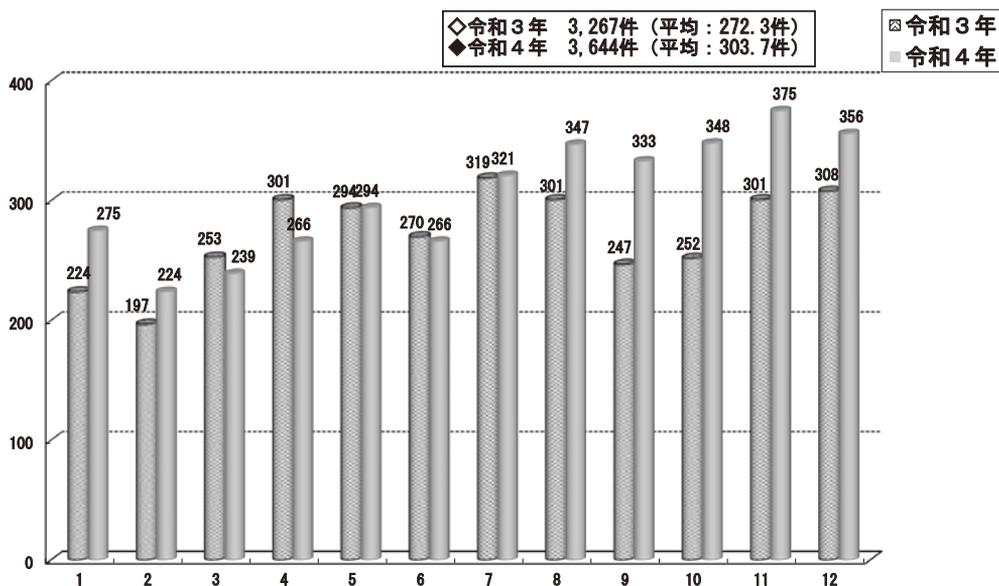
相談業務は年中無休で午後7時から午後11時まで行われ、登録した看護師のうち2名ずつで担当している。相談内容の検証、より良い相談方法、相談員の技術向上のため、毎月1回相談員全員と小児科医3名ほどが同席し、相談事例の検討会を行っている。その内容は市医師会の理事会で毎月報告されている。

1. 相談件数推移（H18.1～R4.12）

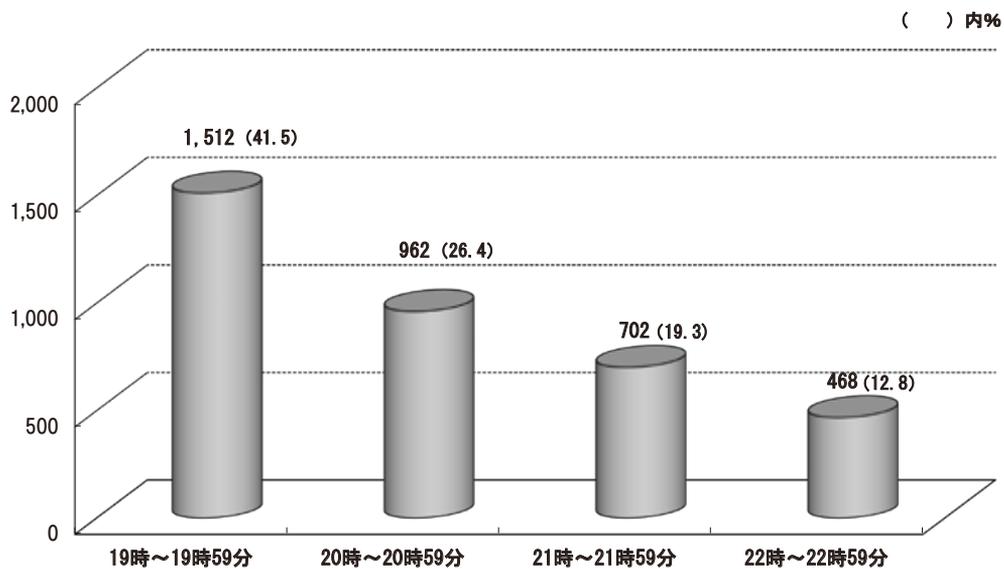
(件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成18年	172	163	184	193	243	1207	182	174	149	191	225	332	2,415	201.3
平成19年	220	221	271	245	239	226	189	175	191	172	251	347	2,747	228.9
平成20年	236	225	197	205	222	212	217	210	201	214	250	380	2,769	230.8
平成21年	296	266	262	242	276	274	209	249	309	454	493	494	3,824	318.7
平成22年	348	317	343	285	359	317	332	307	242	269	346	413	3,878	323.2
平成23年	368	325	297	262	350	314	351	345	307	303	331	360	3,913	326.1
平成24年	333	360	330	349	323	260	291	306	288	314	351	320	3,825	318.8
平成25年	305	255	277	303	331	297	297	334	362	314	292	353	3,720	310.0
平成26年	277	246	331	301	283	257	285	331	272	267	291	408	3,549	295.8
平成27年	364	256	240	245	325	279	268	305	288	283	309	350	3,512	292.7
平成28年	301	337	337	369	333	311	330	341	336	308	313	396	4,012	334.3
平成29年	297	261	258	315	391	367	376	372	309	352	338	352	3,988	332.3
平成30年	398	338	327	374	376	327	437	426	328	352	324	333	4,340	361.7
令和元年	407	373	348	399	452	377	404	451	378	343	365	397	4,694	391.2
令和2年	386	321	277	236	243	267	227	283	238	251	204	235	3,168	264.0
令和3年	224	197	253	301	294	270	319	301	247	252	301	308	3,267	272.3
令和4年	275	224	239	266	294	266	321	347	333	348	375	356	3,644	303.7

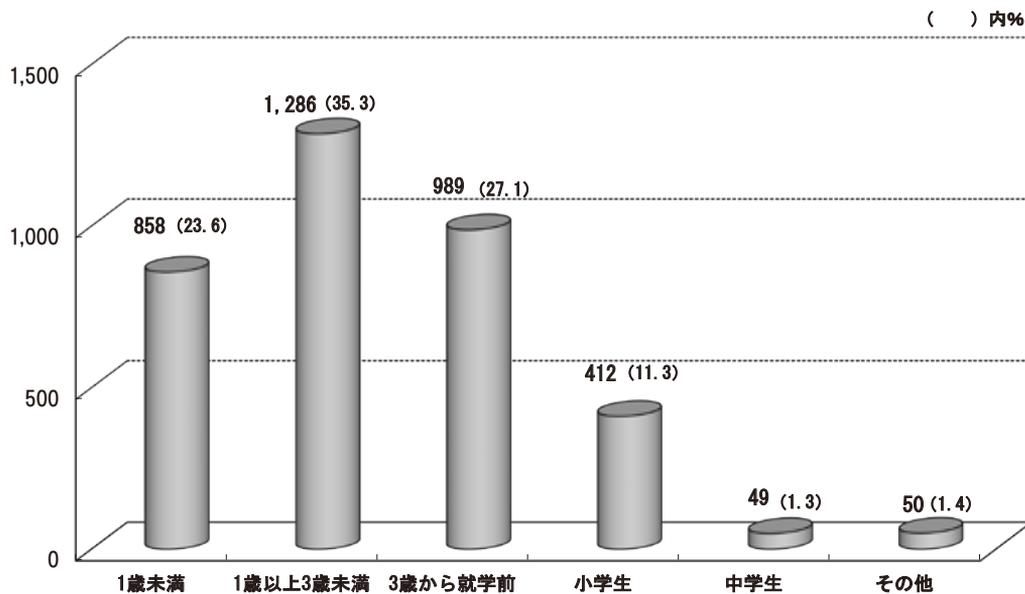
2. 月別件数（前年度との比較）



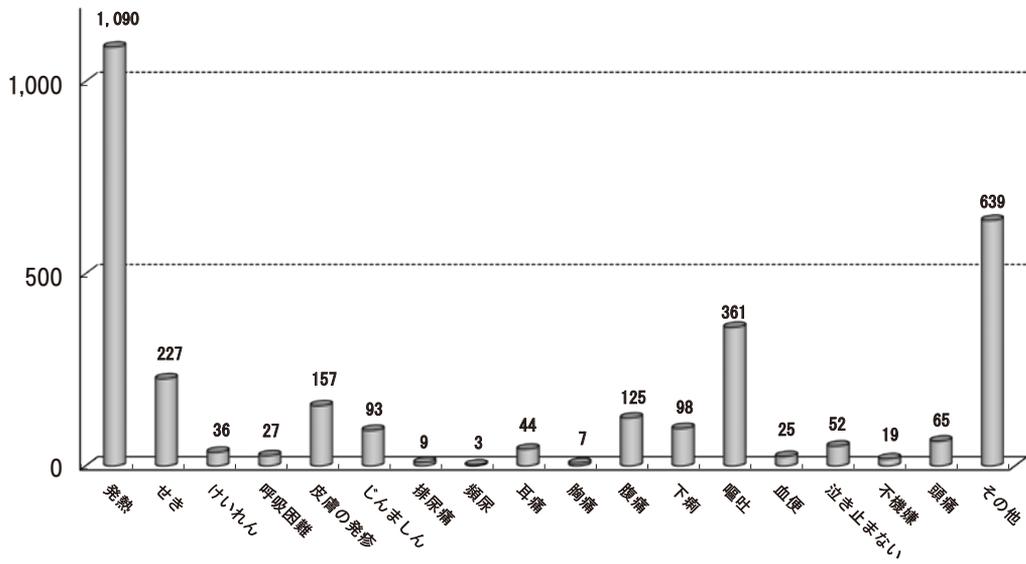
3. 時間帯別内訳 (R4.1～12)



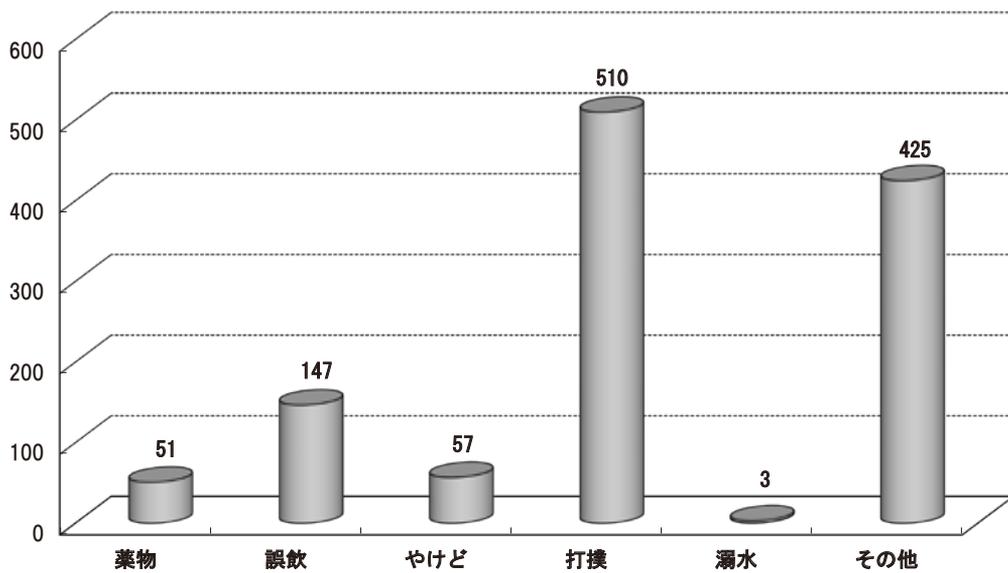
4. 年齢別内訳 (R4.1～12)



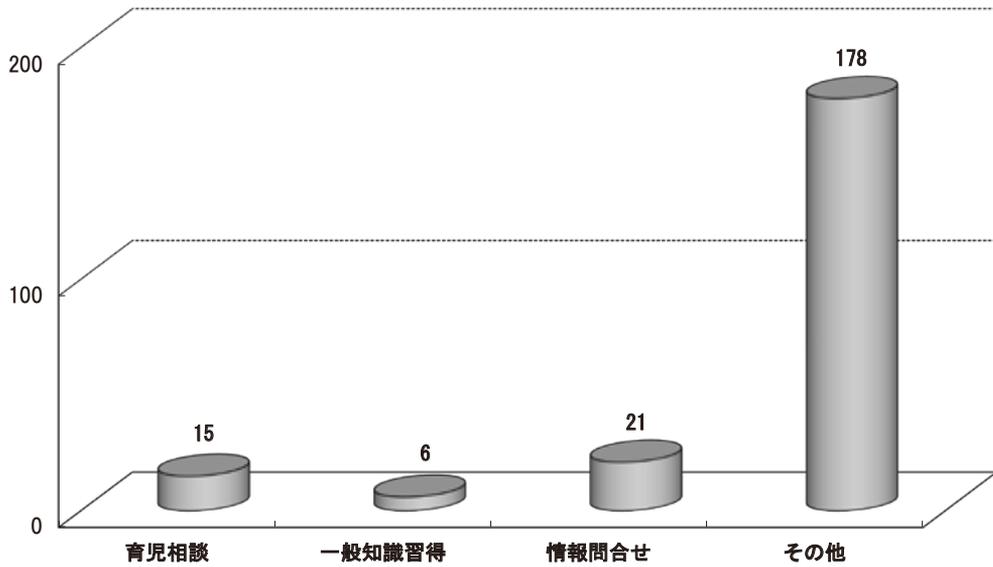
5. 相談別内容（病気）



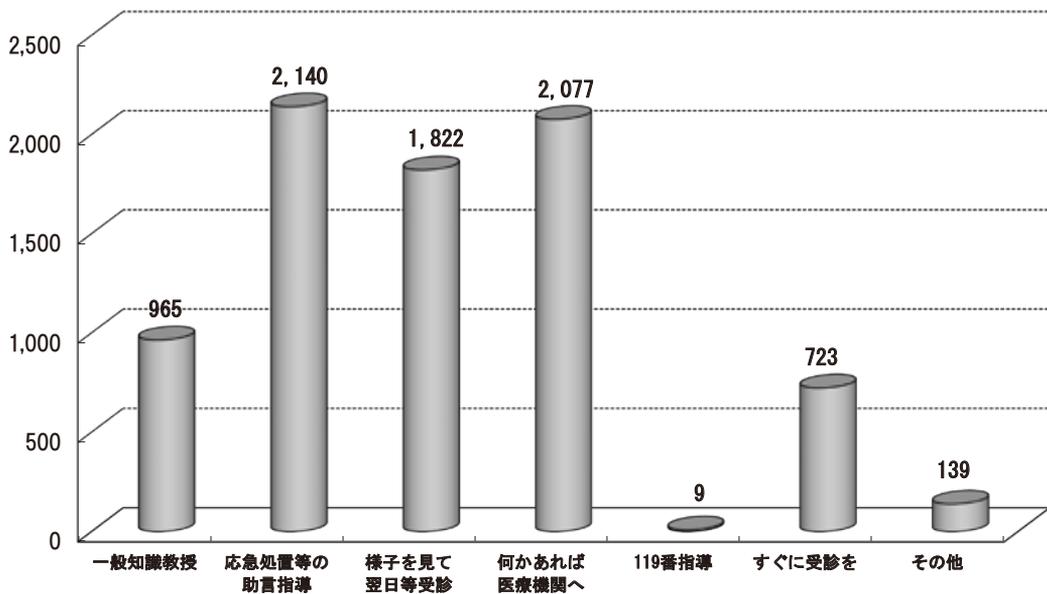
6. 相談内容別内訳（事故）



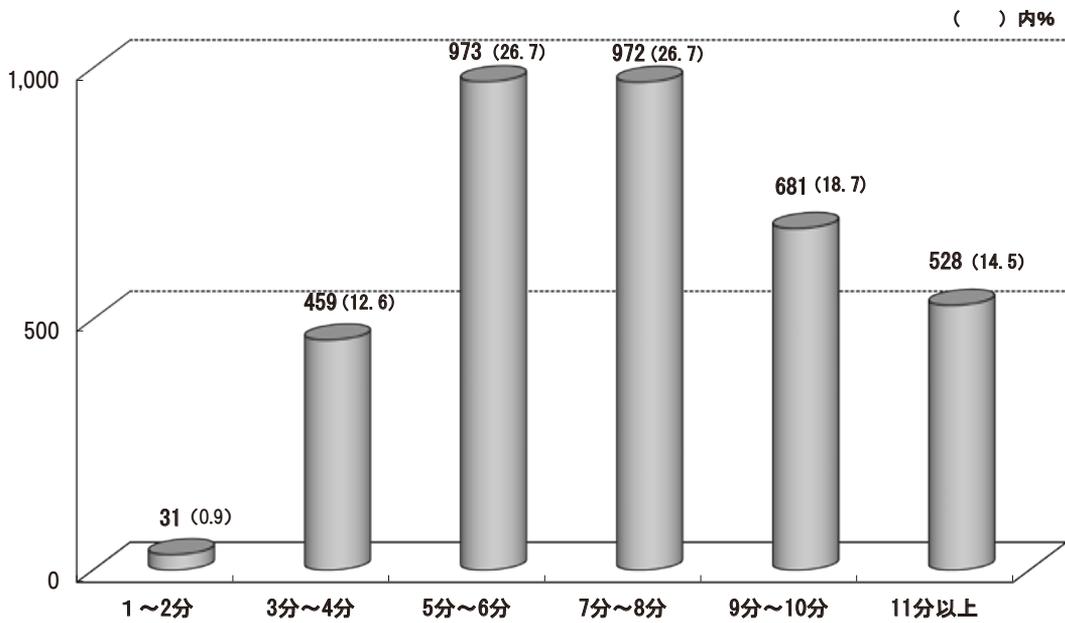
7. 相談内容別内訳（その他）



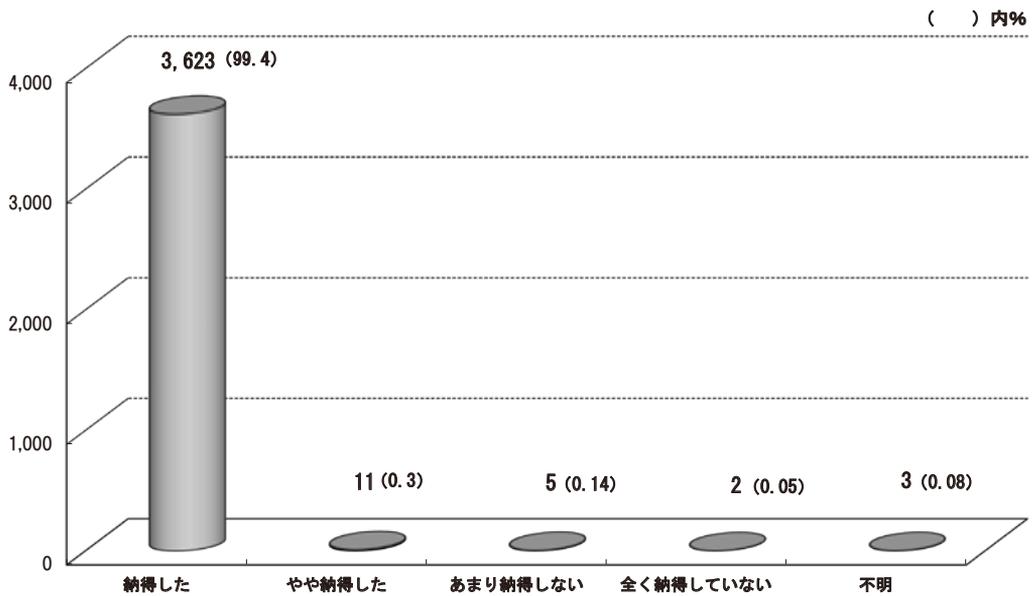
8. 対応内容別内訳（R4.1～12）



9. 相談時間別内訳 (R4.1～12)



10. 相談者の印象別内訳 (R4.1～12)



11. 市町村別件数 (R4.1～R4.12)

市町村名	相談件数	()内%	市町村名	相談件数	()内%
市部計	3,180	(87.27)	和賀郡	10	(0.27)
盛岡市	1,261	(34.60)	西和賀町	10	(0.27)
宮古市	94	(2.58)	胆沢郡	46	(1.26)
大船渡市	66	(1.81)	金ヶ崎町	46	(1.26)
奥州市	263	(7.22)	西磐井郡	14	(0.38)
花巻市	355	(9.74)	平泉町	14	(0.38)
北上市	253	(6.94)	気仙郡	6	(0.16)
久慈市	35	(0.96)	住田町	6	(0.16)
遠野市	54	(1.48)	上閉伊郡	10	(0.27)
一関市	340	(9.33)	大槌町	10	(0.27)
陸前高田市	39	(1.07)	下閉伊郡	33	(0.91)
釜石市	49	(1.34)	山田町	19	(0.52)
二戸市	38	(1.04)	岩泉町	8	(0.22)
八幡平市	49	(1.34)	田野畑村	3	(0.08)
滝沢市	284	(7.79)	普代村	3	(0.08)
岩手郡	62	(1.70)	九戸郡	39	
雫石町	31	(0.85)	軽米町	4	(1.07)
葛巻町	5	(0.14)	洋野町	20	(0.11)
岩手町	26	(0.71)	野田村	7	(0.55)
紫波郡	211	(5.79)	九戸村	8	(0.19)
紫波町	129	(3.54)	二戸郡	9	(0.22)
矢巾町	82	(2.25)	一戸町	9	(0.25)
県外	9	(0.25)			(0.25)
不明	15	(0.41)			
			合計	3,644	件

おわりに

令和4年の電話相談件数は3,644件(月平均303.7件)であった。令和3年より377件増となり、過去最高だった令和元年の4,694に比べ1,000件近く減少しているが、新型コロナウイルス感染症の流行により減少した令和2年からは徐々に増加傾向にある。

年齢別内訳では3歳未満が58.8%を占め、病気の相談では発熱に関する相談(35.4%)が最も多いという傾向は例年と同じである。

市町村別では、盛岡市からの相談が34.6%と最も多く、その他全県下から相談が寄せられているが、県外からの相談も0.2%認めた。また、相談時間が長くなる割合が近年増えており、令和3年は9分以上の割合が25.3%だったが、令和4年は33.2%となっている。対応に苦慮する事例も少なくないが相談者の99.4%は相談員の対応に納得しており、適切に対応しているといえる。「はじめに」で述べたように、相談員は事例検討会を開催したりするなど日々の相談技術の向上に努めており、その努力に敬意と感謝を表したい。

V 救急医療年譜

- 昭和 40. 1.10 休日当番医制発足（内科、一日2ヵ所）
41. 7 休日当番医制に小児科および外科（それぞれ1日1ヵ所）が参加
51.12. 1 盛岡市夜間急患診療所が少年センター内（中の橋際、旧商工会議所）に開設
53. 3. 岩手県医業課より岩手県医師会、盛岡市医師会に二次体制確立要請
53. 6.16 盛岡市夜間急患診療所開設1周年記念式典開催
54.12. 1 盛岡地区二次救急医療体制発足、二次救急病院群輪番制9病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 遠山病院 高松病院
栃内病院 河南病院 はらた病院
55.11. 1 岩手県高次救急センター開設
56. 9.10 盛岡市夜間急患診療所開設5周年記念懇談会開催
56.12 内丸病院が二次救急病院群輪番制に参加
57. 2. 6 盛岡市夜間急患診療所が若園町・市役所若園町分庁舎1階に移転、診療開始
57.10.15 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜8:00～12:00→夜7:30～11:30）
58. 7 はらた病院が二次救急病院群輪番制を辞退
62.11. 1 盛岡市夜間急患診療所が肴町盛岡市保健センター2階に新築移転、診療開始
62.11.14 盛岡市夜間急患診療所落成式開催
平成 4. 4. 1 盛岡市・都南村合併
5. 1 河南病院が二次救急病院群輪番制を辞退
7. 4. 1 盛岡繫温泉病院・盛岡友愛病院・川久保病院が二次救急病院群輪番制に参加
輪番病院を南北2ヶ所におく
8.12. 7 盛岡市夜間急患診療所開設20周年記念式典開催
11. 4. 1 小児救急病院群輪番制7病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
もりおかこども病院
11.11. 1 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜7:30～11:00→夜7:00～11:00）
12. 4. 1 国立療養所盛岡病院が二次救急病院群輪番制に参加
12. 9. 1 南北にそれぞれおいていた輪番病院をA、Bの二グループに変更
Aグループ
岩手県立中央病院 盛岡赤十字病院 岩手医科大学附属病院
Bグループ
盛岡市立病院 遠山病院 高松病院 栃内病院 内丸病院
盛岡繫温泉病院 盛岡友愛病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
13. 2.22 盛岡地区二次救急医療体制20周年記念式典開催
14. 2. 1 岩手県高次救急センターを「岩手県高度救命救急センター」と改称
14. 9. 1 国立療養所盛岡病院が小児救急病院群輪番制を休止
16.10. 1 看護師によるこども救急電話相談の開設
17. 4. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
17. 9. 1 西根町・松尾村・安代町が合併し「八幡平市」となる
18. 1.10 玉山村が盛岡市と合併

- 19. 3.24 盛岡市夜間急患診療所開設 30 周年を祝う会開催
- 19. 4. 1 盛岡市立病院が小児救急病院群輪番制を休止（産婦人科も休止）
- 20. 4. 1 内丸病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 20. 4. 1 盛岡市が中核市となる
盛岡市夜間急患診療所が盛岡市保健所（神明町：旧競馬会館ビル）に移転開設
- 20. 6.14 岩手・宮城内陸地震発生（最大震度 6 強）
- 20. 6 盛岡市医師会災害時対応マニュアルの作成（全会員へ送付）
- 20. 7.24 岩手県沿岸北部を中心とする地震発生（最大震度 6 強）
- 21. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を再開
- 21. 3 メキシコにおける豚インフルエンザの発生
- 21. 5 新型インフルエンザの国内発生
- 21. 6 新型インフルエンザの県内発生
- 21.10 夜間急患診療所小児科診療を 2 人体制で対応（H 22.1.3 まで）
- 21.11.26 盛岡地区二次救急医療体制 30 周年記念式典開催
- 22. 4. 1 八角病院が二次救急病院群輪番制に参加（B 群病院として）
- 23. 3.11 東北太平洋沖地震発生（後に東日本大震災）
PM2：46 発災、マグニチュード 9.0（最大震度 7）、
津波による死者・行方不明者 19,000 人超
- 23. 3.12 遺体検案応援が始まる（盛岡市・岩手郡・紫波郡医師会は 6 月まで応援）
- 23. 5. 7 山田町保健センター救護所への当直応援開始（7/3 まで）
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 7.10 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援開始
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 8. 7 岩手県医師会高田診療所への診療応援開始
※各診療部会で派遣対応
- 24. 5. 8 岩手県による「ドクターヘリ」が運行開始（岩手医大矢巾キャンパス基地）
- 24.12.30 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援終了
- 25. 8. 9 大雨により「大雨洪水警報」発令
雫石町国道 46 号線付近で乗用車・バスが孤立、消防本部による救助活動有
- 25. 9.16 台風 18 号の影響により玉山区松川が氾濫、浸水地域で消防本部による救助活動有
- 26. 1. 1 滝沢村が「滝沢市」となる
- 28. 3.20 岩手県医師会高田診療所への診療応援終了（閉所式）
- 28. 8.31 台風 10 号の影響により、岩泉町・久慈市など沿岸地域に甚大な洪水被害有死者・行方不明者 24 名
- 29. 3.13 岩手医科大学附属病院新築工事起工式
- 31. 3. 1 国立病院機構盛岡病院が「国立病院機構盛岡医療センター」に名称変更
- 31. 4. 1 もりおかこども病院が「子どもは未来もりおかこどもクリニック」に名称変更
（無床化のため小児救急病院群輪番制を中止）
- 令和 1. 5.20 岩手県立中央病院（隣接地）にヘリポート完成
- 1. 6.18 国立病院機構盛岡医療センターが重症心身障がい者病棟（さくら病棟）を開棟
- 1. 7.20 岩手医科大学附属病院（矢巾）竣工
- 1. 9.21 岩手医科大学附属病院（矢巾）・内丸メディカルセンター開院
- 1. 9.24 岩手医科大学附属病院（矢巾）外来診療開始

- 1.10. 1 国立病院機構盛岡医療センターが小児救急病院群輪番制への参加を再開
(平成 14 年 9 月に休止)
- 1.12 中国湖北省武漢市における新型コロナウイルス発生
- 2. 1.24 新型コロナウイルスの国内発生
- 2. 4. 1 高松病院が二次救急病院群輪番制を休止
川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
- 2. 4.16 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、岩手県を含む全国が国の緊急事態
宣言の対象地域となる
- 2. 5.11 新型コロナウイルス感染症の対応に伴い、岩手医科大学附属病院が小児救急
病院群輪番制から一時的に脱退
- 2. 5.14 岩手県を含む 39 県について緊急事態措置を解除
- 2. 7.29 県内で新型コロナウイルス感染症患者の判明
- 2.11.23 県内で新型コロナウイルス感染症による死亡例を確認
- 3. 1.26 感染症対策として二次救急医療対策委員会における会議にテレビ会議システ
ム (Zoom) を導入
- 3. 5. 1～2 滝沢市アピオにて盛岡市内の医療従事者向けの新型コロナワクチンの接種を
5.22～23 行う (対象者は約 5,000 人)
- 8.12 新型コロナウイルスの新規感染者が直近 1 週間で県全体の人口 10 万人当たり
15 人を超えたことにより、県独自の岩手緊急事態宣言が発出 (3.9.16 解除)
- 4. 1.23～ 2 回目となる県独自の岩手緊急事態宣言の発出 (4.5.30 解除)
- 4. 4. 1 岩手県立中央病院が県内 4 か所目となる救急救命センター (3 次救急医療機関)
に指定される

VI 規程・協定書及び設置要項等資料

1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則

(昭和52年2月1日盛岡市長決裁)

改正 昭和52年4月19日

昭和55年12月1日

平成9年4月1日

平成20年4月1日(平成20年4月1日副市長専決)

平成22年4月1日(平成22年3月3日副市長専決)

平成24年6月1日(平成24年5月30日副市長専決)

- 第1条 盛岡市夜間急患診療所(以下「診療所」という。)の円滑な運営を図るため、盛岡市夜間急患診療所運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 第2条 協議会は、次に掲げる団体等をもって組織し、事務局を盛岡市保健所企画総務課内に置く。
(1) 盛岡市医師会
(2) 盛岡薬剤師会
(3) 岩手県看護協会
(4) 盛岡市
- 第3条 協議会は、次に掲げる事項について協議決定の推進に努めるものとする。
(1) 診療所における医師その他従事者の勤務に関すること。
(2) 診療所において生じた事故処理に関すること。
(3) 診療所の事務改善に関すること。
(4) その他診療所の運営に必要な事項に関すること。
- 第4条 前条各号に掲げる事項を審議するため、協議会に次の各号に掲げる構成団体の区分に応じ、当該各号に定める数の委員を置く。
(1) 盛岡市医師会 7人
(2) 盛岡薬剤師会 2人
(3) 岩手県看護協会 1人
(4) 盛岡市 2人
- 第5条 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
協議会に会長及び副会長1人を置く。
(1) 会長及び副会長は、委員の互選とする。
(2) 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
(3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 第6条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。
- 第7条 2 協議会の事務を処理させるため協議会に事務局長及び事務局職員を置く。
事務局長は盛岡市職員のうちから、事務局職員は構成団体職員のうちから会長が委嘱する。
- 第8条 この会則に定あるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定ある。
附則
この規約は、昭和52年4月19日から施行する。
附則
この規約は、昭和55年12月1日から施行する。
附則
この規約は、平成9年4月1日から施行する。
附則
この規約は、平成20年4月1日から施行する。
附則
この規約は、平成22年4月1日から施行する。
附則
この規約は、平成24年6月1日から施行する。
1 この規約の2の規定によらず、平成24年6月1日から委嘱する委員の任期については、平成24年6月1日から平成26年3月31日までの1年10か月とし、その後に委嘱する委員の任期については、従前のおりとする。

2. 災害時の医療救護活動に関する協定書

盛岡市医師会長 石川育成

近時、集団災害時医療救助の体制確立は大きな社会問題であると同時に焦眉の急である。

外国に目を移すとその救助活動は目を見張るものであり、残念乍ら我が国は「富国日本は金も出さず人も出さず国際的役割を果たしていない」と批判的的であると言う。国内の体制が整備されない現実を視ればそれも頷かざるをえない事実であろう。

過去を省みるまでもなく、国内に発生した集団災害の医療救助体制は付け焼刃であり必ずしも満足出来るものではない。災害対策基本法に基づいて夫々の地方自治体に体制が現存するとは言え、過去においてその体制の本格的作動は皆無に近い。

地方小都市と言えども集団災害に無縁ではない。近年の高層ビルの林立は集団災害発生の素地を有し、飛行機事故、大地震、津波等々の発生予見は不可能である。斯かる事態発生を想定しての医師集団率先による具体的体制確立が急務であることは言を待たない。

盛岡市医師会は数年来、斯かる問題に鋭意検討、研究を重ねて来たところであるが、出動時の死傷補償が大きな壁であった。然し乍ら補償問題決着の待事では増があかず、体制確立と平行しての行政接衝を条件とし、医道・医心を弁えた会員の総意による『盛岡市医師会災害救助隊設置要項』が昭和61年5月の総会承認を得たのである。

此の度盛岡市当局は勇断をもって盛岡市医師会との協定を締結したが、この協定は医師集団の理念を充分理解したものであり、この実績が県内各市町村に波及する事によって15郡市医師会の足並みが完全に揃い、岩手県医師会の提唱する大目的が達成される原動力になる事を期待するものである。

此の種の問題は画一的にとらえて実行に移す事は極めて困難な部分が多い。地域環境、会員数等々の地域事情も考慮しなければならないが、災害における人命救助活動は医師集団の組織活動力以外にない。地域事情の困難性を越えての体制作りこそ医師集団への期待と信頼が倍加する事になろう。

岩手県医師会は災害救助体制確立を急務としている。底辺からの対応策の集積が「岩手県と岩手県医師会」「岩手県医師会と郡市医師会」「郡市医師会と市町村」「岩手県と市町村」の協定図式の基盤となる事は明白である。

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 1988」より

① 岩手県と岩手県医師会との協定書

岩手県（以下「甲」という。）と社団法人岩手県医師会（以下「乙」という。）は災害時における医療救護について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は岩手県地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（医療班の派遣）

第2条 甲は、岩手県地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し医療班の編成及び派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲から要請を受けた場合は、直ちに医療班を編成し災害現場等の救護所等に派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、前2条の規定により医療救護活動の円滑な実施を図るため、災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（医療班に対する指揮）

第4条 医療救護活動の総合調整を図るため、乙が派遣する医療班に対する指揮は、甲が指定するものを行う。

（医療班の業務）

第5条 乙が派遣する医療班は、甲または市町村が避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行うことを原則とする。

2 医療班の業務は次の通りとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療班が使用する医薬品等は、当該医療班が携行するもののほか、甲が供給するものとする。

（収容医療機関の指定）

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用の弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用は、甲が負担するものとする。

- (1) 医療班の編成及び派遣に要する経費
- (2) 医療班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
- (3) 医療班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかりまたは死亡した場合の扶助金
- (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

(細目)

第10条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協議)

第11条 この協定に定めのない事項、またはこの協定に関し疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙者記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成10年3月19日

甲 岩手県
代表者 岩手県知事 増田寛也

乙 盛岡市菜園二丁目8番20号
社団法人 岩手県医師会
会長 石川育成

② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書

社団法人岩手県医師会（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、平成元年4月20日岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書」に基づき、災害時の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第1条 この協定書は、岩手県地域防災計画に基づき、岩手県が行う医療救護活動に対し、岩手県知事と岩手県医師会長との間に協定された災害時の医療救護活動についての乙の協力に関し、必要な事項を定める。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、医療救護活動を実施する必要がある場合は乙に対し、医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の協定により、甲から要請を受けたときは、直ちに乙の災害医療救護計画に基づき、医療救護班を派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が、前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、医療救護活動の円滑な実施を図るため災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（指揮命令）

第4条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲の指定する者が行うものとする。

（医療救護班の業務）

第5条 乙が派遣する医療救護班は、岩手県または市町村が避難場所、避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護を行う。

2 医療救護班の業務は次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するもののほか、原則として岩手県が供給するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、岩手県が地域防災計画に基づく収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用については、乙が甲に請求するものとする。

(1) 医療救護班の編成及び派遣に要する経費

(2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費

(3) 医療救護班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、または死亡した場合の扶助金

(4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

2 前項第1号、第2号の定めにより請求する費用弁償等の額については、岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書及び同実施細則」によるものとする。

(費用弁償等の請求、報告)

第10条 前条の定めによる費用弁償等の請求、報告については、医療救護活動終了後、速やかに乙が一括して別に定める方式により甲に請求、報告するものとする。

(費用弁償等の支払)

第11条 甲は、乙からの請求、報告に基づき費用弁償等を岩手県へ請求するものとし、岩手県から入金後速やかに乙に支払うものとする。

(協 議)

第12条 前各条に定めのない事項及び協定実施にあたって疑義を生じた場合には、甲乙協議のうえ決定するものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間（以下「協定機関」という。）は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者記名押印のうえ各自その1通を保有する。

平成10年3月31日

岩手県盛岡市菜園二丁目8番20号

甲 社団法人 岩手県医師会

会 長 石 川 育 成

岩手県盛岡市愛宕町18番6号

乙 社団法人 盛岡市医師会

会 長 小 林 高

③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書

盛岡市（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、災害が発生した場合の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は、盛岡市地域防災計画（以下「防災計画」という。）に基づき、甲が乙の協力を得て行う医療救護活動を円滑に実施するため、その実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、防災計画に基づく医療救護活動を行う必要が生じたときは、乙に対し、医師、看護婦等で編成する医療救護班（以下「医療救護班」という。）の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲の要請を受けたときは、直ちに、医療救護班を甲の指定する場所に派遣するものとする。

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療救護班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療救護班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療救護班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

（医療救護班の業務）

第3条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 後送医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 助産
- (4) 死亡の確認

（医療救護班の輸送）

第4条 医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所の設置）

第5条 甲は、災害の状況により必要に応じて救護所を設置する。

2 甲は、前項に定めるもののほか、災害の状況により必要と認めたときは、医療救護活動が可能な被災地周辺の医療施設に乙の協力を得て救護所を設置する。

（使用医薬品等）

第6条 医療救護活動に使用する医薬品、医療材料その他医療関係物品（以下「医療品等」という。）は、原則として甲が備える医薬品等とする。

2 前項の医薬品の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所における給食等）

第7条 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。

（医療費）

第8条 救護所における医療費は、無料とし、患者に対しては請求しないものとする。

2 後送医療施設における医療費は、患者が負担する。

(費用弁償)

第9条 甲は、次の各号に掲げる費用について、当該各号に定める額を負担する。

- (1) 医療救護班を派遣したときの人件費災害救助法（昭和22年法律第118号）の規定に基づく実費弁償の程度を基準として、甲、乙協議して定める額
- (2) 医療救護班が調達した医薬品等を使用したときのその使用した医薬品等の費用実費の額
- (3) 後送医療施設及び救護所において行った医療救護活動に伴い、当該後送医療施設及び救護所の施設又は設備を損傷したときの当該施設又は設備の現状回復に要する費用実費の額
- (4) 前各号に該当しない費用で、この協定実施のため要したものの甲、乙協議して定める額
(扶助費)

第10条 甲は、医療救護班の医師、看護婦等が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、又は死亡したときは、災害救助法の規定に基づき支給される扶助金の例により扶助費を支給する。

(医事紛争の措置)

第11条 医療救護班が医療活動により患者との間に医事紛争が生じたときは、乙は、直ちに甲に連絡するものとする。

2 甲は、前項の連絡を受けたときは速やかに調査し、乙と協議の上誠意をもって解決のため適当な措置を講ずるものとする。

(報告)

第12条 乙は、医療救護活動終了後速やかに甲の定るところにより医療救護活動従事者の氏名及び人数その他医療救護活動の内容を、甲に報告するものとする。

(費用等の請求)

第13条 乙は、第9条の費用及び第10条の扶助費（以下「費用等」という。）を請求するときは、甲の定めるところにより行うものとする。

(支払)

第14条 甲は、前条の規定により費用等の請求があったときは、その内容を審査し、適当であると認めるときは、その費用等を乙に支払うものとする。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義が生じた事項については、甲、乙協議して定める。

(協定期間)

第16条 この協定の有効期間は、昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了1月前までに甲、乙いずれかから何ら意思表示がないときは、更に期間満了の翌日から1年間この協定を更新するものとし、以後この例による。

この協定の締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙記名押印して、それぞれの1通を保有するものとする。

平成11年11月15日

甲 盛岡市

代表者 盛岡市長 桑 島 博

乙 盛岡市愛宕町18番6号

社団法人盛岡市医師会

会 長 小 林 高

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会 設置要項

(設置)

第1条 盛岡市医師会に二次救急医療対策委員会（以下委員会という）を置く。

(所掌)

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 盛岡地区に於ける救急医療対策に関する事項
- (2) その他二次救急医療対策に伴う必要な事項

(構成)

第3条 委員会は盛岡市医師会長が任命した委員をもって構成し、委員会に若干名の常任委員を置く。

(任期)

第4条 委員の任期は盛岡市医師会役員の任期と同じとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き委員長は盛岡市医師会長とする。

- (1) 委員長は会務を総括し会議の議長となる
- (2) 委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する

(会議)

第6条 委員会の会議は必要に応じて委員長が招集する。

- (1) 会議は委員会と常任委員会の二種とする
- (2) 委員長は必要があるときは関係者を出席させ説明又は意見を求めることが出来る

(会議の結果)

第7条 委員会は必要に応じて審議した結果を速やかに医師会長に報告する。

第8条 本委員会の庶務は盛岡市医師会事務局に於いて処理する

(経費)

第9条 委員会の経費は補助金、関連医療機関からの拠出金及びその他の収入金をもって充てる。

(1) 拠出金の額は毎年3月に委員会に於いて審議決定する

附 則

- 第 10 条 この要項は昭和55年4月1日から施行する。
この会則は、平成 2年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成 7年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成 8年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成 9年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成12年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成20年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成22年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成24年6月26日一部改正する。
この会則は、平成31年3月 1日一部改正する。
この会則は、平成31年4月 1日一部改正する。
この会則は、令和 2年4月 1日一部改正する。

付 表

- 委 員 -

岩手医科大学附属病院	院長	他4名
岩手県立中央病院	院長	他1名
盛岡赤十字病院	院長	他1名
盛岡市立病院	院長	他1名
栃内病院	院長	1名
遠山病院	院長	1名
盛岡つなぎ温泉病院	院長	1名
盛岡友愛病院	院長	1名
川久保病院	院長	1名
独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター	院長	1名
八角病院	院長	1名
夜間急患診療所運営委員		4名
盛岡市医師会理事		8名
岩手西北医師会	会長	1名
紫波郡医師会	会長	1名
そ の 他		若干名 以上 37名以内

Ⅶ 編集後記

2021年11月に南アフリカで初めて報告されたコロナウイルスオミクロン株は2022年に我が国でもあっという間に伝播し、夏季の第7波、冬季の第8波と大きな流行となった。私の勤務する盛岡赤十字病院でも第7波ではアウトブレイクが起きた病棟を閉鎖し、加えて多くの看護職員が感染または濃厚接触により職員の10%が休務したため、人不足による病棟の閉鎖や緊急手術以外の手術を中止するに至った。また、第8波でも同様のことが発生した。盛岡医療圏の多くの病院でも同様のことが起きて、救急医療、救急患者の受け入れにも支障をきたすようになった。第8波の消退とともに次第に状況は落ち着いていった。

さて、2022年の「あゆみ」が発刊された。詳細は各報告を参照していただきたいが、初期救急、二次救急患者はコロナ以降大幅に減少したままである。初期救急でも当番医、夜間急患診療所とも半減、小児科は約3分の1まで減少したが、2022年は外来受診者が後半に若干増加傾向にあるとはいえ減少したままであった。救急医療の受け入れ困難事例の増多など混乱は昨年と同様に続いていたが、コロナ患者の受け入れは大きな混乱は起きなくなった。

2023年5月8日には2類相当から5類に引き下げられ、医療体制も大きく変わった。社会はすでにウイズコロナからアフターコロナへ向かっており、コロナはニュースになることも少なくなった。この稿を書いている8月はすでに第9波のピークに突入したと言われている。アフターコロナはまだまだ遠く、救急医療がスムーズに行われるようになるため各医療機関に一層のご協力をお願いしたい。

最後に寄稿していただきました各位、貴重なデータを毎月報告している各医療機関、保健所の事務職員の皆様、盛岡市医師会事務局の皆様に感謝申し上げます、編集後記といたします。

久保直彦

盛岡地区救急医療体制のあゆみ

2023

発行日 令和5年9月9日

発行者 盛岡市

盛岡市医師会

盛岡地区二次救急医療対策委員会

印刷所 (株) 杜陵印刷